モ或ハ水火ヲ用ヰ或ハ山野ニ委棄シテ猛獸ノ餌トナセリ又犯罪者已ニ死スルトキハ其傳記ニ對シテ裁判ノ言渡ヲ爲シ又犯罪者ノ財産ハ悉ク沒收シ其子亦父ノ罪ニ連坐セリ（思想ヲ罰シ、死者ヲ罰シ、全産ヲ沒シ、親族ヲ連坐セシムル等ノ處罰方法ニ注意セラルヘシ）

（三）近時國家ノ組織方法複雜トナルニ及ヒ國事犯罪ハ一轉シテ國家ノ存立ニ關スル種々ノ條件卽チ國家ノ安全ニ對スル危害罪トナリ天皇ノ一身ニ對スル罪ト竝立規定セラルヽニ至レリ

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス（舊刑法第百二十一條）

本條ハ內亂罪ヲ規定セルモノナリ

「政府ヲ顚覆シ」トハ暴力ヲ以テ內閣ヲ更迭シ或ハ根本ヨリ政府ヲ廢滅セシメ政体ノ變更乃至皇統ノ變更等ニ關スルコトヲ總稱スルモノナリ

「邦土ヲ僭竊シ」トハ帝國領土ノ全部又ハ一部ニ於テ帝國主權ノ權力ヲ遮斷スルコトヲ云ヒ換言スレハ國土ヲ橫領スルノ義ナリ

「朝憲ヲ紊亂ス」憲法ハ國家ノ基本的秩序ヲ定メタルモノナリ故ニ此語ハ憲法ヲ蹂躪スル各種ノ場合ヲモ含ム故ニ政府ヲ顚覆シ邦土ヲ僭竊シト云フハ皆ナ此例示ニ過キサルナリ

但シ國家ノ基本的秩序ハ獨リ憲法ノミノ定ムル所ニアラサルヲ以テ（皇室典範等モ亦之

ヲ定ム）如何ナル事項カ果シテ基本的秩序ニ關スルモノナルヤハ裁判官ノ認定スル所タリ勿論普通ノ秩序紊亂ハ此中ニ入ラストト知ラルヘシ

「目的トシテ」トハ或ル結果ヲ得ントノ希望ヲ以テノ義ニシテ茲ニハ暴動ノ遠因ヲ意味シ同時ニ暴動ノ嚮フ所ヲ示スモノナリ

「暴動」トハ多數合同シテ不法ノ腕力又ハ脅迫ヲ用フルコトヲ云フ但シ多數トハ必シモ其數ニ制限ナケレトモ其目的トノ關係ニ於テ相當人數ナルコトヲ要スヘシ又暴動トハ有形ノ動作ヲ指シ官吏カ朝憲ヲ紊亂スル目的ヲ以テ職權ヲ濫用シ不正ノ命令ヲ發シテ非違ノ行爲ヲ爲スコトアルモ其動作ニシテ暴行騷動ト云フヘキモノナラサレハ之ヲ內亂ト稱スヘカラス又暴動トハ必シモ官軍ニ抗敵シタルコトヲ必要トセス

「內亂ノ罪トナシ」舊法ハ單ニ內亂ノ語ヲ用ヰテ其意義ヲ示サス學者故ニ推理シテ內亂トハ內國戰爭、蜂起又ハ暴動等ヲ指スモノトナセルモ其意義明瞭ナラス是ヲ以テ本法ハ本條ニ於テ內亂トハ如何ナルモノヲ指スカヲ規定シ以テ立法上ノ便宜ヲ圖レリ

「首魁」トハ內亂ヲ企テ之ヲ決行シタルモノヲ云ヒ暴動ニ及ホシタル拏力ノ大小ハ之ヲ問ハス故ニ（一）自ラ內亂ヲ企テ他人ヲシテ之ヲ爲サシメタルモノ（二）自ラ企テス單ニ暴動ヲ爲シタルモノハ共ニ首魁ニアラス之ヲ以テ內亂ニ首魁ナキ場合無キニアラス卽チ企テタルモノ暴動セス暴動セルモノ企テタルモノナラサルトキ是ナリ

「謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタルモノ」「謀議ニ參與シタルモノ」トハ他人ノ企テタル內亂ノ謀議ニ與ルモノヲ謂ヒ單ニ暴動ノ豫備中ノミナラス着手後ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得但シ單ニ豫備中ノ謀議ニ參與ミタルニ止リ着手後ノ謀議ニ參與セサルモノハ次ノ第七十八條ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ本條ノ適用ヲ受クルコト無シ之ニ反シ群衆ノ指揮ヲ爲シタルモノトハ內亂ノ着手以後ニ於テ始メテ之ヲ云フヘキノミ

要スルニ內亂罪ヲ構成スルニハ

（一）朝憲紊亂ヲ目的トナシタルコト

之ヲ目的トセサルモノハ騷擾罪ノミ（第百六條參照）

（二）暴動ヲナシタルコト

暴動ヲ爲ササルモノハ第百七十八條ノ罪ヲ構成スルノミ

內亂罪ハ未遂ノ場合ト雖モ之ヲ罰ス但シ本條第二項ノ三ノ場合ハ其罪比較的輕ク其情亦惡ムヘキモノ少キヲ以テ此限リニ在ラストセリ「附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シ

タル者」トハ其内亂軍タルコトハ之ヲ知ルモ特ニ一定ノ目的ナク人ノ使嗾ニ乘シテ盲動シ或ハ指揮ヲ受ケテ雜役スル雇員、小使、軍夫等輕易ノ職ニ就事スル所謂下級ノ士卒、彌次馬連ノ如キヲ云フモノナリ

次ニ舊法ノ規定ニ關聯シテ一二ノ問題ヲ解決センニ

（一）朝憲ヲ紊亂セントスルニ當リテ人ヲ殺傷シタルモノハ内亂罪ヲ構成スルヤ

此問題ハ單ニ人ト云フモ次ノ三場合ニ分チテ之ヲ論セサル可カラス

（イ）普通人ニ對スル場合、此場合ハ内亂罪ヲ構成スルコトナク多クハ通常ノ殺人罪トナル何トナレハ普通人ヲ殺スカ如キハ之ヲ客觀的ニ論スレハ多クハ朝憲紊亂ノ目的ニ出ツルモノト認ム可カラス隨テ内亂行爲ト見ル可カラサルヲ以テナリ而シテ之ヲ殺人罪ノ方面ヨリ見ルモ犯人ノ目的ハ其罪質ヲ變スルノ理由タラサレハナリ

（ロ）之ニ反シ其存在死亡如何ハ以テ朝憲ノ亂否ニ重大ノ關係ヲ有スヘキ要路ノ人物（其在官者タルト在野ノ士タルトヲ問ハス）ニ對スル場合ハ内亂罪ヲ構成スヘシ

例ヘハ内亂ヲ起サントスル多數ノ暴徒カ暴動スルニ當リ漫リニ良民ヲ殺傷スルカ如キハ通常ノ殺傷ニ關スル罪ヲ以テ論スヘキモノナランモ樞機ニアル大臣ノ邸宅ヲ襲ウテ之ヲ斃スカ如キハ已ニ内亂行爲ニ從事セルモノト解ス可シ

（ハ）天皇若クハ皇族ニ對スル場合、其實際ニ於テハ内亂的行爲ト見ラル可キ場合多キモ已ニ前章ニ於テ說明セル如ク天皇以下ノ御身体ニ對スル罪ハ特別罪トシテ取扱ハルルヲ以テタトヘ朝憲紊亂ノ結果ヲ生スルコトアルモ本條ヲ適用スヘキモノニアラスシテ第七十三條第七十五條ノ規定ニヨリ罰スヘキモノトス

（二）前問ノ場合ニ於テ人ノ財物ヲ毀棄劫掠スルモノニ就テハ如何

（イ）私有財物ニ對スル場合、此場合モ亦前問（イ）ノ場合ト同シク内亂罪ヲ構成セス

（ロ）官有財物ニ對スル場合、更ニ之ヲ分チテ朝憲紊亂ニ密接ノ關係アル軍需品、文書經典等ニ對スル場合ト然ラサルモノニ對スル場合トスルトキハ後ノ場合ニ於テハ同シク本罪ヲ構成セス獨リ前者ニ對スル場合ニノミ之ヲ構成ス何トナレハ斯ル行爲ニ就テノミ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テスル暴動ト認メ得ヘキヲ以テナリ

但シ本條ノ罪ヲ構成セサル場合ニ於テモ第七十八條ニ所謂内亂ノ豫備ト認メラルル場合アリ隨テ數罪併合スルコトナキニアラサルコトヲ注意セラルヘシ

（三）已ニ内亂ニ着手シタル後普通人ヲ殺傷シ財物ヲ劫掠スル等ノ行爲アリタル時ハ如

何、

此等ノ場合ニ斯ル行爲ヲモ本內亂罪ニ牽連シ一內亂罪ニ吸收處罰サルヘキヤ或ハ獨立ノ一罪ヲ成スヤハ其行爲カ國際法規慣例上戰鬪行爲トシテ承認セラルル種ニ屬スルモノナルヤ否ヤヲ以テ決スヘキ者トス卽チ强姦ノ如キハ內亂罪ニ吸收セラル可キ者ニアラス尙ホ現今ノ國際法規慣例上戰鬪行爲ト看做サレサルモノニ付キ其大要ヲ述フレハ

第一、海上ニ於テハ艦長以下水兵ニ至ル戰鬪員及商船ノ水夫以外ノモノ例ヘハ僧侶新聞記者用達人等ヲ故ナク捕虜トナシ、或ハ漫リニ捕虜ヲ殺戮シ、敵國艦船ト雖モ手續ニ由ラスシテ之ヲ拿捕轟沈シ、若クハ沿岸漁獵船(但シ百噸以下ノモノ)學術慈善又ハ敎法ノ爲メニ航行スル船舶燈臺船病院船等ヲ襲ヒ、不法ニ海底電信ヲ切斷シ、防禦ナキ沿岸町村又ハ通商港ヲ攻擊スルカ如キハ大体ニ於テ禁止セラルル所ナリ、

第二、ニ陸上ニ於テハ交戰者ノ資格ヲ有スルモノ卽チ正規兵、民兵義勇兵地方防禦兵以外普通人民ニ對シテ劍戟ヲ揮ヒ、俘虜病傷兵醫員軍使等ヲ故ナク殺傷スルカ如キハ不可ナリ、次ニ財物ニ關シテハ軍用ニ供スヘカラサル敵國有動產、官廳ノ記錄、市町村ノ財產並ニ宗敎慈善敎育技藝及ヒ學術上設ケタル營造物ノ所屬財產、歷史上ノ紀念物技藝及ヒ學術上ノ製作品等ニシテ敵國公有ニ屬スルモノ、私有財產中直接軍用ニ供スルヲ得サルモノ等ヲ鹵獲シ、或ハ專ラ戰爭ノ目的ニ使用セラルル(例ヘハ兵營、武庫、軍艦、砲兵工廠、火藥製造所ノ如キ)モノ以外ノ物、病院學校社寺古跡紀念物博物館圖書館等ヲ破壞シ、又萬已ムヲ得サルノ理由ナキニ拘ラス民有家屋ヲ砲擊スルカ如キ亦禁止セラルル所ニシテ法外ノ徵發不法ノ占領亦此類ナリ

最後ニ害敵手段トシテ量目四百「グラム」以下ニシテ爆發性又ハ燒燃性ノ物質ヲ滿タル發射物、輕氣球ヨリノ爆發物ノ投下、外包硬固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若クハ其外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体內ニ入リ容易ニ分裂シ又ハ扁平トナルヘキ彈丸ノ使用、毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ノ使用、敵ノ國民又ハ軍ニ屬スルモノヲ欺罔ノ行爲ヲ以テ殺傷スルコト、兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段盡キテ降ヲ乞ヘル敵兵ヲ殺傷スルコト、助命セサルノ宣言ヲ爲スコト、無益ノ苦痛ヲ與フヘキ兵器彈丸其他ノ物質ヲ使用スルコト、濫リニ軍使旗國旗其他軍用ノ標章並ニ敵兵ノ制服及赤十字徽章ヲ使用スルコト等ハ皆禁止セラレシ所ナリ(聖比得堡宣言、一八六四年ノ赤十字條約、萬國國際法學會戰規提要、海牙平和會議最終決議書、海牙

宣言、海牙條約、巴里宣言、海上捕獲規程等參照）但シ近來戰器ノ進歩ト共ニ是等ノ協約中自然ニ廢滅ニ歸シ若クハ將來ニ於テ改修ヲ要スヘキモノアルノミナラス殊ニ第二回萬國平和會議ノ結果ハ更ニ影響スル所大ナルモノアラン

其詳細ハ之ヲ略ス

國事犯ニ死刑ヲ科スルノ可否

國事犯ニ死刑ヲ科スヘカラストスル論及其批評

（イ）我國ニ於テハ古來國事犯ヲ優待セリ、元來國事犯ハ衷心國家ヲ思フノ餘リニ出テ國ノ福利安寧ノ爲ニハ自家ノ身命ヲモ犧牲ニ供セントノ高尚ナル道義ノ觀念ヨリシテ茲ニ至リタルモノナルヲ以テ他ノ犯罪ニ比シ之ヲ優遇セリ是レ刑法カ特ニ國事犯ニ懲役ヨリモ名譽ヲ維持スヘキ刑卽チ禁錮ニ處スト規定シタル所以ナリ故ニ之ニ死刑ヲ加ヘントスルカ如キハ必要ニ過キタリ

然レトモ正當ニ成立セル政府國家ヲ轉覆セントスルカ如キハ假令未タ人命ヲ害セ財產ヲ毀壞スルニ至ラサル場合ト雖モ確ニ犯罪タル可キ要素卽チ行爲ノ不道德ト意思ノ不善トヲ具備セリトハ國事犯死刑廢止論ノ元祖トモ云フヘキ「ギゾー」氏スラ論セル所ナリ況ンヤ國事犯者ト雖モ果シテ一點私心ナキノ美情ニ出ツルモノアリヤ否ヤハ事實上ノ疑問ニ屬シ人生ノ弱點トシテ私心ヲ公情ノ下ニ隱シ或ハ私心公情兩存ノ場合ハ大部分ヲ占メタリ是レ歷史上已ニ明白ナルノミナラス現在ニ於テモ吾人ノ屢目擊感知スル所ナリ且ツ論者ハ由來我國ニ於テハ國事犯者ヲ優遇セリト云フモ歷史上決シテ此ノ如キ事實ナシ幕末受刑ノ志士カ却テ今日ニ於テ榮典ヲ受クルカ如キハ時ノ趨勢ニ本ク變象ノミ又國事犯ト他ノ犯罪トヲ區別シタルハ其罪種ヲ異ニスルカ故ニ別箇ノ取扱ヲ爲スノミ之ヲ優遇スルノ理由ニ出ツルモノニアラス

（ロ）國事犯ハ時代的若クハ地方的犯罪ナリ此國ニ於テハ犯罪ナルモ彼國ニ於テハ犯罪ナラス或ル時代ニ於テハ惡行タルモ他ノ時代ニ於テハ善行タリ然ルニ回復スヘカラサル死刑ヲ科スルハ酷ナリ

然レトモ極端ニ云ヘハ如何ナルモノト雖モ絕對的ナルモノハナシ親殺ノ如キ大罪ト雖モ歷史上是認セラレタル時代アリ多クノ犯罪ハ關係的若クハ時代的ニシテ賭博ニ關スル罪、決鬪罪、復讐ノ如キ現今ニ於テモ或ル國ハ之ヲ罰シ或ル國ハ之ヲ罰セス元來法律ハ時世ノ要求ナリ時ト處トニ由リテ其態樣ヲ變ス苟モアル時代アル國家ニ

於テ不法ナリトシテ非認セラルル行爲ヲ敢テスルモノアルカ如キハ當時ノ社會ニ及ホス禍害是ヨリ甚シキハナシ其禍害大ナルヘキモノニ對シテハ死ヲ以テ之ヲ刑スト雖モ何ソ妨クル所アラン

（八）現今ハ自由言論ノ世ノ中ナリ時ノ政府ノ施設ニ對スル誹難ハ何人ト雖モ時ニ有セサル能ハサル所ニシテ之ヲ發表スル亦固ヨリ是認セラルヽ所ナリ卽チ當路ノ政治家時ノ政府ニ對スル不平ヲ言論ヲ以テスレハ堂々タル反對論ナルニ拘ラス反對主張ノ爲メ是非ヲ辨別スルノ遑ナク其行動ヲ誤リ暴動ヲ敢テセシ場合ハ直ニ死ニ處セラルトスルハ極刑ニ過キタリ

然レトモ或ル範圍ニ於ケル言論ノ自由ハ法ノ許ス所ナレトモ暴動ハ其禁スル所ナリ之ヲ私法上ノ權務關係ニ付テ見ルモ債權者カ債務者ニ對シテ催告スルハ法ノ認ムル所ナレ共自カラ權力ヲ用ヰテ辨濟ヲ强制スルハ其罰スル所ナルカ如ク今日ノ國家ハ國內ニ於ケル凡テノ權力ヲ收徵シテ之ヲ自己ノ藥籠ニ納メ個人ヲシテ毫モ權力ヲ用ヰシメス是レ實ニ現今國家存在ノ最大理由ニシテ此理由ハ一日ト雖モ空ウス可カラス況ンヤ暴力ヲ用ヰテ國家存在ノ基礎ヲ危ウスルオヤ言論ヲ以テスレハ可ナルカ故ニ暴力ヲ以テセル場合ト雖モ諒スル所無カル可カラスト云フハ背理ノ論ナリ且ツ茲ニ內亂罪ト云フハ時ノ政府ノ政策ニ反對スルコトノミナラス本條ニモ揭ケタル如ク邦土ヲ僭竊シ朝憲紊亂ヲ計ルモノヲ含ミ所謂不忠不臣不俱戴天ノ徒ヲモ意味ス死ヲ以テ刑スル固ヨリ其所ナリ

且ツ法律ハ如何ナル場合ニ於テモ必ス常ニ罰スト云フニハアラス其犯意情狀ノ如何ニヨリ酌量減輕ノ餘地アルコト已ニ總則ニ於テ之ヲ述ヘタリ

要スルニ刑法上全ク死刑ヲ廢止スレハ則チ已ム苟モ之ヲ存スル以上ハ（死刑廢止ノ立法例ニ付キ總則ノ說明ヲ補充センニ、希臘ハ一千八百六十二年ニ「ルーマニヤ」ハ一千八百六十四年ニ葡萄牙ハ一千八百六十七年ニ和蘭ハ一千八百七十年ニ伊太利ハ一千八百八十九年ニ諾威ハ一千九百四年ニ瑞西聯邦諸州ノ大部聖マラン共和國「コスタリカ」共和國、「ヴエネスエラ」ハ一千九百三年廢止シ露國ハ國事犯ニ非レハ之ヲ適用セス又瑞典丁抹獨逸白耳義ノ諸國ニ於テハ法文ノ上ニ於テハ之ヲ存スルモ實際適用セルコト無シト云フ）內亂罪ノ如キ人ヲ殺シ家ヲ毀チ世ヲ騷カスコト此ヨリ甚シキモノ無キ罪ノ首魁ニ對シテハ之ヲ適用スルヲ可トス

第七十八條　内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス（舊刑法第百二十五條）

「豫備」トハ兵隊ヲ招募シ兵器金穀ヲ準備シ或ハ海陸ノ測量ヲ爲シ軍備ヲ調査スル等是ナリ但シ豫備ノ行爲ニシテ同時ニ他罪ヲ構成スル時ハ併合罪タルコト勿論ナリ例ヘハ海陸ノ測量ヲ爲スタメニ人ヲ殺スカ如シ

「陰謀」トハ多數人間ニ於テ内亂ヲ起サントノ企畫ヲナシ謀議スルヲ云ヒ内亂ノ目的ヨリ謂ヘハ未タ豫備ニ達セサルモノナリ

犯罪ノ豫備陰謀ハ之ヲ罰セサルヲ普通トスルモ本條ハ其危險大ナリトシテ之ヲ罰スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

第七十九條　兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス（舊刑法第百二十七條）

本條ハ内亂ノ着手以上ノ行爲、其豫備又ハ陰謀行爲ニ對スル幇助罪ヲ規定セルモノナリ

「其他ノ行爲」トハ兵器金穀ヲ支給スルト類似程度ノ效力ヲ内亂罪ニ及ホスカ如キ行爲ヲ云フ

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス（舊刑法第百二十六條）

本條ハ自首全免ヲ定メタルモノナリ即チ自首全免ノ特典ヲ受クルニハ

（イ）未タ暴動ニ至ラサル前

（ロ）自首

スルコトヲ要ス

本條ノ規定ト總則第四十二條トノ關係

未タ暴動ニ至ラサル前自首セハ本條ノ適用ヲ受ケテ全免セラルヽモ已ニ暴動ニ至リシ後自首セハ第四十二條ノ規定ニヨリ其刑ヲ減輕セラルヽモノナリ

本章ノ罪ハ第一章第三章ノ罪ト共ニ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ犯シタルモノニ之ヲ適用ス（刑法第二條）

第三章　外患ニ關スル罪

本章ノ罪ハ主トシテ戰時ニ於ケル帝國ノ利益ヲ保護センカ爲メ規定セラレタルモノナリ國事犯ヲ分チテ對內的及ヒ對外的トナサハ內亂罪ハ前者ヲ規定スルモノナリ更ニ對外的ヲ分チテ外患ニ關スル罪及ヒ國交ニ關スル罪ノ二トナス本章ハ前者ヲ規定シ第四章ハ後者ヲ規定セルモノナリ舊刑法ハ二者ヲ區別セス合セテ之ヲ外患ニ關スル罪トナセリ

第八十一條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス（舊刑法第百二十九條）

「外國」トハ帝國ノ版圖外ニ於テ特定ノ領土ト主權トヲ有スル人民ノ結合ヲ云フ、故ニ其國籍カ外國ニ屬スルモ當該外國政府ノ承認ナクシテ帝國ニ寇スル外國人及ヒ何レノ國籍ヲモ有セサル人民ハ玆ニ所謂外國ニアラス故ニ是等ノモノト通謀シ又ハ之ニ與スルモ本罪ヲ構成スルコトナシ但シ殺人强盜等他ノ罪ニ觸ルルコトアルヘキハ勿論ナリ

「帝國」トハ我大日本帝國ヲ指ス、蓋シ舊刑法ハ帝國ト云ハス「本國」ナル名辭ヲ用ヰタル結果トシテ本罪ノ主体ハ常ニ日本人ナルコトヲ要スルコトヲ間接ニ示スニ至リシ缺點アリキ然レトモ本罪ノ如キハ帝國ニ對スル重大ナル犯罪ナルヲ以テ日本人ハ勿論日本國內ニ在住スル外國人、場合ニヨリテハ外國ニ於ケル外國人ノ行爲ト雖モ處罰スル必要アルモノ多シ、故ニ新法ハ舊法ノ用語ヲ排斥シタリ

「戰端ヲ開カシメ」トハ戰爭ニ着手セシムルコトヲ云フ戰爭トハ國際法上ノ用語ナレハ一通リ之レカ性質ヲ說カン

戰爭トハ國家及ヒ交戰團体ノ間ニ公然兵力ヲ以テスル爭ナリ卽チ戰爭トハ單ニ國ナル團体ト他ノ國ナル團体又ハ交戰團体間ノ爭ニシテ個人間ノ爭ニアラス而シテ交戰團体トハ國際法上特別ナル意味ヲ有スルモノニシテ一國ノ叛徒其ノ母國ニ對シテ强大ナル反抗力ヲ有シ文明的ニ戰爭ヲ爲スノ能力ヲモ有シ其ノ上ニ一定ノ權力者ヲ有シ且一定ノ地域ヲ有スル場合ニ母國又ハ列國ニヨリテ戰鬪ヲ爲スノ資格アルモノト承認セラルルコトアリテ交戰團体トナルモノニシテ略言スレハ戰爭ノミニ關シテハ國家ト同一ノ資格ヲ有スル團体ナリ本條ニ所謂外國敵國トハアル場合ニ此交戰團体（同盟國又ハ自國ノ）タルコトアル可キハ注意スヘシ（參照(一)戰爭トハ力ニ由リテ爭フ所ノ當事者間ノ狀況又ハ有樣ナリ(二)戰爭トハ國家カ行フ强制的自助ニシテ平和ノ方法ヲ以テハ保全スル能ハサル權利ヲ維持スルタメニ行フモノナリ(三)戰爭トハ主權國カ兵器ニ依ル强力ヲ以テ其權利ヲ主張スルモノナリ）

「敵國」如何ニ不和ナルモ未タ敵對行爲ヲ爲スニ至ラサルモノハ之ヲ敵國ト稱スルコトヲ得ス而シテ敵對行爲ハ今日ノ國際法ニ依レハ宣戰ナクシテ實戰アリタルトキハ其實戰ニヨリ又實戰ナクシテ戰爭ノ宣告ノミアリシトキハ其宣告ニ因リテ開始スルモノトセラレ其宣告ハ一方ノミノモノニモ可ナリ、而シテ右ニ所謂實戰トハ何ナルヤニ付テハ(一)兩國ノ軍隊軍艦互ニ砲火ヲ開クコトヲ云フ(二)一國ノ軍隊他國ノ領土ニ侵入シ又ハ攻擊スルコトヲ云フ(三)兩國外交ノ紛爭漸ク困難トナリ遂ニ其外交關係ノ斷絶スル後ニ於テ一方ノ軍隊出發スルコトヲ云フ(四)兩國ノ外交紛爭斷絶シテ最後ノ通牒ヲ發シタルコトヲ云フ(五)一國ノ軍艦他方ノ商船ヲ拿捕スルコトヲ云フ(六)一國ノ軍艦カ相手國ノ公船ヲ拿捕スルコトヲ云フ等學說實例共ニ未タ相一致セス

是等ノ標準ニヨリ既ニ敵對行爲ノ開始セル外國ニアラサレハ敵國ト稱スルコトヲ得ス戰爭ニ由ラスシテ單ニ船舶抑留又ハ報復等ノ事實アリテ兩國ノ間非常ニ不和ナルニ至ルモ未タ互ニ敵國タリト云フ可カラス

「與シテ」合同シノ義ニシテ其意味廣汎ナリ身ヲ外國軍隊ニ投スルハ勿論之レト約束ヲ結ヒ共同連合シタル者モ亦此中ニ入ル

要スルニ本罪ヲ構成スルニハ

(一) 外國ニ通謀シ又ハ敵國ニ與スルコト

(二) 帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ帝國ニ抗敵スルコト

ノ二條件ヲ必要トシ帝國ノ戰時同盟國ナラサル他國ニ對スルモノハ本罪ヲ構成スルコトナシ但シ「外國ト通謀シテ帝國ヲシテ外國ニ對シ戰端ヲ開カシムルモノ」ニ就テ或學者ハ本罪ヲ構成セスト謂フモ之レ誤ナリ何トナレハ戰爭ハ双方的行爲ニシテ(事實上宣戰ハ一方ノミニ存シ若クハ一方ノ軍隊ノミカ他國ニ入リタル場合等アリトスルモ之ヲ兩國間ニ達觀スレハ戰爭テフ一ノ行爲ノ狀態ニ入リタルモノナリ)各相對シテ之ヲ爲スモノナレハ此場合モ仍ホ帝國ニ對シ戰端ヲ開キタル場合ノ中ニ含マシムルヲ可トス

第八十二條　要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無

期懲役ニ處ス（舊刑法第百三十條）

「建造物」トハ風雨ヲ凌クヘキ設備ヲ施シ地上ニ固定シタル工作物ヲ云フ舊法ニ所謂家屋ノ如キ其一例ナリ

「交附」トハ所持ヲ移轉スルコトヲ云フ

本條ノ罪ハ多クノ場合ニ於テハ通常人之ヲ犯スコトヲ得ス軍人ニアラサレハ犯シ難シトスル所ナリ而カモ軍人之ヲ犯ストキハ却ツテ特別法タル陸海軍刑法ノ之ニ關スル條項ヲ適用セラルヽモノトス（舊陸軍刑法第五十三條、第五十四條、第五十八條、第五十九條、第六十一條、舊海軍刑法第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條、第六十五條參照）

仍ホ本法ト軍律トノ關係ヲ述ヘンニ本章ノ如キハ文辭上多少其趣ヲ異ニスレトモ軍律ニ於テモ同シク之ヲ罰スル明文多シ、軍人軍屬ニシテ是等ノ罪ヲ犯ストキハ第一ニ軍律ヲ適用シ若シ軍律ニ規定ナクシテ本法ニ適用アルトキハ本法ヲ適用ス普通人ノ場合ハ之レニ反シ當時ニ於テハ軍律ヲ適用セラルヽコトナシ只敵前、軍中、臨戰地、合圍地ニ在リテハ直ニ軍律ノ適用ヲ受ク

本條ノ罪ハ次ノ第八十三條ノ如ク「敵國ヲ利スル爲メ」ナル行爲ノ理由ヲ指示スルコトナキヲ以テ其目的如何ハ之ヲ問ハサルナリ

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

「損壞」トハ物質的損害ニシテ必シモ其物自身ノ效用ヲ失ハシメタルト否トヲ問ハス

「使用スルコト能ハサルニ」トハ單ニ使用スルコト能ハサルヲ以テ足ル有形的損害ヲ及ホシタルヤ否ヤハ要件ニアラス

本條ノ罪ハ特ニ其原因ヲ明ニシテ居ルヲ以テ帝國ヲ利スル爲メ又ハ敵國ヲ害スルタメ若クハ敵國ナラサル他國ヲ利スルタメニ爲シタルモノナルトキハ本罪ヲ構成スルコトナシ

第八十四條　帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條　敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ（舊刑法第百三十一條）

「間諜」トハ一方交戰國ノ策戰地帶ニ入リ反對ノ一方ニ通知スル目的ヲ以テ陰密ニ行動シ又ハ虛妄ノ口實ヲ構ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若クハ收集セントスルモノヲ云フ（陸戰ノ法規慣例ニ關スル海牙條約第二十九條參照）

斥候トノ差　假裝セサル軍人ニシテ情報ヲ收集センカ爲メ敵軍ノ策戰地帶內ニ侵入シタルモノハ間諜ニアラス斥候偵察ナリ、國際法ノ用語上此二者ハ其意義ヲ異ニスレトモ本法ニ所謂間諜ハ此二者ヲ包含スルモノト解スルヲ可トス

又軍人タルト否トヲ問ハス自國ノ軍又ハ敵國ノ軍ニ宛テタル信書ヲ傳達スルカ爲メ（所謂密使）及ヒ總テ一軍又ハ一地方ノ各部間ノ連絡ヲ通スル爲メ輕氣球ニテ派遣セラレタル者（所謂輕氣球乘）ノ如キモ亦間諜ニアラス

間諜ニハ俘虜タル待遇ヲ與ヘス但シ其處分ハ往々慘酷ニ過クルノ弊アルヲ以テ現今ニテハ裁判所ニ於テ判決ヲ與フル迄ハ之ヲ處分スルコトヲ得サルコト、ナレリ（戰時國際法ニ關スル諸協約參照）

「漏泄」トハ通知ノ意ナリ蓋シ其通知事項ハ元來敵國ノ知リ得ヘカラサルモノニ屬スル秘密若クハ機密ナルヲ以テ特ニ漏泄ノ字ヲ用ヰタルノミ

但シ平時ニ於テ軍事上ノ機密ヲ探リ或ハ之ヲ洩シ又戰時ニ於テモ中立國ノ爲メニ之ヲ探洩スルモノハ軍機保護法（明治三十二年法律第百四號）又ハ要塞地帶法（明治三十二年法律第百五號）ノ制裁ヲ受クルモノナリ

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

「同盟國」ニ二種アリ戰時同盟國及ヒ非戰同盟國是ナリ非戰同盟國トハ平時ニ於テ通商、郵便其他ノ同盟條約ニヨリ相提携シテ平和的手段ノ榮達ニ從事スルモノヲ云ヒ玆ニ所謂戰時同盟國トハ戰時ニ當リ攻守ヲ共ニスル國ニシテ(一)共同シテ戰フ國タルト(二)帝國ヲ援助スル國タルト又ハ主戰國タルト(三)或ハ帝國カ援助スル主戰外國ノ從戰國タルトハ固ヨリ問フ所ナキナリ、故ニ帝國ニ關スル軍事上ノ利害關係ヨリ云ヘハ其帝國ニ對スルモノタルト其帝國ノ同盟國ニ對スルモノタルト其結果ニ於テ大差ナシ是レ新法カ特ニ一條ヲ設ケテ概括的ニ本章ノ規定ヲ戰時同盟國ニ對スル行爲ニモ適用セシ所以ナリ但シ此點ニ於テハ舊法ノ精神ト異ナル所ナシ

第四章　國交ニ關スル罪

舊刑法ハ私ニ戰端ヲ開ク罪(第百三十三條)局外中立ニ違犯シタル罪(第百三十四條)ノ二ヲ掲ケ之ヲ外患ニ關スル罪ノ中ニ規定セリ蓋シ此ノ如キ行爲ハ以テ外患ヲ誘起スル原因タルヘキ虞アルヲ以テナリ然レトモ一國ノ外國ニ對スル關係ハ單ニ外患ノ場合ノミニ限ラス今日ノ如ク國際關係ノ密接ナル時代ニ於テハ國際法ヲ破リ國際禮讓ニ背キ若クハ列國ノ和親ヲ害シ以テ善隣ノ交ヲ傷クルカ如キ行爲ハ一括シテ之ヲ規定スルコトヲ要ス新法ノ國交ニ關スル罪卽チ是ナリ國交ニ關スル犯罪ノ規定方ニ付キ諸國ノ立法例各其軌ヲ同ウセス或ハ被害者ヲ外國ノ君主、攝政、大統領ニ限ルアリ或ハ其使節ニモ及ホスアリ或ハ外國ヲ單ニ修好國ニ限ルアリ又犯罪行爲ヲ侮辱ノミニ限ルアリ殺傷ニモ及ホスアリ必シモ行爲ヲ限定セサルモノアリ我刑法ハ本章ニ於テ外國又ハ外國ノ君主大統領使節ニ對スル侮辱又ハ暴行脅迫罪、外國ニ對シテ私戰ノ豫備陰謀ヲナス罪及ヒ局外中立命令ニ違反スル罪等ヲ規定セリ

國交ニ關スル罪ノ刑ヲ規定スルニ三方法アリ

(一)　君主ニ對スル大逆罪ヲ標準トシテ少シク輕ク刑ヲ定メ自國ニ對スル大逆罪ノ行爲ヲ外國ノ君主ニ對シテ犯シタルトキハ云々ノ刑ニ處スト云フ如ク規定スルモノ(例ヘハ獨逸ノ如キ)

(二)　單ニ通常ノ刑ヲ加重スルモノ

(三)　全ク特別ノ規定ヲ設クルモノ

甲　相互條件ニ因リ外國ニ於テ自國ノ君主ニ對スル犯罪ヲ罰スルト同一ニ罰スルコト（相互主義）

乙　外國カ我ニ對シテ何等ノ特例ヲ設ケサルモ我ニ於テハ全ク公平ナル國交上ノ觀念ヨリ規定ヲ設クルモノ（世界主義）

新法ハ原則トシテ（三）ノ乙ヲ採用セリ但シ外國ノ皇族ニ對シテハ何等ノ特例ヲ設ケス蓋シ外國ノ我ニ對スル特例ト權衡ヲ得セシメンカ爲メニ殊更之ヲ避ケタルモノニシテ此點ニ於テハ甲說ヲ採用セルモノト云フヘシ

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

「君主」トハ君主國、「大統領」トハ共和國ノ統治權ヲ總攬スルモノヲ指ス

「暴行」トハ物ニ對スルト人ニ對スルトヲ問ハス總テ不正ニ腕力ヲ用フルコトヲ意味スルノ語ナレトモ我刑法ニ云フ所ノ暴行ハ「反抗ヲ抑壓スルタメ人ノ身體ニ對シテ用フル不法ノ腕力」ヲ云フ但シ

（一）廣ク暴行ト云ヘハ人ヲ毆打スルコト、疾病創傷ニ至ラシムルコト、殺害スルコト等總テ之ヲ含ム然レトモ我刑法ノ用例ニ依レハ比較的輕キ暴行ノ義ニシテ（但シ抑壓力アル腕力タルヲ要スルカ故ニ單ニ毛髮ニ觸レ衣袂ニ接スルカ如キハ之ヲ含マス）疾病死亡等ノ結果ヲ生スルモノハ之ヲ除外シ是等ニ關シテハ特別ノ規定アリ

（二）アル反抗ハ現ニ存スルコトヲノミ必要トセス反抗アルヘシト豫想シテナス腕力モ亦暴行ナリ

（三）人ノ身体ニ對スルモノナルコトヲ要スルモ必スシモ直接ナルコトヲ必要トセス苟モ人ニ對スル目的タランカ間接タリト雖モ可ナリ例ヘハ騎者ヲ仆サンカ爲ニ其馬ヲ射、室內ノ人ヲ苦シメンカ爲メニ其戶扉ヲ閉チ、水泳セル裸体美人ノ衣裳ヲ隱シテ其上陸ヲ羞チ困窮セシムルカ如キ皆ナ暴行タルヲ失ハス

以上ハ間接ニ物ニ對スル例ナレトモ第三者ニ對スル場合モ亦然リ例ヘハ母親ヲ苦シメンカ爲メ其子ヲ困ムルカ如キ是ナリ

「脅迫」ニ二義アリ(一)ハ單純脅迫又ハ輕脅迫ト稱シ眼ヲ瞋ラシ手足ヲ張リ人ヲシテ輕キ恐怖ヲ生セシムルカ如キヲ云ヒ(二)ハ實体的脅迫又ハ重脅迫ト稱シ人ヲシテ害ヲ受ケントノ切迫セル恐怖心ヲ惹起セシメ爲メニ精神ノ反抗ヲ抑壓スヘキ程度ニ達シタルモノヲ云フ卽チ白刃ヲ揮ツテ人ノ頭上ニ擬スルカ如キ是ナリ

刑法ニ於テハ如何ナル意味ニ從ヘルヤヲ考フルニ一面暴行ト對立セシメ他面「恐喝」(第二百四十九條)ナル用語ヲ採リシニ照セハ後ノ義ニ依レルモノノ如シ

脅迫ノ手段トシテ害ヲ加フル方法ハ脅迫者カ眞ニ之ヲ加ヘントスル意思アルト否トヲ論セス又自ラ手ヲ下ストト否トヲ問ハス又被脅迫者ニ對スル直接ノモノタルト間接ノモノタルトヲ分タス苟クモ人ヲシテ害ヲ受ケントノ畏怖心ヲ抱カシムルモノタラハ足レリ尙ホ第二百四十九條ノ說明ヲ參照セラルヘシ

「滯在」在留時日ノ長短ヲ問ハス又在留ノ目的カ公用タルト私用タルトヲ論セス

「侮辱」トハ罵詈嘲笑惡事醜行摘發等ニシテ人ノ品格又ハ尊嚴ヲ毀損スヘキ行爲ヲ云ヒ

(一)　其言語タルト舉動タルト文書圖畫タルトヲ問ハス

(二)　事實タルト虛僞タルトヲ問ハス

(三)　其席ニ第三者ノアリタルト否トヲ問ハス

具体的ニ如何ナルモノカ侮辱ナルカハ言ヒ難シ卽チ當事者ノ身分ニ應シ其時ノ狀況ニ應シ人ヲ輕蔑セリト認メラルヘキ事實上ノ判斷ニ依ラサル可カラス尙ホ第三十四章ノ說明ヲ參照シテ研究セラレタシ

事實ヲ摘發セル場合ニモナホ侮辱罪ヲ認ムルノ可否(第三十四章ノ說明參照)

本章ノ罪ノ特色ハ「請求ヲ待テ其罪ヲ論ス」トセシコト是ナリ蓋シ此種ノ犯罪ハ常人ニ對スル誹毀罪(第三十四章參照)ニモ比スヘキモノニシテ其被害者ノ意思如何ニ拘ラス之ヲ罰ストスルハ却テ被害者ノ迷惑タルニ至ルコト多シ其之ヲ「告訴」ト云ハスシテ「請求」ト云ヘル所以ハ事外國政府又ハ外國使節ニ當レルヲ以テ告訴ノ手續ニ依ルトスルノ適法ナラサルモノアレハナリ

已述ノ如ク親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ成立ニ必要ナル實体的條件ニ非スシテ其訴追ヲ被害者ノ意思ニ係ラシムル形式的條件ニ外ナラス從テ或犯罪事件カ其起訴ノ當時效力ヲ保有セル訴訟手續ニ遵據シテ適法ニ裁判所ニ繫屬シタル以上ハ爾後法律ノ改正ニ依リ其犯罪ヲ親告罪ト爲スモ之カ爲メ起訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナキモノトス(四

十一年十二月三日大審院判例）

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

「使節」トハ苟クモ其國家ノ命ニ依リ職務ヲ帶ヒテ派遣セラレタルモノハ總テ之ヲ含ム官吏ニアラサルモ可私用ノ爲ニ來レルモノハ之ヲ含マス但シ國家ヲ代表スル資格アルモノタルト否トヲ問ハス又帝國ニ派遣セラレタル使節ナルコトヲ要スルカ故ニ第三國ニ派遣セラレタル使節カ赴任又ハ歸國ノ途次遊歷觀光等ノ目的ヲ以テ帝國ニ滯在スルモノハ之ヲ含マサル趣意ナリ

使節ニ二種アリ常住ノモノト臨時必要アル場合ニ派遣スルモノト是ナリ公使ノ如キハ前者ニ屬シ特ニ或ル儀式ナトノ際派遣サレタルモノハ後者ニ屬ス次ニ最モ普通ナル使節ノ種類ニ付キ大略之ヲ述ヘン

公使トハ國際交通上ノ機關ニシテ本國ヲ代表シ國家的行動ヲ以テ其職務トナスモノヲ云フ其種類左ノ如シ

（イ）全權大使、全權公使ト其職務ニ於テ差ナシ只儀式上ノ階級ヲ異ニスルノミ沿革上ヨリハ二者ノ區別ヲナスコトヲ得レトモ現今ニ於テハ本質上ノ差ナシ

（ロ）特命全權公使、特別事項ノ爲メニ派遣セラルヽモノニノミ限ラスシテ普通ハ任國ニ駐劄シ外交ニ關スル諸般ノ事務ヲ處理スルモノヲ云フ

（ハ）辨理公使、職務ノ範圍ニ付テハ特命全權公使ト異ル所ナキモ元來國家ヲ代表スルノ資格ヲ有セス各事項ニ付キ本國ノ君主又ハ政府ヲ代表スルモノニシテ普通全權公使ノアラサル外國ニ對シテ派遣セラルヽモノナリ

（ニ）代理公使、分チテ二トス

（一）代理公使、職務上ノ範圍ハ他ノ公使ト異ナルコトナシ唯其任命ニ關シテハ外務大臣ヨリ駐劄國ノ外務大臣ニ宛テ之ヲ照會ス

（二）臨時代理公使、普通公使ノ不在中特ニ任命セラルヽモノナリ

羅馬法王ノ使者ナル所謂レゲーション及ヒナンシャウーハ使節ニ入ルヤ否ヤ理論ヲ貫

徹スレハ法王ハ自己ノ所領ハ之ヲ有スレトモ畢竟スル所羅馬舊教寺院ノ主宰者タルニ過キス從ツテ君主若クハ大統領ニアラス然レトモ沿革上一種ノ尊嚴ト勢威トヲ有シ其使節ハ一國ノ使節ト同一視セラルヽコト國際禮讓上ノ通義タリ故ニ之ヲモ含ムトスルヲ穩當ナリトス

（注意）外國ノ使節ヲ解スルニ二說ノ生シウル餘地アリ卽チ

（一）其本國ヲ代表スル資格ヲ以テ外國ニ滯在スルモノトスル說（公使若クハ政府代表ノ外交官、一時的公使等ノミヲ指ス）

此說ハ國際法上ノ根據モアリ且ツ國交ニ關スル罪ハ特別規定ナルカ故ニ狹キニ隨ツテ解釋スルコト正當ナルカ故ニ此說ヲ以テ理論上最モ可ナリトスヘキカ如シ

然レトモ使節ヲ廣ク解スルトキハ（二）假令外國其者ヲ代表セストモ公然其國務ヲ帶ヒテ我國ニ滯在シ若クハ來レルモノナレハ則チ其國ノ使節ト云フモ不可ナシトスル說ハ寧ロ實際ニ於テ適切ナルノミナラス國交ノ圓滿ヲ目的ヲ達スルニ便利ナリトス故ニ余ハ暫ク疑ヲ存シツヽ說明ハ第二ノ說ニヨリ之ヲ爲セリ

ナホ參事官、書記官、外交官補等モ一定ノ國家事務ヲ帶ヒテ派遣セラレタルモノナルヲ以テ之ヲ使節中ニ包含セシムルヲ可トス

次ニ領事トハ一國通商上ノ機關ニシテ本國政府ノ委任ヲ受ケ本國及ヒ本國臣民ノ利益ヲ保護スルノ任務ヲ負フモノナリ

其種類左ノ如シ

甲、（イ）名譽領事、任國臣民又ハ在留第三國臣民ヲ以テ之ニ當ラシムルモノナリ

（ロ）普通領事、本國臣民ヨリ之ヲ任スルモノナリ

乙、（イ）總領事、總括シテ事務ヲ擔任シ自己ノ區域內ニ存スル本國ノ領事副領事等ヲ管轄ス

（ロ）領事、一開港場ノ事務ヲ分擔ス

（ハ）副領事、領事ノ職務ヲ補助ス

（ニ）代理領事、領事事故アリテ任務ヲ處スル能ハサルトキ臨時ニ任命セラルヽモノニシテ任命ノ權ハ總領事又ハ領事ニアリ

我國ノ領事官官制（明治三十二年六月勅令第二百八十號）ニ依レハ領事官補ヲ認メテ代理領事ナルモノヲ措カス

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

「國旗」トハ國章ヲ附シタル國家ノ旗幟ヲ云フ

「國章」トハ國家ヲ表章スヘキ一種ノ徽章ニシテ其國號ヲ表明スルタメ公使館ノ門等ニ掛ケ置ク類ノ如キヲ云フ例ヘハ英國公使館ノ門ニ附セル烏形ノモノ、如キ卽チ是ナリトス

獨逸帝國刑法第百三條ハ「惡意ヲ以テ外國官廳ノ公ノ徽章又ハ外國ノ國章ヲ奪取シ破棄シ汚損シ又ハ之ヲ凌辱シタル者」トシ又第百三十五條ニ「帝國又ハ聯邦國君主ノ官廳ノ公ノ徽章又ハ聯邦國ノ國章ヲ奪取シ破棄シ汚損シ又ハ之ヲ凌辱シタル者」ト規定セリ斯ク法文上ハ國章ト徽章トヲ分チタレトモ學者ノ見解必スシモ相一致セス或ハ二者全ク同一ナリトシ(リスト)或ハ公ノ徽章トハ自國國民ニ對スル關係ヲ表示スル紋章ニシテ例ヘハ裁判所、稅務署ノ紋章ノ如ク國章トハ外國ニ對スル關係ヲ表示スルモノニシテ公使館領事館ノ紋章ノ如キヲ云フ(オルスハウゼン)等ノ類是ナリ

「損壞」トハ物質的損害ヲ加フルコトヲ云フ必スシモ其用ヲ失ハシムルコトヲ要セス

「除去」トハ相當位置ニアルモノヲ不相當位置ニ動カスコトヲ云フ

「汚穢」トハ物自身ニ特質的損害ヲ加ヘサルモ他ノモノヲ塗布又ハ附着セシムル侵害方法ヲ指ス

本條ノ罪ヲ構成スルニハ

(一)　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的アリ

(二)　本條記載ノ行爲アルコトヲ要ス

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ隱謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス(舊刑法第百三十三條)

「私ニ」トハ政府ノ命令又ハ許可ニ由ラサルコトヲ云フ

「戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ」舊刑法ニ於テハ「私ニ戰鬪ヲ開キタル者」トアリシヲ以テ戰爭テ

フ行爲ノ實行ニ着手シタルノ義ナルヤ或ハ戰爭其者ノ一部ヲ行ヒタルノ義ナルヤノ疑問ヲ生シタリシカ新法ノ如クニ規定セハ其疑問ヲ存セス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第百三十四條）

「局外中立」トハ單ニ交戰國双方ニ對シテ不公平ノ對遇ヲ爲サヽルノミナラス凡ソ戰爭行爲ニ關シテ如何ナル補助ヲモ双方ニ與ヘサルコトヲ云フ

昔時ニ於テハ不完全中立ト稱シテ條約ノ結果ニヨリ幾分カ局外中立ノ完全ヲ缺キタルモノヲモ認メタリシカ現今ニ於テハ然ラス、蓋シ不完全中立ナルモノハ局外中立ノ根本タル不偏主義ニ背馳シ國際法ニ違反スルモノナレハナリ

局外中立ハ曾ツテ國際的ニ之ヲ宣言スルヲ例トシタリシカ現今ハ然ラス兩國ノ間ニ開戰アリタル時ハ第三國ハ同時ニ中立義務ヲ負フモノナリ

「局外中立ニ關スル命令」局外中立ノ地位ニ立チタル國家ハ種々ノ中立ノ義務ヲ負ヒ其義務ヲ圓滿ニ守持センカ爲メ國家自身ハ勿論其臣民ノ行動ヲモ抑制シテ國家ノ中立義務ヲ危ウスルカ如キコト無カラシメンコトヲ勉メ種々ノ規定ヲ設ケテ之ヲ國中ニ公布シ臣民ヲシテ之ニ遵據セシム本條ノ命令卽チ是ナリ、何トナレハ國家カ單ニ局外中立ノ地位ニ立ツコトヲ示スモ其如何ナル臣民ノ所爲カ之ヲ危ウスルニ足ルモノナルヤ否ヤヲ明ニセサレハ臣民ハ（一）悉ク國際法ノ內容ヲ知ルモノニアラサルノミナラス（二）中立義務ニ關スル國際法ノ原則ハ或ル顯著ナル場合ヲ除カハ不明ナル點多キヲ以テ適從スル所ヲ知ラサレハナリ

（參照）

局外中立義務ノ大要ヲ擧クレハ（但シ國ニヨリ例外アルモノモアリ）

甲、中立國家ノ積極的義務

（イ）　交戰國軍隊其領土內ヲ通過スルトキハ中立國ハ直チニ其武裝ヲ解カシメ之ヲ留置スルコトヲ要ス、但シ病傷兵ニ付テハ必スシモ斯ル處置ヲ執ラスシテ可ナリ

（ロ）　交戰國軍艦ヲシテ二十四時間以上中立國港ニ留マラシムルコトヲ得ス又一方交戰國ノ艦船出帆後他交戰國軍艦ヲシテ二十四時間內ニ出帆セシムルコトヲ得ス

（ハ）　領內ニテ戰鬪行爲ヲ爲サシムヘカラス

（ニ）　領域ヲ交戰國ノ作戰根據地タラシム可カラス

（ホ）領域內ニ於テ交戰國ヲシテ遠征軍ヲ準備セシム可カラス

（ヘ）領域ニテ交戰國ヲシテ兵員ヲ募集セシム可カラス

（ト）領內ニ交戰國ノ捕獲審檢所ヲ設ケシム可カラス

（チ）領內ニ於テ交戰國ヲシテ軍艦又ハ軍用船ノ艤裝ヲ爲サシム可カラス

乙、中立國家ノ消極的義務

（イ）陸海軍ノ援助ヲナス可カラス

（ロ）軍艦軍器其他ノ軍需品ヲ供給セシム可カラス

（ロ）軍資ヲ供給ス可カラス

丙、中立國臣民ノ行爲ニ就テ

（イ）中立國人民カ交戰國ノ軍隊ニ就役スルモ國際法上ノ犯罪ニハアラス交戰國ハ之ヲ相手方交戰國ノ戰鬪員ト同一ニ看做スノミ又交戰國ハ中立國個人ノ任意的ニ就役スルヲ受クルノ自由ヲ有セリ、但シ中立人民本國ノ中立維持ニ對シテ及ホスヘキ危險ノ責任ハ其國法ニヨリ之ヲ負フモノナリ第九十四條ノ如キハ此一例ナリ

（ロ）中立國民カ苟モ適當ナル利子ヲ附シ專ラ營利的ニ交戰國ノ公債ニ應スルハ違法ナラス

（ハ）中立國人戰時禁制品ヲ交戰國ニ輸送スルトキハ沒收セラル

（ニ）交戰國カ海岸ニ近キ敵國ノ一部分ニ於テ其海岸ニ到達スヘキ總テノ船舶ノ通行ヲ障礙スルタメニ兵力ヲ置キタルモノ所謂封鎖ヲ破リタル中立國人ハ交戰國ニヨリ捕獲セラレ船舶貨物ハ之ヲ沒收セラル

（ホ）中立國人左ノ如キ行爲アリタルトキハ交戰國ニヨリ其船舶ヲ拿捕又ハ沒收セラレ且ツ其身モ捕縛セラル、コトアリ

（一）船舶書類ヲ備ヘス又ハ故意ニ之ヲ毀棄シ陰匿シ又ハ虛僞ノ船舶書類ヲ提供シタルコト

（二）敵國ノ軍用ノタメ艤裝シタルコト

（三）敵國ヲ利スルタメ偵察ヲ爲シ又ハ情報ヲ傳ヘ其他明ラカニ敵ヲ幇助スル行動アリタルコト

（四）臨檢搜索ニ抵抗シタルコト

（五）敵國軍艦ノ護送ヲ受ケテ航行シタルコト

ナホ詳細ハ高橋、秋山等諸氏ノ著書ニ付キ研究セラレタシ

本章ノ規定ハ之ヲ外國人ニモ適用スルコトヲ得ルカ

曰ク日本ニ在留セサル外國人ニ對シテハ其適用ナキコト勿論ナレトモ本邦在留ノ外國人ノ爲セル行爲ニ對シテハ總テ其適用アリト信ス世間或ハ反對論ヲ主張スルモノナキニアラサランモ凡ソ一國ノ刑法ハ特別ノ例外ナキ限リハ其施行地内ニ於テハ絶對ノ效力ヲ有シ外國人ト雖モ之ニ服從セサル能ハサルナリ但シ條約其他ノ方法ニヨリ除外スル理由アル塲合ハ此限ニ在ラス、特ニ本章ノ罪ハ國際關係ノ圓滿ヲ期スルタメニ設ケラレタルモノニシテ犯人假令外國々籍ヲ有スルモノナリトスルモ苟クモ帝國領土内ニ於テ公然犯行ヲ爲シテ罰セラレサルカ如キハ帝國ノ信用ヲ國際ニ保ツ所以ニアラス之ヲ罰スルコト寔ニ當然ノコトナリトス

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

本章ハ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ヲ規定セリ沿革上此問題ノ始メテ提起セラレシハ「ローマ」法ノ下ニ於テ司税官吏ノ場合ニ存セリ同時ニ凡テノ官吏ニ適用セラレ近世ニ至リテ更ニ公吏其他ノ公務員ニモ廣ク及ホスコトトナリ本法亦是ニ從ヘリ

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ（舊刑法第百三十九條）

第一項

「公務員」トハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ云フ（刑法第七條）

「職務ヲ執行スルニ當リ」トハ職務執行中ナルコトヲ要ス卽チ少クトモ着手以上ニ進ミタルモノタルヘシ

「暴行、脅迫」前章ノ說明ヲ參照セラルヘシ

第一項ノ罪ノ構成條件トシテ

（一）公務員ノ職務執行中ナルコトヲ要ス

例ヘハ稅務官吏カ一私人ノ帳簿ヲ檢査シ執達吏カ判決ニ依リ强制執行ヲ爲シ或ハ豫審判事カ刑事訴訟法ニ依リ家宅ヲ搜索スルカ如キ是ナリ「職務」トハ法令執行行爲、職權裁量行爲、上官ノ命令ニヨル行爲及ヒ法令ニヨリ獲得セル權限ニ關スル行爲等皆之ヲ含ム職務執行ノ際ニ於ケル公務員其者ハ如何ニ薄給微祿ノ小吏ト雖モ其資格ハ實ニ堂々タル國權發動ノ輔助機關ニシテ其執行行爲ハ直接間接ニ國家ノ榮辱浮沈ト相牽聯ス是レ法カ特ニ之ヲ保護スル所以ナリ故ニ其職務ヨリ離レ居ル際ハ尋常一樣ノ私人ニシテ其場合ニ於テハ特ニ法ノ保護ヲ受ク可キモノニアラス

（二）一私人カ公務員ニ對スルコトヲ要ス

（イ）公務員ニ對スルコトヲ要ス

但シ公務員ノ身体ノミニ限ラス其財産又ハ其妻子親戚等ニ關スル暴行脅迫ト雖モ爲メニ公務員ノ反抗ヲ抑壓シ畏怖セシムルモノハ皆之ヲ含ム

（ロ）犯人一私人ナルコトヲ要ス

法文ハ特ニ之ヲ明示セスト雖モ事理當然ノ結果ニシテ公務執行ノ妨害ハ不正ノ妨害ナレハ其妨害ハ公權ノ執行權ヲ有セサルモノノ行爲ナルヘキコト明白ナリ故ニ例ヘハ二人ノ稅務官吏同時ニ或犯則者ニ對シ法定ノ處置ヲ執ルニ當リ職務ノ競爭上一人カ他ノ一人ニ對シテ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シタリトスルモ是レ職務ノ執行者其人カ職務ニ熱心ナルノ餘リ他ヲ排セントセルニ過キス故ニ本條ノ罪ヲ構成スルコトナシ、但シ官廳內部ノ規定ニヨリ懲戒譴責等ノ制裁アルヤ否ヤハ別問ナリ、然レトモ前述ノ公權ノ執行權ヲ有セサルモノトハ必スシモ公務員タル資格ヲ有スル者以外ノモノノミニ限ラス假令公務員ト雖モ例ヘハ被處分者カ自己ノ親戚ナリトノ理由ニ因リ稅務官吏カ他稅務官吏ヲシテ其職務ヲ執行セサラシメンカ爲メ之ニ暴行脅迫シ若クハ自己カ職務ヲ執行スル爲メナラスシテ徒ニ他ノモノノ職務執行中ナルニ暴行脅迫ヲ加フル場合ノ如キハ一私人タル資格ニ於テセルモノト見ラル可ク從テ本條ノ罪ヲ構成スルコト勿論ナリ

（三）暴行脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス

但シ公務員之カ爲メニ其執行ヲ止メタルト否トヲ問ハス

前章ニモ述ヘタル如ク暴行ハ身体ノ反抗ヲ抑壓スヘキモノ脅迫ハ畏怖ヲ生セシメ從テ

精神ノ反抗ヲ抑壓スルニ足ルモノナルヲ以テ單ニ歌謠ヲ以テ讒謗シ眼ヲ瞋ラシテ睥ムカ如キヲ含マス但シ或ハ戸扉ヲ閉シテ其出入ヲ拒ミ或ハ官吏ノ侵入セル倉中ニ烟ヲ送リテ事ヲ執ルニ難カラシムルカ如キハ之ヲ含ムモノトス

暴行者ハ執行ヲ受クヘキ人ニアラサルモ可ナリ

何人ト雖モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ妨害シタル者ハ官吏抗拒ノ罪アルモノトシテ刑法第百三十九條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ係リ其妨害ヲ爲シタル者ノ執行ヲ受クヘキ人タルト其以外ノ第三者タルトハ之ヲ問フノ要ナシ何トナレハ同條ハ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スルノ罪ニ對シ刑罰ノ制裁ヲ付シタルモノニ外ナラスシテ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スルノ所爲ハ何人モ爲シ得ヘキモノニシテ官吏カ其職務ヲ執行スル對手人ニアラサレハ爲シ得ヘカラサル性質ノモノニアラサルヲ以テナリ（明治三十五年三月二十四日大審院判例）

抗拒ハ直接ナルト間接ナルトヲ問ハス

刑法第百三十九條ニ所謂暴行ハ必シモ官吏ノ身体ニ對シ直接ニ之ヲ加フルコトヲ要セス官吏其職務ヲ執行スルニ當リ苟モ暴行ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタルトキハ直接タルト間接タルトヲ問ハス官吏ノ職務執行妨害罪ヲ構成ス故ニ原判決ニ認ムル如ク被告兩名共謀ノ上寺岡稅務屬ノ職務執行ヲ妨害スルタメ同人カ其職務上被告方ノ德利ヲ取上ケ其内容物ニ付訊問スル際腕力ヲ以テ之ヲ奪取リ剩ヘ之ヲ破碎シテ其職務執行ヲ妨害シタル以上ハ暴行ヲ以テ其職務執行ヲ妨害シタルモノナルヲ以テ其罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス（明治三十七年七月五日判例）

（四）職務執行中ナラハ足ル特ニ其職務ニ對スルコトヲ要セス

公務員ヲ保護スルコトノ廣キニヨリ啻ニ其職務ニ對スルノミナラス職務執行中ナラハ公務員其人ニ對スルモノト雖モ可ナリ蓋シ公務員其人ニ對スル暴行ハ直ニ延イテ職務執行ノ妨害トナルコト多キノミナラス斯ル廣汎ナル保護ヲ與フルニアラスンハ公務員ハ安ンシテ其職務ヲ執行スルコト能ハサレハナリ故ニ假令職務ヲ妨害スルカ爲ニアラスト雖モ職務執行中ノ公務員ニ對シテ暴行ヲ加フルモノハ本條ノ罪ヲ構成スルコト明ラカナリ

之ニ就キ曾テ衆議院ニ於テ討議ノ際反對說アリ曰ク

第一項ニ「之ヲ妨害センカ爲メ」ノ數字ヲ加フヘシ、何トナレハ本條ノ如キハ官尊民卑

ノ遺物ニシテ公權力ノ執行タル職務ヲ妨害スル爲ナラサルニナホ公務員ヲ保護セントスルモノナリ公務員ナルカ爲メ殊ニ普通人ニ對スル暴行脅迫ヨリ重ク罰スト云フハ必要ニ過キタリ殊ニ是等ノ公務員ハ多クハ下級者ニシテ稅務吏、稅關吏、山林監守、憲兵、執達吏等ノ如キモノヽミ故ニ原案ノ如キ規定ハ徒ラニ小官吏ヲ跋扈セシムルノミ修正スルヲ可ナリトスト

然レトモ余輩ハ寧ロ堂々タル衆議院ニ於テ斯ル妄論ヲ聞クヲ怪ム、論者ノ如キハ公權執行ノ意義、公務員ノ性質ヲ知ラス、執行者其人ヲ保護スルニアラスンハ如何ニシテ公權ノ執行ヲ全ウスルヲ得ン、一稅務屬ト一國ノ次官トハ其國權發動ノ補助機關タル點ニ於テ果シテ何ノ異ナル所カアル、小官吏ナルカ故ニ特ニ保護スルノ必要ナシト云フカ如キハ實ニ一嗤ニモ値セサル愚說ナリトス

第二項

「處分」トハ特定ノ人ニ對シ特定ノ法律關係ヲ定ムル權力的活動ヲ云フ法令執行處分ト職權裁量處分トアリ

第一項ニ付テハ行爲ノ目的ヲ制限セサリシモ（前述ノ如ク）第二項ニ於テハ左ノ如キ制限アリ

（一）或處分ヲ爲サシムル爲ナルコト（例ヘハ差押ヲナサヽラシム）

（二）若クハ或處分ヲ爲サヽラシムルタメナルコト（檢事ヲシテ或事件ヲ不起訴ニセシム）

（三）又ハ其職ヲ辭セシムル爲ナルコト

ヲ要ス但シ必シモ公務員カ之ヲ遂ケタルコトヲ要セス

ナホ第九十六條ニモ關聯シテ二三ノ說明ヲ附加センニ

（一）執行公務員ノ補助トシテ働ク雇傭人（法令ニヨリ公務ニ從事スルモノナラサル）ニハ本條ノ適用アリヤ、

此場合ノ雇人ハ公務員ニアラス然レトモ他方ニ於テハ執行員ノ手足タルヘキモノナルカ故ニ職務執行中ニアル公務員ノ雇人ニ對スル暴行脅迫ハ延イテ公務員ニ對スルモノトナリ本條ノ罪ヲ構成スルコトヽナル

（二）舊法ニハ職務妨害罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從ツテ處斷ス

トアレトモ新法ニ於テハ大体ニ於テ科刑ノ範圍ヲ廣クシタルヲ以テ殊ニ其必要ナシ

(三) 本條ノ規定ハ日本ニアル外國ノ公務員ニモ適用アリヤ

外國ノ公務員ハ假令日本ニアリテ日本臣民ニ對シ其職務ヲ執行スル場合アリトスルモ(斯ル場合ハ現今殆ント無シ)本來外國公務員ノ如キハ公法ノ關係ニ於テ所謂日本ノ公務員ニアラス故ニ適用ナシトスルヲ可トス之ニ反シ若シ外國人ニシテ日本ノ公務員タルモノアラハ之ニ對シテハ其適用アルコト勿論ナリトス

(四) 公務員ノ職務執行ハ正當ナルコトヲ要スルヤ

本問ハ古來有名ナルモノニシテ實際上甚タ困難ナル事項ニ屬ス余ハ之ヲ左ノ二場合ニ分チテ論斷ヲ試ミントス

甲、法令又ハ執行手續ノ形式ニ於テ正當ナラサル場合

公務員其職務ヲ執行スルニ當リテハ法令ニ遵據シ規定ノ手續ヲ履行スル義務アルモノニシテ之レ寔ニ公權發動ノ形式タリ、コノ形式ニ依ラサルモノハ實ハ公權ノ發動ニアラス、公務員ハ公權發動ノ機關ナルカ故ニ苟クモ其爲ス所公權ノ發動ト稱スヘカラサルモノナランカ之レ已ニ其職務ヲ離レタルモノナリ、其職務ヲ離レタルモノハ名ハ公務員ト稱ス

ト雖モ實ハ尋常ノ一私人タリ、否ナ寧ロ公權濫用ノ罪人タリ、隨テ之ニ對スル暴行脅迫ハ啻ニ本條ノ罪ヲ構成セサルノミナラス或ル場合ニ於テハ正當防禦ノ行爲タリ故ニ此點ニ於テ職務執行ハ適法ナルコトヲ要ス例ヘハ司法警察官令狀ヲ有セス若クハ之ヲ有スルモ示サスシテ漫ニ非現行犯人ヲ逮捕セントシ若クハ郡長カ間接國稅犯則者處分法第一條第二條ニヨリ差押、搜索ヲ爲サントスルカ如キハ固ヨリ本條ノ保護ヲ受クヘキモノニアラス

乙、法令ノ實質又ハ微細ナル手續ニ於テ正當ナラサル場合

公務員ハ一ノ機械ニアラス活勢ヲ有セル一種ノ人格者ナリ故ニ法令ヲ解釋シ法令ノ範圍內ニ於テ自由活動ヲナス能力ヲ存ス、法令ノ定ムル大体ノ準則ヲ度トシ其限內ニ於ケル自由心證ヲ以テ活動スルモノナリ、或ハ曰ク「法令ハ國家ノ意思ナリ官吏法令ニ反スルノ行爲ハ國家ノ意思ニ反セルモノナルカ故ニ之ヲ國家若クハ其機關ト稱スルコトヲ得ス一私人トシテノ行爲ト云ハサル可カラス」ト、然レトモ是レ形式ト實質トヲ混淆セル論ナリ形式ニ於テハ論者ノ言ノ如クナルコト余カ已ニ甲ノ場合ニ述ヘタル所ナリ只實質ニ於テハ斯クノ如ク容易ニ論スルコトヲ得ス何トナレハ法令ハ眞ニ國家ノ意思ナランモ其

實質ニ亘リテ各特定ノ場合ノ活動ヲモ定ムルコト能ハス、此特定ノ活動ハ之ヲ各官吏ノ裁量ニ任ス是ヲ以テ國家ノ法令タル意思ト特定ノ活動タル意思トハ必スシモ常ニ相一致スルモノト斷スルコトヲ得ス、其相一致スヘキコトハ國家ノ希望スル所ナランモ其必期スル所ニアラス又必期スルコト能ハサル所ナリ例ヘハ國家ハ國稅徵收法ニ於テ滯納者ノ財產ヲ差押フヘキコトヲ命スルモ其果シテ滯納者ノ財產タルヤ否ヤノ認定ハ之ヲ當局官吏ノ自由裁量ニ任セタリ故ニ當局官吏カ滯納者ノ財產ナリト認定セルモノモ實際ニ於テハ第三者ノ財產タル場合タルコト無キヲ保セス此場合ノ差押ハ明カニ法ノ意思ト相反ス而モ法ハ已ニ斯ル場合モ時ニ無キ能ハサルコトヲ豫想スルモノニシテ又豫想セサル能ハサル所ナリ此場合ニ國家カ其處分ヲ取消サハ則チ已ム苟モ取消サヽル以上ハ國家權力ノ發動トシテ何等ノ疑ナキモノナリ（但シ如此ハ只對外關係ニ於テ之ヲ云フノミ對內關係ニ於テハ認定ノ誤謬若クハ認定ノ拙劣テフ理由ニヨリ當局官吏ニ對スル批判アルヘキコト勿論ナランモ之ハ固ヨリ別問ニ屬ス）若シ特定ノ場合ノ箇々ノ活動カ其實質ニ於テ法ノ意思ニ反セリトノ理由ニヨリ之ヲ公權ノ發動ニアラス一私人ノ不正行爲ナリトナサハ如此場合ノ處分ニ對シテ被處分者ニ反抗ノ權ヲ與ヘ或ハ口實ヲ不正行爲ト云フニ藉リ公權ノ執行ヲ免レント欲スルニ至ラシメ國家ハ實際ニ於テ何等ノ活動ヲモ爲スコト能ハス

是レ寧ロ國家ノ自殺ナリ、故ニ曰ク實質上ノ不適法行爲モ亦國家ノ行爲トシテ公權ノ發動ナリ其執行官吏ハ依然本條ノ保護ヲ受ク可キモノタリ見ヨ今ノ世、一方ニ於テ嚴規細律ヲ以テ一公務員ノ行動ヲ羈束スルアリ他方ニ於テハ訴願アリ行政訴訟アリ司法訴訟アリテ救濟ヲ求ムルノ道備レリ何ヲ苦ンテ一私人ヲシテ公務員職務執行ノ適否ヲ爭ヒ之ヲ暴力ニ訴フルノ餘地アラシムルカ如キ解釋ヲ採ルノ要アランヤ

微細ナル手續ニ違反セル場合亦同シ、微細ナル手續ハ公務員ト雖モ往々誤ナキヲ得ス若シ之ヲ理由トシテ一私人ニ抗拒ノ權アリトナサハ職務ノ執行ハ遂ニ望ム可ラス故ニ斯ル手續ニ違背セル場合ト雖モナホ公務員タル資格ニ於テ公權ヲ發動セルモノタルコトヲ失ハス、本條ノ適用ヲ受クルモノナリ、例ヘハ稅務署長法令ヲ執行スルニ當リ其所轄稅務監督局ノ定ムル規則ニノミ違背セリトスルモ其執行ハ外部ニ對シテ欠點ナキ公權ノ發動ナリ（內部ノ責任ハ固ヨリ論外トシテ）之ニ對シ一私人タル資格ヲ有スルモノ暴行脅迫ヲ加フルトキハ本條ノ罪ヲ構成スヘシ

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第三章第八節）

舊刑法ハ第三章第八節ニ於テ「官ノ封印ヲ破毀スル罪」ト題シ殊ニ一節ヲ設ケシモ官封破毀モ亦職務執行ヲ妨害スル一場合ニ過キサルヲ以テ新法ハ前條ノ罪ト合一規定スルコトトシタリ、元來行政、司法其他ノ公務ニ關シテ各種ノ職務ヲ執行スルニ當リ物ノ保全ヲ必要トスル場合ニ於テ一々保管人ヲ附シ或ハ官署ニ保管スルハ今日ノ如キ事務繁劇ナル時ニ際シ實行シ得ヘカラサル所ナルノミナラス勞多クシテ效少ナク寧ロ一片ノ紙布ニ法律上重大ナル效力ヲ附シテ以テ其目的ヲ達スルヲ可ナリトス、封印破棄罪ハ佛國共和當時ノ創設ニ係リ文明諸國ノ皆ナ採用セル所ナリ蓋シ其當ヲ得タルモノナリ

「封印」トハ特ニ或財團若クハ證據物件ノ散逸湮滅ヲ防キ又ハ秘密ヲ維持センカ爲メ法令ノ規定ニヨリ施ス所ノ封印ヲ云ヒ普通家屋倉庫等ヲ閉鎖スル爲メ施シタル鎖鑰ノ類ヲ含マス或ハ差押表示ノ一手段タリ（民事訴訟法第五百六十六條、國稅徵收法第二十二條、間接國稅犯則者處分法施行規則第二條等是ナリ或ハ財產管理ノ一手段タリ公證人規則第五十八條、非訟事件手續法第四十六條等是ナリ）

「差押」トハ法令ニ依リ公權ヲ以テ所有者、占有者、所持者若クハ第三者ニ對シ特定ノ支配關係ヲ抑制スル作用ニシテ公法又ハ私法上ノ權利又ハ處分ノ實行ヲ保障スルモノナリ。

本罪ヲ構成スルニハ、

（一）公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルコト

公務員カ法令ヲ執行スル爲メ其權限ヲ以テナセルモノニ限ル一私人ノ爲セルモノ又ハ公務員其權限ヲ超越シテ爲セルモノハ含マス、職務ヲ以テ爲セルモノナルトキハ實際上假リニ其必要ナカリシトスルモ可ナリ、封印又ハ差押ノ標示カ其後ニ至リ實際其必要ナキニ至レリトスルモ他者濫リニ之ヲ解除スルコトヲ得ス、又封印、標示ノ物質並ニ形式如何ヲ問ハス

（二）損壞シタルコト

其他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタルコト

損壞セハ無效ナラシメサルモ本罪ヲ構成ス

或ル場合ニ於テハ損壞セサルモ無效ナラシメ以テ其使用其他ノ自由處分ヲナスコトヲ得ヘシ、其場合ニモ亦本罪ヲ構成ス例ヘハ船舶ニ封印ヲ施シタル場合ニ之ヲ損壞セスシテ使用シタルモノノ如キ是ナリ苟クモ封印ヲ無效ナラシムルノ一手段タラハ足レリ

舊刑法ハ單ニ破棄ト規定スルヲ以テ破棄セスシテ之ヲ處分スルモノヲ罰スヘキヤ否ヤハ疑問ナリキ或ハ封印ハ一時其處分ヲ停止スルモノナルヲ以テ封印其者ヲ破棄セサルモ其處分ヲナシタルモノハ封印ヲ破棄セルモノニ同シトシ或ハ封印ハ一部ニ存スルモ全体ヲシテ其處分ヲ停止セシムル裝置ナリ故ニ一部ノ封印其者ヲ破棄セス其儘全部ノ處分ヲ爲シタルモノハ封印ノ一部ヲ破棄セルモノナリト解釋セルモ共ニ法理上嚴正ナル解釋ニアラス故ニ新法ハ之ヲ明カニセリ

又舊法ハ單ニ破棄シタル者ト云ヒ「其種類ニ應シ物ノ用ヲ失フ程度ノ物質的損害」ヲノミ見タルヲ以テ新法ヲ解釋スルニ當リテモ「損壞其他ノ方法ヲ以テ無效ナラシメタル者」トナシ「無效ナラシメサレハ損壞スト雖モ本罪ヲ構成セス」トスル說ナキニアラサランモ余ハ一方ニ於テ封印ヲ破棄セサルモ破棄ノ虞アルニ至ラシメタルモノハ之ヲ罰スル必要アリト信シ他方ニ於テハ本條ノ記載文辭ニ於テ損壞ト無效トヲ對立セシメタルモノト考フルヲ以テ此說ニ反對ス

（參照）

公務員侮辱罪存否論

舊刑法ハ其第百四十一條ニ於テ

官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シト規定シテ重キ体刑ヲ課スルコトトナシ

又新刑法草案ニ於テハ其第九十六條ニ於テ

公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮辱ヲ加ヘ又ハ其面前ニ非スト雖モ公然其職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス公務所ニ對シ公然侮辱ヲ加ヘタル者亦同シ

ト規定シ輕キ財產刑ヲ加フルコトトセシカ帝國議會ノ議ニ於テ遂ニ全然删除セラレタリ

余輩ハ其理由ヲ解スルニ苦ム、

廢止論及其批評

廢止論ニモ種々アリ逐次之ヲ掲ケテ批評セン

甲、第二百三十一條ニ於テ一般ニ侮辱罪ヲ認ムルヲ以テ殊ニ公務員ニ付テハ重ク罰セス普通侮辱罪ヲ適用スルヲ以テ足ル普通人ト公務員トノ間ニ差異ヲ設クルハ何人モ法律ノ前ニ平等ナリトノ原則ニ反ス

然レトモ何人モ法律ノ前ニ平等ナリトハ一般的原則ノミ特別ノ事情ノ下ニアルモノニ付テハ何レノ國ト雖モ例外ヲ設ケサルハナシ刑法ニ於テモ獨リ此條文ニノミ限ラサルコト識者ヲ俟ツテ後知ルヘキニアラス、況ンヤ本罪ヲ認ムル眞ノ精神ハ公權ノ執行ヲ全カラシムル一ノ方法ノミ若シ一私人ニシテ妄ニ公務員ヲ云々スルカ如クンハ法律命令ノ運用ニ障礙ヲ來ス場合少ナカラサルヘシ普通人ト特殊ノ狀態ニアリテ動モスレハ其公務ノ執行ニ當リ俗人ノ罵詈讒謗ヲ招キ易キ地位ニアルモノニ對シテハ特殊ノ待遇ヲ與フヘキコト寧ロ理ノ當然ナリトス

乙、今日ノ如ク人智ノ進歩セル時ニ於テハ公務員ノ職務執行ニ對シ侮辱スルモノナシ本罪ヲ認ムルカ如キハ官尊民卑ノ遺體ノミ却ツテ人民ヲシテ怨情ヲ挾マシム今日果シテ然ルヤ否ヤハ事實問題ナレトモ余輩ハ確ニ公務員ヲ侮辱スルカ如キ愚人ノ不幸ニシテ甚タ多キヲ認ム公務員ノ職務ヲ執行スルヤ當ニ人民ノ意ニ適スルモノ尠キノミナラス却テ其怨嗟ヲ惹起スルモノアリ是レ誠ニ可悲現象ナレトモ情理合シ難ク智愚一ナラサルヲ奈何セン、殊ニ稅務、警察等ニ於テ著シキヲ見ル官尊民卑ハ不可ナリト雖モ官吏ノ職務ニ對スル相當ノ待遇ハ之ヲ認メサル可カラス

丙、公務員侮辱罪ヲ全然廢止スルハ不可ナレトモ事實ヲ擧示シテ其惡德ヲ鳴ラス場合ハ之ヲ無罪トス可シ

此論旨ハ可ナリ然レトモ我國ノ現狀ニ照ストキハ之ヲ不可ナリトセサル可カラス若シ眞ニ非行アリトセハ普通法上ノ制裁ハ勿論官吏法等ノ上ニ於テモ特別ノ制裁方法アリ公官ノ風紀ハ公官ニ於テ之ヲ保維スル方法アリ特ニ一私人ノ容喙ヲ俟タサルナリ若シ一私人ノ容喙ヲ許ストセハ其弊計ル可カラサルニ至ラン或ハ虛事ヲ揑造シ或ハ私行ヲ發キ針小棒大衆愚雷同シテ公私ノ秩序ヲ攪亂スルコト大ナルヘキナリ

丁、獨逸刑法ハ特ニ公務員ノ侮辱罪ヲ認メス

我ニハ我ノ理由アリ必スシモ彼ノ類ヲ學フノ要ナシ善惡共ニ西人ノ迹ヲ追ハントスルハ惡イ僻ナリ

本罪ノ沿革

第一期

苟モ官吏タル身分アル者ニ對シテ侮辱スレハ直ニ罪トナリ且ツ官吏ノ地位ノ如何ニヨリ刑ニ輕重アリ但シ大体ニ於テ非常ニ重刑(死刑スラアリタリ)ヲ科セラル

第二期

官吏タル身分アル者ニ對スルニアラスシテ官吏ノ職務ニ對シテハ罪ハ成立ストノ思想ニ因レリ刑モ亦餘リ重カラス

第三期

凡テノ官吏ハ其地位階級如何ヲ問ハス一律ノ侮辱罪ヲ構成スルコトトナレリ

第四期

官吏ノミナラス公吏其他ノ公務員ニモ適用セラル

斯ノ如ク時勢ノ進化人智ノ發達ト共ニ幾多ノ變態ヲ示セリ然レトモ之ヲ全廢スルカ如キハ公德ノ極メテ昂進セル時代ヲ俟タサルヘカラス、空論家多キ獨逸カ之ヲ廢シタルハ形式學ノ弊ナリ帝國議會カ之ヲ刪除シタルハ果シテ誰ノ德ソヤ

第六章　逃走ノ罪

舊法ハ第二編第三章第三節ニ於テ「囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪」ト題シ犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ場合ヲモ同節ノ下ニ規定セリ蓋シ共ニ司法權ノ執行ヲ妨阻スル特性ヲ有スル者ナレハナリ　新法ハ是等ニ關シ稍詳細ノ規定ヲ設ケ更ニ之ヲ二章ニ分チ本章ニ逃走罪ヲ規定セリ第九十七條ハ單純逃走第九十八條ハ複雜逃走第九十九條ハ被拘禁者ノ奪取第百條ハ逃走輔助罪第百一條ハ監督職責者ノ所爲ニヨル逃走第百二條ハ以上諸罪ノ未遂ノ場合ヲ規定セリ

第九十七條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑法第百四十二條第一項、第百四十四條)

「既決囚」トハ刑ノ執行ノ爲メ身体ノ自由ヲ奪ハレ當該法令執行者ノ監督ノ下ニ在ルモノヲ云フ

「未決囚」トハ犯罪ノ嫌疑ノ爲メ身体ノ自由ヲ奪ハレ當該法令執行者ノ監督ノ下ニ在ルモノヲ云フ

「逃走」トハ法令ノ執行上囚徒ヲ監督スル者ノ監督區域ヲ脱出スルコトヲ云フ故ニ必スシモ獄内ヨリ獄外ニ脱出スルコトノミヲ指スニアラス又必シモ作爲ノミニ限ラス歸ルヘキ義務アルモノ歸ラサル時亦然リ(監獄法第二十二條)

ナホ本條ヲ分析説明スレハ

(一) 外役先ヨリモ逃走スルコトアリ

(二) 一旦入監シタルコトヲモ必要トセス例ヘハ刑事訴訟法第五十八條ニ依リ司法警察官カ犯人ヲ逮捕シタルトキハ其犯人ハ已ニ茲ニ所謂未決囚ナリ

(三) 脱出トハ當該監督官吏ノ實力ノ外ニ出ツルコトヲ云フ

(四) 竊ニ拘禁セラレタル建造物ヲ出ツルトキハ其境域ニ存スル外障外ニ逃レシコトヲ云フ

(五) 遁レントスルモ監督者ノ追跡ヲ受ケ居ル間ハ未タ實力ノ外ニ出ラシモノナラサルヲ以テ逃走セリト云フコト能ハス

(六) 一裁判所ノ發シタル拘引狀ヲ以テ他裁判所ニ傳達スル效果ナシ故ニ其途中逃走スルモ茲ニ所謂逃走罪トナラス

(七) 保護責付ノ許可ヲ得テ拘禁サレサルモノハ何處ニ逃走スルモ本罪ヲ構成スルコトナシ

(八) 勞役場ニ留置サレタルモノハ留置處分ヲ受ケ居ルモノニシテ未決、既決ノ囚徒ニアラス其逃走ハ固ヨリ本罪ヲ構成セサルモ之ニ關スル取締ハ他ニ設ケラルヘキモノトス

(九) 舊刑法ハ未決、既決ノ囚徒ヲ區別シテ規定セルモ新法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ此間ニ於テ適宜二者ノ輕重ヲ定ムルコトヽセリ

(十) 既決囚其刑期内逃走シ逃走罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ二者ノ刑中重キヲ先ニシ輕キヲ後ニス例ヘハ五年ノ刑ニ處セラレタル囚人ノ逃走罪一年ニ該ルトキハ前ノ五年ノ執行ヲ終リシ後更ニ一年刑ノ執行ヲ受クルナリ

單純逃走處罰ノ可否

現ニ獨逸刑法ノ如キハ之ヲ罰セス今消極論ノ要旨ヲ左ニ列記シ之ヲ略評セン

(一) 刑罰ハ一ノ制裁ナリ其執行ヲ完カラシメンカ爲メ更ニ又制裁ヲ課スルハ二重制裁ナリ

然レトモ一犯罪行爲ニ對シテ一制裁アルハ刑法ノ原則ナリ假令一人ニテモ數回罪トナルヘキ行爲ヲ爲サハ數回ノ處罰ヲ受クヘキコト勿論ナリ本問ノ場合ニ於テモ或ル罪ノ爲メニ獄舍ニ投セラレタルモノ更ニ逃走テフ行爲ヲ爲シタルモノニシテ之ニ對スル刑罰ハ決シテ重複制裁トナル可キモノニアラス

(二) 凡ソ自由ヲ拘束セラル、モノ之ヲ脱セントスルハ人性ノ本然ナリ故ニ第九十八條ノ如ク暴力ヲ使用セルナトノ事實ナクンハ之ヲ罰セサルヲ適當トス

正當ナル自由ハ何人モ之ヲ享有スル權利ヲ有スレトモ已ニ自己ノ行爲ニヨリ其自由ヲ束縛シタルモノハ其期間不自由ヲ忍フ義務ヲ有スルモノナリ此義務ニ反クモノニ對シテ制裁アルコト當然ナリ人性ノ本然ニ出ツルノ理由ヲ以テ或ル行爲ヲ無罪トスルカ如キハ危險極マル說ナリ

(三) 官吏ハ公權ノ執行ヲ全カラシムルノ義務ヲ有スレトモ一般人民ハ之ヲ妨ケストノ消極義務ヲ有スルノミ進ンテ之ヲ全カラシムルノ積極的義務ナシ故ニ因人モシ暴行ヲ用ヰテ逃走スルトキハ此消極義務ニ反クモノトシテ罰セラル、コト正當ナランモ間隙ニ乘シテ逃走シタル場合ノ如キハ何等ノ義務ニ反ク所アルモノニアラス

因人ハ公權ノ執行ニ對シ受命者トシテ之ニ服從スル義務ヲ負フモノニシテ此義務ニ背クハ則チ公權ノ執行ヲ妨ク可カラサル消極義務ニ違フモノナリ故ニ(三)說亦誤レリ

(四) 因人隙ヲ窺テ逃走シ得ルハ國家カ其最大權力ニヨリ刑罰ヲ强行スル能ハサルノ結果ニシテ因人固ヨリ罪ナシ

(五) 監獄ノ設備ヲ完全ニシ監督者ノ取締ヲ嚴重ニスレハ別ニ刑罰トシテ逃走ヲ制裁シ之ヲ豫防セサルモ可ナリ

然レトモ人間ハ萬能ニアラス事實上ノ不可能ハ如何トモス可カラス今日如何ナル文明國ニ在リテモ總テノ逃走ヲ豫防シウル程度ニ完備セル監獄若クハ監督官吏ハ存セサルナリ

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ

逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊刑法第百四十二條第二項、第百四十五條）

「拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者」トハ刑事訴訟法第百十八條第二項、第三項、第四項ノ場合ヲ云フ卽チ

第二項、豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直ニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第三項、若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外二倍ノ罰金ヲ言渡スヘシ又拘引狀ヲ發スルコトヲ得

第四項、豫備、後備ノ軍籍ニアラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑托シ之ヲ爲ス可シ其拘引ニ付テモ亦同シ

若シ犯罪ノ嫌疑アル爲ニ拘引狀ノ執行ヲ受ケタルモノナルトキハ直ニ是レ未決囚ナリ

前條ハ單純ナル逃走ノ場合ナルニ反シ本條ハ複雜逃走ノ場合ヲ定メタリ卽チ次ノ三場合是ナリ

（一）拘禁場又ハ械具ヲ損壞シタルコト

拘禁場トハ拘禁セラルル場所ヲ云ヒ建造物タルト否トヲ問ハス但シ損壞シ得ル程度ノ設備ナカルヘカラス

械具トハ既決若クハ未決ノ囚ヲ保全スル爲メニ使用スル器械、器具ヲ云フ

（二）暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト

爲シト加ヘ（第七十三條、第七十四條、第九十條等）トハ其意義異レリ加ヘトハ對手人ノアル場合ニ爲シハ特ニ對手人ナキ場合ニ漠然ト使用セルモノナリ

（三）二人以上通謀シタルコト

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊刑法第百四十七條）

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下

ノ懲役ニ處ス（舊刑法第百四十六條）

「法令ニ因リ拘禁セラレタル者」トハ既決、未決ノ囚徒ニ比シ其範圍廣ク勞役場ニ留置セラルル者、精神病者看護法ニ依リ感化院ニ拘禁セラレタルモノ其他苟クモ法令ノ規定スル所ニ因リ其自由ヲ拘束セラレタル者ハ悉ク之ヲ含ム、是等ハ悉ク囚徒ニハアラサルモ法カ特ニ拘禁ノ必要ヲ認メタルモノナルヲ以テ或ハ之ヲ奪取シ或ハ之ヲ逃走セシメタルモノヲ罰スヘキコト當然ナリ但シ如此犯罪ニ於テハ其犯情ニ輕重ノ差大ナルヘキヲ以テ科刑ノ範圍ヲ廣クシタリ例ヘハ司法官試補カ地方裁判所檢事ノ代理トシテ發シタル拘留狀ニヨリテ拘禁セラレタル場合ハ本條ノ適用ナシ、私人ニ逮捕サレタルモノ若クハ法令ノ規定上居所ノ制限ヲ受ケタル兵卒、娼妓ノ如キ亦然リ（監獄法第二十二條ヲモ參照スヘシ）

本條ノ罪ハ其形從犯ノ如クナルモ主犯ナキノ點ニ於テ顯著ナル差異アリ

本條ノ罪ヲ構成スルニハ被拘禁者ニ於テ逃走ヲ爲シタルト否トヲ問ハス却テ逃走ヲ肯ンセサリシ場合ト雖モ可ナリ

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス（舊刑法第百四十八條）

「看守スル者」トハ所謂看手ト稱セラルルモノノミナラス職務上被拘禁者ヲ監督スル者ヲ云フ

「護送スル者」看守スルモノハ假令護送スルモ此中ニ含マス護送トハ監護押送スルコトヲ云フ

看守シ又ハ護送スル者ヨリ法律上一時契約ヲ以テ被拘禁者ノ委託ヲ受ケタル者ヲモ含ムヤ　積極說ヲ可トス

舊刑法ハ其第百五十條ニ於テ看守又ハ護送者ノ懈怠ニ因ル場合ヲ規定セルモ故意ナキニ之ヲ罰スルハ必要ニ過キ職務上ノ懈怠ニ付テハ他ノ方法ヲ以テ制裁スル道アル可シ

本條ノ罪及其未遂罪ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國ノ公務員ニモ適用セラル（刑法第四條）

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第百四十九條）

本章ノ罪ハ所謂事後從犯ノ一ニ屬シ犯罪庇陰罪ノ一種ナリ犯罪庇陰罪ニ二種アリ一ハ有形的ニシテ本章ノ罪ノ如キヲ云ヒ他ハ無形的ニシテ僞證罪ノ如キヲ云フ　但シ犯人ト題スレトモ必スシモ犯人ノミニ限ラス第百三條ニ「拘禁中逃走シタル者」ヲモ規定スルヲ以テ其意味甚タ廣ク精神病者、惡少年、留置處分ヲ受クル者等皆之ヲ含ム、題名ハ只其大体ニ從ヒタルノミ

第百三條ハ犯人藏匿ヲ規定シ第百四條ハ證憑湮滅ヲ規定セリ元來犯罪ノ庇陰ニ二種アリ一ヲ人的庇陰ト云ヒ犯人ヲシテ處刑ヲ免レシムル手段ヲ講スルコト是ナリ二ヲ物的庇陰ト云ヒ犯人カ犯罪ニヨリテ得タル利益ヲ保全セントスルコト是ナリ前者ハ國權ノ作用ニ對シ本章ノ規定スル所ナリ後者ハ財產ニ對スル罪ノ一種ナリ第三十九章ハ之ヲ規定スルモノナリ

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第百五十一條）

本罪ノ被害物件ハ官ノ搜索權ナリ

「罪ヲ犯シタル者」單ニ犯人ナリトノ嫌疑ヲ受ケ居ル者ナラハ足レリ敢テ起訴後ニ限ラス又假令裁判ノ結果其者無罪トナルモ本罪ノ構成ニ影響ナキナリ

「拘禁中逃走シタル者」第九十七條、第九十九條ノ說明參照

「藏匿」トハ自ラ進ンテ搜索者ニ發見セラルルヲ妨クルコトヲ云フ

「隱避」トハ被搜索者ヲシテ他ニ避ケ發見ヲ逃レシムルコトヲ云フ

但シ本條ハ普通人ニ被搜索者ノ所在ヲ申告スルノ義務ヲ負ハセタルモノニアラス故ニ申告セスト云フ消極行爲ハ之ヲ申告スル義務アルモノニアラサレハ罪トナルコトナシ

「罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者」トハ別ニ說明ヲ要セサルモ一ノ注意スヘキハ例ヘハ第百九十二條ノ罪ニ於テ罰金又ハ科料ニ處ストアル場合ハ茲ニ所謂罰金以上ノ刑ニ該ル者ナリ何トナレハ罰金以上ノ刑タルヘキカ罰金以下ノ刑タルヘキカハ裁判言渡ノ後ニアラサレハ知ル可カラサレハナリ

犯人カ罰金刑ヲ言渡サレタル場合ニ於テ犯人ニ代リテ之ヲ納付シ或ハ之ニ相當スル金額ヲ犯人ニ贈與又ハ貸與シタルモノハ之ヲ隱匿セサルモノト云フヘキヤ否ヤ　吾輩ハ否定

說ヲ採ル

原因タル犯罪ハ既遂タルヲ要スルヤ未遂ニテモ可ナルヤ　曰ク何レニテモ可ナリ

被害者ノ告訴ヲ訴追ノ必要條件トスル犯罪ニ於テ其親告前ニ犯人ヲ藏匿又ハ隱避セシメタルモノハ本條ヲ以テ罰スヘキヤ　曰ク後ニ告訴アリタルトキハ本條ノ適用アリ蓋シ告訴ノ有無ハ犯罪ノ成立ト關係ナケレハナリ之ニ反シテ告訴ノ拋棄アリタルトキハ本條ノ適用ナシトスルヲ穩當トス蓋シ本條ノ罪ハ國ノ搜索權ニ對スルモノナレハナリ

舊刑法ハ「若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ」ト規定スルモ新法ハ科刑ノ範圍廣キヲ以テ其必要ナシ

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ煙滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第百五十二條）

「刑事被告事件」トハ科刑原因ノ有無ニ付キ審理セラルル事件ヲ云フ

「證憑湮滅」トハ罪證トナルヘキモノヲ亡失スルコトヲ云フ證憑ニ二種アリ（一）證據、卽チ公務員ノ作製シタル調書、本人ノ自白、證人及ヒ鑑定人ノ供述等ヲ云ヒ（二）徵憑、卽チ被害者ノ告訴狀、被告共犯人參考人ノ供述、被害者ノ屆書等ヲ云フ

證憑トナルヘキ物件ノ存亡ハ問フ所ニアラサルヲ以テ物件存スルモ其效力ヲ失ハシムルニ於テハ本罪ヲ構成シ物件其者ヲ亡失スル亦然リ但シ其證憑カ後ニ至リ事實上果シテ斷罪ノ資料タルヘキモノナルヤ否ヤハ又問フ所ニアラス

「僞造」トハ新ニ證憑ノ外觀ヲ有スル物件ヲ製作スルコトヲ云ヒ「變造」トハ眞ノ證憑タル可キ物件ニ變更ヲ加ヘ他ノ證憑ニ摸擬スルコトヲ云フナホ詳細ハ第十六章以下ノ說明ヲ參照セラル可シ

ナホ本罪構成ノ要件タル可キハ上叙ノ外

（一）他人ナルコト

自ラ自己ノ罪ノ證憑ヲ湮滅スルハ當然ノ事ニシテ後ノ行爲カ前ノ行爲ニ吸收セラルヽ場合ノ一タリ

（二）刑事被告事件ニ關スルコトヲ要ス

自己ノ犯罪ノ證憑ヲ湮滅シ又ハ自己ヲ藏匿センカタメ犯人自ラ人ヲ敎唆又ハ幇助シタル

トキハ其從犯又ハ教唆犯トシテ處罰セラルヘキヤニ付テハ種々ノ議論アリ明治三十五年八月二十九日ノ大審院判決ハ曰ク刑法第百五十二條ノ罪證隱蔽罪ハ他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ罪證トナルヘキ物件ヲ隱蔽スルニ依テ成立スルモノナレハ磯野佐七ニ於テ被告治太郎ノ罪責ヲ免レシムル爲メ其罪證トナルヘキ物件ヲ隱蔽シタル以上ハ縱令右ハ被告治太郎ノ教唆ニ基キタルモノニシテ教唆者ノ爲メ之ヲ隱蔽シタルモノナリトスルモ其罪證隱蔽罪ヲ構成スル以上ハ勿論磯野佐七ノ所爲ニシテ已ニ罪證隱蔽罪ヲ構成スル以上ハ同人ヲ教唆シテ該犯罪ヲ爲スニ至ラシメタル被告治太郎ノ所爲カ刑法第百五條ニ該當シ其教唆罪ヲ構成スルハ論ヲ俟タスト吾輩亦積極論ヲ採ル

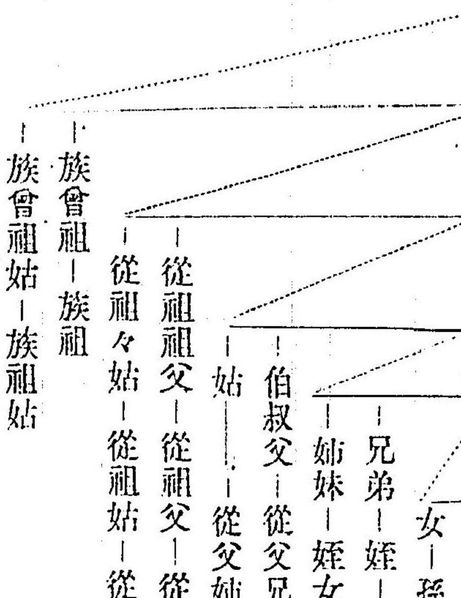
第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス（舊刑法第百五十三條）

以上二箇條ハ共ニ舊刑法規定ノ不備ナル點ヲ修正セルニ止リ立法ノ趣意ニ至リテハ多ク異ナル所ナシ

「親族」トハ民法第四編第七百二十五條ニ所謂六親等內ノ血族、配偶者、三等親內ノ姻族ヲ云フ親族ニ付テ舊刑法ハ第一編第十章親屬例ニ於テ特殊ノ親族關係ヲ規定セルモ已ニ民法ニ於テ親族ノ規定アル以上ハ之ニ從フヲ便利トスヘキヲ以テ新法ハ特ニ之ヲ存セス

親族ノ場合ニ之ヲ罰セサルハ其間ノ情誼ヲ斟酌セルナリ故ニ假令親族者ノ行爲ナリトスルモ犯人又ハ逃走者ノ不利益ノ爲メニ犯シタルモノナルトキハ勿論罰セラルルモノトス

試ニ親族ノ一部ヲ圖解スレハ（他ハ類推セラルヘシ）



第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第百三十七條）

「多數」人數ニ制限ナシ但シ相當ノ人數ナラサル可カラス又特定個人間ニ止ル場合ハ總則共犯ノ規定ヲ受クルモノナリ

「暴行脅迫、首魁」已ニ說明セリ

「騷擾ノ罪ト爲シ」本章ノ題名ニ騷擾ノ罪トアルヲ以テ註釋的ニ用ヰタルノミ

內亂罪トノ差　其目的ニ於テ異ルナホ第二章ノ說明ヲ參照セラルヘシ

本條ノ罪ハ之ニ干與シタルモノヲ含マス

本條ノ罪ハ暴行脅迫ノ共同意思アルヲ以テ足リ多數者ノ目的如何ヲ問ハス又其意思ハ暴行脅迫ノ當時ニ於テ偶然生シタルモノト雖モ可ナリ又其目的適法ナルト否トヲ問ハス

本條ノ罪ハ其着手又ハ未遂ヲ罰スルコトナシ

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第百三十六條）

第百六條ハ暴行脅迫ヲナシタル者ヲ罰シ本條ハ暴行脅迫ヲ爲スノ虞ヲ罰スルモノナリ故ニ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受ケテ解散スルトキハ全ク罪トナラス（一旦成立セル罪カ解散ニヨリテ免除セラレシモノニアラス）

「命令」ニアラスンハ不可ナリ注意說諭ヲ受ケテ仍ホ解散セサルモ罪トナルコトナシ

已ニ三回ノ命令ヲ受クルモ仍ホ解散セスンハ後ニ至リ任意解散スルモ已ニ本罪ヲ成立セルモノナリ

本條ノ草案ニハ

公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルト雖モ解散セサル時ハ云々トアリシヲ衆議院ニ於テ本文ノ如ク修正セリ

修正ノ主旨ハ

(一) 單ニ一片ノ形式的命令ノ如キニ止ムルコトナク事實上人々ノ頭裡ニ徹底スル樣深ク注意シ成ル可ク斯ル犯罪ヲ爲サシメサルコトヲ勉ム可キナリ

(二) 何レノ國ノ立法例ニ依ルモ或ハ解散ノ命令ヲ發スルコト二回若クハ三回或ハ數回ト規定セリ一回ノ命令ニ應セストシテ直ニ之ヲ罰スルハ酷ナリト、然レトモ此見解ハ誤ナリ今外國ノ立法例ヲ見ルニ暴行脅迫ヲ要件トスルモノアリ之ヲ要件トセサルモノアリ　後者ニアリテハ或ハ三回ノ解散命令ヲ必要トストナシ（獨逸、和蘭、丁抹ノ如シ）或ハ一回ノ解散命令ヲ可ナリトスルモノ（墺太利、匈牙利、佛蘭西、葡萄牙、諸威等）アリ然レトモ前者ノ如ク暴行脅迫ヲ必要トスル我國ト其例ヲ同ウスルモノニシテ三回以上ノ命令ヲ必要トスルカ如キハ天下我國アルノミ外國ニ於テハ一回ノ命令ヲモ要セストスル英國、ポルトガル、メキシコ及ヒ三回ノ命令ヲ要ストスルフインランドアルノミ

(三) 多數集合シテ暴動スルカ如キ場合ハ多クハ人々一時ノ狂熱ニ驅ラレ一種不可思議ノ集合心理ニ左右セラルルモノナレハ三回位ノ命令ヲ與ヘ徐ニ反省ノ餘地ヲ能フルハ寧ロ機宜ニ適セルモノト云フ可シ

舊刑法ハ其第百三十八條ニ於テ、

暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ又ハ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

ト規定シタリ是等ノ行爲ハ普通暴行脅迫ノ際ニ生スルモノナレトモ已ニ其範圍ヲ脫シ目的自体上獨立ノ一罪ヲ成スモノト見ルヘキナリ故ニ特ニ明文ヲ措クノ必要ナシト信ス

尙ホ舊刑法兇徒聚衆罪ニ關スル明治三十五年五月十二日ノ大審院判決ヲ參照セン曰ク

刑法第百三十七條ノ兇徒聚衆罪ハ多衆カ現ニ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ强逼シ又ハ村市ヲ騷擾

シ其他暴動ヲ爲シタルコトト其暴動ハ多衆共同ノ意思ニ基クコトニヨリテ成立スルヲ以テ多數ノ人カ是等暴動行爲ヲナスモ其行爲タル個々別々ノモノニシテ暴動者間ニ意思ノ合同ナキニ於テハ其行爲ハ他ノ刑名ニ觸ルヽコトアリトスルモ兇徒聚衆罪ヲ構成セサルヤ明ナリ然レトモ兇徒聚衆罪ハ多衆カ其共同ノ意思ヲ以テ暴動行爲ヲナスニアリテ成立スルモノナレハ暴動ヲナサントスル多衆ノ意思ハ必スシモ其集合ノ初ニ於テ存在スルコトヲ要セス多衆カ暴動ヲナスノ目的ヲ以テ集合シタルニアラス又集合當時ニ於テ多衆間ニ何等暴動ヲナスノ意思ナシトスルモ其後ニ至リ其間ニ暴動ノ意思ヲ生シ共同シテ暴動ヲナシタルトキハ兇徒聚衆罪ハ完全ニ成立スヘシ隨テ其根原ニ於テ平穩ナル多衆ノ集合ト雖モ多衆ノ意思如何ニヨリ何時ニテモ兇徒聚衆ニ變スルコトヲ得ヘク又其集合カ擧テ兇徒聚衆ニ變セサルモ其一部人士ノ間ニ暴動ノ意思ヲ生シ現ニ暴動ヲナシタルトキハ其暴動ニ干與シタル者等ノ間ニ於テ兇徒聚衆罪ノ成立スルコトヲ妨ケサルモノトス故ニ多數ノ人カ現ニ暴動ヲナシタル場合ニ暴動ニ干與シタルモノカ多衆ニシテ其間ニ意思ノ合同アルニ於テハ兇徒聚衆罪ハ完全ニ成立スヘク多衆間ニ暴動ノ豫謀アリタルヤ否ヤ暴動ノ意思ハ多衆集合ノ初ヨリ存在セシヤ否ヤ暴動ニ干與シタルモノハ集合シタルモノノ全部ナルヤ若クハ一部ナルヤハ毫モ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシトス

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

本章ハ其題名ノ示ス如ク放火及ヒ失火ニ關スル罪ヲ規定シタリ

舊刑法ハ是等ノ罪ヲ以テ財産ニ關スル罪トナシ第三編第二章第七節ニ規定セシカ新法ハ已述ノ如ク罪ノ概括的分類ヲ廢シ且ツ是等ノ罪ハ獨リ財産ニノミ關スルモノニアラサルヲ以テ特ニ一章ヲ設ケ且ツ電車電氣瓦斯等近來ノ發明ニ係ルモノニ關スル規定ヲ加ヘナホ種々舊刑法ノ缺陷ヲ補充シタリ元來放火失火ノ罪ノ如キハ舊刑法ノ如ク財産ノミニ關スルモノト見ルヨリハ寧ロ公共ノ安全ヲモ害スルモノトスルヲ可トス可ク隨テ成ル可ク科刑ノ範圍ヲ廣クシテ種々ノ實狀ニ應セシムルコトヲ要ス例ヘハ人家ノ稠密ナル場所ニ於ケル放火ハ重ク罰ストスルカ如シ

第百八條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ

五年以上ノ懲役ニ處ス（舊刑法第四百二條、第四百五條第一項）

「人」トハ犯人以外ノ人ヲ云フ妻子、親族故舊ノ如何ヲ問フコトナシ

「住居ニ使用シ」トハ繼續的ニ其生活ノ據所トシテ使用スルコトヲ云ヒ放火ノ際偶住人現在セサルモ本罪ノ構成ニ關係ナシ又其所有權カ何人ノ手ニ存スルモ差支ナシ自己ノ所有物ヲ他人カ不法ニ占有セル場合ヲモ含ム

「現在」トハ一時人ノ居ルコトヲ云フ

「建造物」第八十二條、第百三十條ノ說明參照

「汽車、電車」トハ陸上ニ於テ人及ヒ貨物ヲ運搬スルコトヲ目的トスルモノニシテ蒸氣力又ハ電氣力ニ因テ運轉スル車輛ヲ云フ（鐵道營業法）是ハ類例ヲ示シタルモノニアラスシテ此二者ノミトスル制限的意味ナリ故ニ人力車、荷車、自動車、自轉車ノ如キハ此中ニ包含スルコトナシ、將來人智ノ進歩ト共ニ是等ノ外ニ一定ノ動力ヲ用ヰテ多數ノ貨客運搬ノ用ニ供スルモノヲ生スルニ至ルヤモ知レス此場合ニハ特別法ヲ設クルカ或ハ本條ヲ改正スル必要ヲ來サン、但シ現今ニ於テモ是等ノ物ハ本條ノ適用ヲ受ケサルモ實際上ノ取締ハ爲メニ滅却スル所ナシ卽チ殺人ノ意思ヲ以テセハ殺人罪トナル可ク他ノ意思ヲ以テセハ放火罪トハナラサルモ毀棄罪トシテ罰セラルルコト勿論ナレハナリ

「鑛坑」トハ金銀、銅鐵、鉛石炭、石油、其他鑛業條例第二條ニ定メタル總テノ鑛物ヲ採掘スル坑ヲ云フ

「燒燬」トハ火ヲ以テ物質ヲ焚壞毀損スルコトヲ云フ然ラハ如何ナル程度ノモノヲ意味スルカ種々ノ說アリ

（イ）目的物ニ火ヲ傳フヘキ媒介物燃出シタル時

（ロ）目的物燃出シタルトキ（明治三十七年大審院判例錄第二一六頁）

（ハ）目的物カ危險ナル有樣ニ陷リタルトキ卽チ目的物ノ燃出シタル火力カ自然ノ勢ヲ以テ燃廣カルヘキ狀況ニ至レル時（明治三十五年大審院判決錄第十一卷）

以上ノ諸說ハ單ニ立言ノ方法ヲ異ニスルノミナラス其適用上ノ結果ニ於テモ亦大ナル相違アリ一ノ未遂トスル所他ノ既遂トスル所トナリ一ノ豫備トスル所他ノ實行トスル所タルカ如キ是ナリ余輩ノ信スル所ニ依レハ法文ノ示ス所「火ヲ放チタルモノ」ト云ハスシテ「火ヲ放チテ……ヲ燒燬シタル者」ナル以上ハ其結果ノ方面ヨリ推斷スルコトヲ要ス可ク

（二）或ル物体ノ燒燬ト云ハハ少クトモ其物体ノ性質ニ從ヒ其用ヲ失フ程度ニ至レル場合ナラサル可カラス

例ヘハ家ヲ燒ク意思ヲ以テ一部分ノ板片ヲ燒クモ以テ家ヲ燒燬シタルモノト云フコト能ハス少クトモ大手入レヲ爲スニ非レハ住居ノ用ヲ爲サヽル程度ニ於テ始メテ爾カ云ヒ得ヘキノミ大審院判例ノ如キ明白ナル謬説ノ一ナリトス

舊刑法ニ於テハ建造物ニ付キ單ニ第四百三條ニ「火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス」トアルノミナリシヲ以テ一部ニ人ノ住居シタル建造物ヲ燒キタルモノヽ如何、居住者ナキ建造物ヲ人ノ現在スル間ニ燒キタルトキハ如何、自己ノ所有ニ係ル建造物ヲ燒キタルトキハ如何等種々ノ難問ヲ生シタリシモ新法ニ於テハ本條及ヒ第百九條ノ規定ニヨリ容易ニ解決スルコトヲ得ヘシ

本條ノ罪ノ處分ヲ見ルニ「死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス」トアリテ之ヲ殺人罪ノ第百九十九條ヲ見ルニ「人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス」トアリテ共ニ其最重刑ハ死刑ナルニ係ラス最輕刑ハ二年ノ相違アリ一見殺人罪ニ比シテ本罪ヲ重ク罰スルモノノ如シ然レトモ事實ハ寧ロ之ニ反シ元來最重ニ死刑ヲ科スヘキ罪ノ最輕ハ五年トシ最重ニ無期ヲ科スヘキ罪ノ最輕ハ三年トスルヲ普通ノ例トナセリ（第七十七條第一項第二號、第八十四條、第八十五條、第百十九條、第百八十一條、第二百五條第二項等參照）然ルニ殺人罪ハ其内容種々アリテ他ノ罪ト一樣ニ見ル可カラストナシ特ニ例外トシテ三年以上ト短縮スルニ至リシモノナリ

最後ニ本條ノ罪、本條ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ其未遂罪ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國臣民ニモ適用セラル（刑法第三條）

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス（舊刑法第四百三條、第四百五條第二項、第四百七條）

前條ハ人ノ住居シ若クハ現在セル場合ヲ規定セシモノナレトモ本條ハ之ニ反シ人ノ住居

セス又現在セサル場合及ヒ自己ノ所有ノモノニシテ人ノ住居セス又現在セサル場合ヲ規定シタリ卽チ所有權ノミニ付テ云ヘハ前條ハ所有權ノ何人ニ屬スルカヲ問ハサルモ本條ハ

（一）自己ニ所有權ナキ場合

（二）自己ニ所有權アル場合

ヲ規定セリ

犯人ノミ住居シタル家屋ニ放火シタル場合ハ前條ヲ以テ處斷スヘキヤ或ハ本條ヲ以テ處斷スヘキヤハ稍疑問ナルカ如キモ人ノ有無ヲ以テ二者ノ處罰ヲ異ニセル所以ハ人命ニ對スル危險ヲ慮レルモノナルノ理ニ鑑ミレハ勿論「人ノ住居ニ使用セス」トアル家屋ト爲スヲ正當トス可シ

本條第一項、本條第一項ノ例ニヨリ處斷サルヘキ罪及ヒ其未遂罪ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國臣民ニモ適用セラル（刑法第三條）

第二項但書ノ意義

已ニ說明セル如ク放火罪ハ單ニ財產上ヨリノミナラス公共ノ安全ヲ憂フルノ點ヨリモ着眼セラルヘキモノナルヲ以テ本但書ヲ必要トセルナリ例ヘハ他ニ延燒シ若クハ公共ノ危險ニ關スル憂ナキ場合ニ於テ自己所有ニ係ル小船ヲ燒棄スルカ如キハ別ニ罰スル必要ナシト認ムルナリ

但シ此場合ニ於ケル公共危險發生ノ有無ハ必スシモ其實際上ノ結果ヲ俟ツテ後知ル可キモノニアラスシテ始ヨリ其虞アルヤ否ヤヲ以テモ決ス可キモノトス

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第四百四條、第四百六條）

「前二條ニ記載シタル以外ノモノ」トハ舊刑法ニ所謂山林ノ竹木、田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木等其他一切ノモノヲ指ス、ナホ前二條トノ比較ニ於テ人ノ現在セサル瀛車電車ヲモ含ムモノト解ス可シ

「公共ノ危險」トハ已述ノ如ク必スシモ他人ノ財產ニ害ヲ及ホスコトノミヲ意味スルニ

アラス前二條ニ掲ケタルモノノ如キハ燒却行爲自体カ公共ノ危險ニ關係スルモノナルコト法ノ推定スル所ニシテ只犯人所有ノモノノ場合ニ特例トシテ公共ノ危險ヲ生セサル場合ヲ掲クルコトトセリ而シテ本條ニ掲クル所ノモノハ大体ニ於テ事小ニシテ公共ノ危險ナカル可キヲ豫想サレ得可キモノナレトモ事實上其虞アルモノ必スシモ尠ナカラサルヲ以テ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ「公共ノ危險ヲ生セシメサル者」テフ條件ヲ附セリ故ニ其記載方法ニ於テモ生セシメタルト用ヰタリ

第百十一條　第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

「延燒シタルトキ」トハ事實上延燒シタルコトヲ云ヒ犯人ニ於テ之ヲ延燒セシメントスル意思アルコトヲ必要トセス

第九條第二項ノ場合ヲ本條ニ適用スルニ當リテハ之ヲ次ノ二種ニ區分シテ之ヲ考フルヲ便トス

(一)　全ク公共ノ危險ヲ生セサル性ノモノナリシニ係ラス偶然ノ大風等ノタメ延燒シタル場合

(二)　公共ノ危險ヲ生スヘキモノタリシ場合

然ルニ本條ニ於テハ均シク「第九條第二項ノ罪ヲ犯シテ云々」ト規定セリ本來全ク公共ノ危險ヲ生セサル性ノモノナラハ之ヲモ包含セシメテ罪ヲ犯シテ云々ト云フハ用語上稍妥當ナラサルヤノ感アレトモ實際ハ然ラス假令偶然トハ云ヘ事實上他ニ延燒セリトセハ既ニ事前ニ於テ公共ノ危險ヲ生シ居タリシモノト推解ス可ク隨テ第九條第二項ノ罪ヲ犯シタルモノトセラル可ケレハナリ

第百十二條　第百八條及第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百十三條　第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除

スルコトヲ得

舊刑法ハ放火罪ノ豫備ヲ罰セス然レトモ放火ノ如キハ公共ニ對シテ重大ナル危險ヲ與フルモノニシテ其豫備ト雖モナホ警戒セサル可カラサルモノ多シ故ニ本條ニ於テ之ヲ罰スルコトトナセリ但シ本條但書ハ情狀諒スヘキモノアル場合ハ特ニ免除スルコトトセリ

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

「妨害」トハ重大ナル不便ヲ與フルコトヲ云フ特ニ不能ナラシムルヲ要セサルナリ

第百十五條　第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

「差押」トハ民事訴訟法第六編ノ規定スル所ニシテ第一章ニ於テハ總則第二章第一節ニ於テ有体動産ニ對スル差押第二節ニ於テ不動産ニ對スル差押ヲ規定セリ假差押ハ含包セス

「物權ヲ負擔シ」トハ他人ノ物權ノ目的物タル場合ニシテ例ヘハ抵當權ヲ負擔スルカ如シ

「保險ニ付シタルモノ」ヲ處罰スルハ外國立法ニモ其例アル所ナリ元來保險ニ付シタル自己ノ所有物ヲ燒棄シタル場合ニ於テハ被保險者タル犯人ハ其利益ヲ失ヒ保險金ヲ得ル權利ナキニ至ル可ク又燒燬物体ハ自己ノ所有ニ屬スルモノナルヲ以テ一見之ヲ嚴罰スル必要ナキカ如クナレトモ犯人ノ心情ヨリ之ヲ察スレハ不慮罹災ノ名義ノ下ニ保險金ヲ詐取セントスル惡意ヲ存シ之ヲ保險者ノ方面ヨリ見ルトキハ此ノ如キ事實ハ往々刑事上ノ取調ノ不充分ナルカ爲メ明確ナラス保險金詐奪ノ難ニ遇フモノ必シモ少カラス故ニ新法ニ於テハ他人ノモノヲ燒棄シタル場合ト同樣ニ處斷スルノ正當ナルコトヲ認メタリ

「賃貸シ」トハ民法第三編第二章第七節ニ規定セル「當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ拂フコト」ノ賃貸契約ニヨル貸與ヲ云フ、元來賃貸借ノ效力トシテ賃借人ハ民法上保護ヲ受クルコト大ナリ（民法第六百五條以下）ト雖モ若シ契約ノ目的物ヲ亡失セル場合ノ危險ハ之ヲ負擔スルヲ以テ若シ貸主ノ放火ナル事實ニシテ明瞭ナラサランカ賃貸人ハ不當ノ負擔ヲ爲サヽルヲ得ス而モ如

此ハ事實上ノ問題ニシテ賃貸人ノ所爲ハ往々ニシテ暴露セサルコトアリ故ニ保險ノ場合ノ如ク之ヲ處罰スルコト猶ホ他人ノ物ニ於ケルカ如クセリ

第百九條第二項ノ例ニ同シカルヘキ本條ノ罪ハ帝國外ニ於テ帝國臣民ノ犯セルモノニ付テモ亦適用セラル（刑法第三條）

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ（舊刑法第四百九條）

「火ヲ失シテ」トハ過失ニ出ツルコトヲ云フ過失ニ付テハ總則ノ說明ヲ參照セラル可シ

第百十七條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ（舊刑法第四百十條）

「損壞」トハ已述ノ說明ニ於テ有形的損害ニシテ必スシモ其用ヲ失ヒタルト否トヲ問ハストセルト異リ本條ニ於テハ前諸條トノ比較上其物ノ效用ヲ失ハシメタル程度ニ達セルモノナルコトヲ要ス可シ

ナホ本條ト明治十七年布告第三十二號爆發物取締規則第一條ノ規定ハ其目的トスル所相同シキモノアリ其範圍ニ於テハ本法ヲ優レリト解スヘシ

前段第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ノ罪ニ付テハ帝國外帝國臣民ニモ亦適用セラル（刑法第三條）

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下

ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

本章ハ舊刑法ノ所謂決水罪(舊刑法第四百十一條—第四百十四條)ト稱スルモノナリ舊刑法ハ之ヲ財產ニ對スル罪ニ規定スルモ前章ノ罪ト均シク獨リ財產ニ對スルノミナラス公共ノ安全ヲ害スルコト大ナリ試ニ新法ト舊法トノ本罪ニ關スル差異ヲ擧クレハ左ノ如シ

(一)　其名稱ノ差異

(二)　舊法ハ單ニ人ノ住居スル家屋ノミヲ見テ人ノ現在スル場合ヲ見ス新法ハ此缺陷ヲ補ヘリ

(三)　舊法ハ決水ノ手段ヲ(イ)堤防ノ決潰(ロ)水閘ノ毀壞ノ二ニ限リタルヲ以テ實際適用上膠柱ノ感アリシモ新法ハ之ヲ改メタリ

(四)　舊法ハ新法ノ第百二十一條ノ如キ規定ヲ置カサリシヲ以テ新法ハ之ヲ補ヒタリ

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス(舊刑法第四百十一條第一項)

本條ノ罪ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國臣民ニモ適用セラルルコトトナレリ(刑法第三條)

本條以下第百二十二條迄ハ溢水ニ至リタル場合ヲ規定シ第百二十三條ノ溢水ニ至ラサル場合ト區別シタリ注意ヲ要ス

「溢水」トハ洪水ノ際水閘又ハ堤防ヲ破壞シ其他洪水類似ノ狀況ヲ云フ本條ハ洪水ノ場合ノ規定ニシテ第百二十三條ハ平水ノ場合ノ規定ナリト云フ說アレトモ誤ナリ此等ノ條文ハ犯法行爲ヲ爲シタル際ニヨル差異ヲ示スモノニアラスシテ其行爲ノ結果カ溢水ト云フ程度ニ達シタルヤ否ヤヲ以テ見ルヘキモノトス

「浸害」ハ侵害トハ異ル後者ハ目的物ニ物質的損害ヲ加フルコトヲ云フモ前者ハ水ニ浸サレタルカ爲メニ其用ヲ失ヒ又ハ減スルコトヲ云フ

本條ハ目的物カ自己ノ有タルト否トヲ問ハス又洪水ノ方法如何ヲ問フコトナシ

又本條ハ人ノ生命ヲ重ンスルコトヲ主眼トセルヲ以テ荷車、人力車ハ之レヲ含マス

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル（舊刑法第四百十一條第二項、第四百十二條）

「前條ニ記載シタル以外ノ物」トハ汎博ノ文字ニシテ總テノ物ヲ包含ス但シ「溢水」ノ文辭ニヨリ自ラ犯罪自体ヲ制限シ重ニ法文ノ見ル所ハ人ノ住居セサル家屋、人ノ現在セサル家屋、若クハ田畑等ナリトス

「公共ノ危險ヲ生セシメ」ハ衆議院ニテ討議ノ際挿入セルモノナリ蓋シ「以外ノ物」ハ意味甚タ廣キカ故ニ非常ニ輕微ナルモノヲ浸害スルモ直ニ本條ノ適用ヲ受クトスルハ不當ナリトノ說ニ本クモノナリ然レトモ已述ノ如ク溢水ナル言語其者ハ公共ノ危險ヲ生スル場合トナルヘキヲ以テ此數文字ハ注意的タルニ過キサルモノトス

本條ノ罪ニ對スル處分ハ一年以上十年以下ノ懲役ナリ元來本刑法ニ於テ長期短期ヲ定ムル標準ヲ見ルニ大体最長期十年ナルトキハ最短期ヲ一年トシ長期ヲ七年トスルトキハ短期ヲ六箇月トシ長期ヲ五箇年トスルトキハ短期ヲ三箇月トスル傾向ナリ最重ヲ死刑トスルトキハ最輕ヲ五年最重ヲ無期トスルトキハ最輕ヲ三年トスルヲ原則トセルコトハ第百八條ノ規定ニ於テ已ニ述ヘタル所ナリ

第百二十一條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

「水害」トハ洪水ノ爲メ浸害アリ若クハ其虞アル場合ヲ云フ、第百十九條、第百二十條ニ所謂溢水ハ人爲ノ溢水ナレトモ本條ハ獨リ其場合ノミニ限ラス寧ロ天然ノ水害ヲ主トセリ

第百二十二條　過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共

ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第四百十四條）

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第四百十三條）

「水利ノ妨害ト爲ルヘキ行爲」トハ其意義非常ニ廣シ實際ノ場合ニ當リテ解決スルコトヲ要ス但シ規約又ハ舊慣ニ反キ漫ニ施シタル水利工事ノ破壞ハ本罪ヲ構成セス

本罪ハ旱魃ノ際往々農業者ニ起生スル問題ニシテ其情狀憫ムヘキモノ少カラス故ニ本條ハ刑ノ最短期ヲ限定セス注意セラルヘシ

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

舊刑法ハ第二編第三章第六節ニ於テ往來通信ヲ妨害スル罪ヲ規定シ第三編第二章第九節ニ於テ船舶ヲ覆沒スル罪ヲ規定シタレトモ新法ハ題名ノ如ク郵便電信ノ妨害罪ハ之ヲ特別法ニ讓リ同時ニ船舶覆沒罪ヲ財產ニ對スル罪ニアラスシテ主トシテ往來ニ對スルモノトシ本章ノ下ニ合一規定セリ

第百二十四條　陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊刑法第百六十二條、第百六十八條）

「路」トハ法文ニ特別ノ制限ナキヲ以テ私有ノ水陸路ヲモ含ムモノト解スヘキカ但シ私有路ノ塲合ニ私有者自ラ之ヲ損壞スルハ權利行爲ナリ、刑法第百六十二條ニ所謂道路トハ必シモ國縣村道ノミニ限ラス苟モ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包含セラルルモノトス（四十年二月十九日判例）

「妨害」トハ往來ノ不能又ハ重大ナル不便ヲ釀シタル狀況ヲ云フ事實上或特定ノ人カ往來ヲ爲サスシテ止ミタルト往來ニ困難ヲ極メタルトヲ問フコトナシ

「壅塞」トハ木石等ヲ重積シテ往來ノ妨害ヲ爲スコトノ外「通行止」等ノ制札ヲ立テテ人馬

ノ往來ヲ遮斷スルコトヲ含ム塞トハ直接道路其者ヲ有形的ニ閉塞スルコトヲ云フト解スルハ狹キニ失セリ（反對說アリ）

舊刑法ニハ「港埠ノ損壞」ヲモ列記スレトモ如斯ハ水陸路何レカノ往來ヲ妨害スルモノナルヲ以テ新法ハ之ヲ略セリ

「傷害ノ罪」トハ第二十七章ノ罪ヲ云フ即チ第二百四條以下ノ罪是ナリ後ニ說明ス可シ

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ（舊刑法第百六十五條、第百六十六條）

「鐵道」官有ト民有トヲ問ハス

「其他ノ方法」其意味廣シ

「燈臺又ハ浮標」トハ艦船ノ航海ヲ安寧便利ナラシメンカ爲メ特ニ設ケタル標的ヲ云フナホ明治三十三年三月法律第六十五號鐵道營業法第二十三條以下、明治二十一年勅令第六十七號航路標識條例、明治二十五年六月法律第五號海上衝突豫防法、明治二十九年四月法律第六十八號船舶職員法、明治三十年船舶檢査法施行條例、明治三十二年三月法律第四十七號船員法、明治三十二年法律第六十三號水先法等ヲ參照セラルヘシ

本條ハ單ニ艦船ト云ヒ別ニ制限スル所ナキヲ以テ船形ノ大小、船籍ノ如何ハ之ヲ問フノ要ナシ

第百二十六條　人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

（舊刑法第四百十五條、第四百十六條）

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

（舊刑法第百六十九條）

第百二十八條　第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第百七十條）

第百二十九條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

舊刑法ハ過失ニ關スル往來妨害罪ヲ設ケス是レ新法カ特ニ此條文ヲ設ケタル所以ナリ蓋シ是等ノ罪ハ重大ナル場合ナルヲ以テ過失ヲ罰スルコトトシ以テ各人ノ注意ヲ喚起スルコトヲ勉メタリ

「其業務」トハ汽車、電車、艦船ノ機關士、運轉士其他ノ職員ヲ云フナホ第三十五條、第三十七條第二項、第二百十一條等ノ說明ト比較研究セラル可シ

舊刑法ハナホ第百六十三條、第百六十四條、第百六十七條ニ於テ郵便ヲ妨害、阻止シ電信ヲ不通若クハ妨害シタル罪及ヒ其業務ニ關スル官吏、雇人、職工等ノ自ラ犯シタル場合ヲ規定セルモ如斯ハ一般刑法ニ於テ規定スルヨリモ寧ロ各特別法ニ讓ルヲ以テ精細且ツ明瞭ナルコトヲ得ヘシ故ニ新法ハ之ヲ削除セリ仍ホ郵便ニ付テハ明治十五年布告第五十九號郵便條例、明治二十五年法律第二號小包郵便法等電信電話ニ付テハ明治十六年布告第五號明治十八年布告第十八號海底電信ニ關スル罰則、明治三十三年法律第五十九號電信法等ヲ參照セラル可シ

第十二章　住居ヲ侵ス罪

本章ハ所謂家宅侵入罪ヲ規定セルモノナリ各本條ノ說明ヲ爲ス前簡單ニ項ヲ分チテ其沿革的事迹ヲ略言セン

甲　本罪ハ其始メ(イ)宗敎的犯罪ト看做サレ古昔希臘羅馬ノ時代ニアリテハ人ノ家屋ハ竈鬼神ノ祠宇ナリシノ信念存セシヲ以テ家屋ニ侵入スルハ神ニ對スル不敬ナリトセリ

中世ノ始ニ至リテ漸ク(ロ)社會的犯罪ト見ラルルニ至リタルモ尚ホ今日ノ如ク獨立ノ家宅侵入罪ナルモノヲ認ムルコトナク暴行脅迫ノ伴フ場合ニアラスンハ之ヲ罪セス蓋シ一種ノ(ハ)家宅暴入罪ナリ近世ニ至ルニ及ヒ住所ハ各人ノ生活ノ本據ナリ其安全平穩ハ國民自由ノ保護トシテ特別ノ保障ヲ加ヘサルヘカラス(憲法第二十二條參照)故ニ私家ノ安全ハ不可侵ナリトノ思想ヲ生シ遂ニ(ニ)獨立ノ家宅侵入罪ヲ認メ獨逸ノ如キハ之ヲ名付ケテ住家ノ平和ヲ破ル罪ト云ヒ更ニ進ンテ(ホ)單ニ人家ノミナラス人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ヲモ保護スルコトトナリタリ本刑法ノ如キ卽チ是ナリ

乙、家宅侵入罪ハ其始メ官吏ノ職權亂用ニ對シテ私宅ノ安全ヲ保護スル必要ヲ充タセシモノナルカ社會ノ進歩ト共ニ官吏ノミナラス一私人ノ侵入ヲモ之ヲ防クノ必要ヲ生シ官吏タルト私人タルトヲ問ハサルコトトナレリ

丙、私家ノ安全ノ保護モ其程度ヲ過クレハ却ツテ弊害ヲ生シ易ク犯人藏匿、證憑湮滅等ノ機會トナルノ虞アルヲ以テ官吏其他ノ公務員カ職權ヲ以テスル場合ノ如キニ於テハ私家ニ侵入スルコトヲ許スニ至レリ

丁、歐洲大陸ニ於テハ大凡右ノ如キ沿革ヲ經タレトモ英米諸國ハ其事情ヲ異ニシ現今ナホ獨立セル家宅侵入罪ヲ認メス暴行脅迫ノ伴ヒタル場合ノミヲ以テ罪スヘシトナセリ然ルニ官吏ニ對シテハ全ク之ニ反シ「一私人ノ家宅ハ官吏ニ對シテハ一ノ城廓ナリ」トノ諺モアルカ如ク極メテ例外ナル場合ノ外其侵入ヲ許サス是レ歴史上ノ理由ナキニアラサランモ兎モ角一種ノ陋風ナリ

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑法第百七十一條、第百七十二條)

「故ナク」トハ權利ナクシテ及ヒ住居者看守者ノ意思ニ反シテノ意ナリ公務員法令執行ノ爲メニ人ノ邸宅ニ侵入スル場合ノ如キハ勿論、家主ノ明示若クハ默示ノ同意アル場合及ヒ慣習上人ノ以テ異ト爲ササル場合ハ之ヲ含マス元來刑法上處罰サルヘキ行爲ハ如何ナルモノト雖モ不法ナラサルハナシ然ルニ殊ニ本條以下ニ於テ「故ナク」ノ文字ヲ加ヘシハ蛇足ナリトノ說アリ然レトモ詳カニ考フルニ人ヲ殺スト云ヒ火ヲ放ツト云フカ如キ一見其不法タルヲ想像サル可キモ人ノ家宅、邸宅ニ侵入スルカ如キハ殊ニ我國ノ慣習上人ノ

多ク見テ怪マサル所ナレハ假令下ニ「侵入」ノ文字アルモ上ニ「故ナク」「漫リニ」「不法ニ」等ノ文字ヲ冠セサレハ意味ヲ完カラシメサルノ感アリ

「邸宅」トハ家屋又ハ家屋外ノ建造物ニ附屬スル圍繞地域内ヲ云フ但シ「住居」ナル語トノ對照上住居ナラサル家屋、建造物ヲ指スモノト解ス可ク例ヘハ常住セサル別莊、學校、各種ノ公務所ノ如キ是ナリ茲ニ所謂圍繞地トハ單ニ土地ノ限界アルノミヲ以テ足レリトセス正當ノ用向ナキ人ノ侵入ヲ防クニ足ルヘキ程度ニ達シタルモノナラサル可カラスシテ普通ノ意味ニテ歩行ト云フヲ得サル方法即チ踰越、佯匐ノ如キ方法ニ依ラサレハ出入シ難キ外障ヲ以テ圍繞セラルルコトヲ要ス但シ全部ヲ繞完セス一部ヲ開放シテ門口トナシ或ハ「無用ノ者入ル可カラス」ノ制札ヲ建ツルモ可ナリ

「人ノ住居」トハ獨立セル家屋邸宅タルト然ラサルトヲ問ハス苟クモ人カ生活ノ本據トシテ繼續的ニ寢食スル以上ハ旅館ノ一室「テント」岩屋ト雖モナホ之ヲ住居ト云フ可ク又家人偶外出シテ不在ナル場合モ住居タルニ妨ナシ今家宅侵入罪ト放火罪トヲ比較スルニ放火罪ハ公共ノ安全ト人ノ生命トヲ保護スルヲ主眼トナセルヲ以テ苟モ人ノ存スル建物タル以上ハ其權利トシテ住居スルト權利ナクシテ現在スルトヲ問ハスト雖モ家宅侵入罪ノ場合ハ之レト異リ權利ナクシテ住居スルモノニ付テ保護スルノ必要ナク隨テ之ニ侵入スルモ本罪ヲ構成スルコト無シトス

「艦船」ハ浮動セル一ノ住居若クハ建作物ニシテ陸上ノ住居若クハ邸宅ト保護ノ程度ニ於テ何等ノ相違アル可カラス特ニ交通運輸ノ發達セル今日ニ於テオヤ然ルニ舊刑法ハ之ニ關スル規定ヲ置カサリシ爲メ種々ノ不便ヲ釀セリ故ニ新法ハ特ニ之ヲ規定セリ

「建造物」トハ風雨ヲ防クヘキ設備ヲナシ地上ニ固定シタル工作物ヲ云フ井戸ノ如キハ工作物ナルヤ否ヤ抽象的ニ決スベカラス元來建造物ニ廣狹ノ二義アリ廣義ニ於テハ人ノ製作物ニシテ土地ニ定着シタルモノハ總テ之ヲ含ム公園ノ柵、銅像、石像ノ類其他ノ裝飾物等ノ如キ是ナリ狹義ニ於テハ上ニ掲ケシ定義ノ如ク家屋類似ノ工作物ニシテ

(一) 屋根及ヒ壁ノ如キ雨露ヲ防クヘキ設備アルコトヲ要シ

(二) 繼續的ニ土地ニ固着セルモノタルコトヲ要ス但シ繼續的トハ必シモ時ヲ制限スルコト能ハス其目的物ノ性質ニ隨ヒ適當ノ解釋ヲ下ササル可カラス但シ一時的ノテント棧敷足場ノ如キハ多クハ茲ニ所謂建造物ニアラスト解ス可キナリ

第九章ノ建造物ト茲ニ云フ建造物トハ犯罪ノ性質上少シク其意義ヲ異ニシテ考察スル

コトヲ要ス故ニ建造物ニハ二義アリト云フヲ得ヘシ卽チ茲ニ謂フ所ハ廣狹二義ノ間ニ屬スルモノニシテ家屋類似ノ形体アルヲ要ス例ヘハ建造物ニ入口アルヲ要スルヤ否ヤノ問題ノ如キモ家宅侵入罪ノ如キニ於テハ積極說ヲ採ルヲ要スヘク放火罪、電信法第三十七條ノ如キニ於テハ消極論ヲ採ルヲ要スル等罪ノ性質ニ依リ適宜ノ解釋ヲ爲ササル可カラス

「要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者」舊刑法ハ單ニ「故ナク……入リタル者ハ」ト規定シテ此場合ヲ規定セサリシヲ以テ要求ヲ受ケテ退去セサルモノニ付テハ如何ニ處分スヘキヤニ關シ議論分レ或學者ハ「一旦正當ノ理由又ハ家宅ヲ管理スルモノノ承諾ヲ得テ之ニ入リタル以上ハ假令管理者ノ意思ニ反シテ止ムルモ本罪ヲ構成スルモノニアラス」ト論シ或學者ハ「我現行刑法ニ依レハ唯侵入シタル者ト云フニ過キサルヲ以テ之ヲ嚴格ニ解釋スレハ退去セスト云フ不作爲ハ同列ニ置ク可カラサルモノノ如シ然レトモ此點ニ付テハ日本ニ特別ナル風俗習慣ヲ斟酌シ法文ヲシテ實際ニ有效ナラシムル解釋ヲ採ラサル可カラス而シテ日本ニ特別ナル風俗習慣ニ依レハ人ノ邸內又ハ戶內ニ立入ルニ付テハ特別ノ承認ヲ要セス一般ニ無斷ニテ立入ルヘキ習慣アルニ拘ラス若シ立入リタル事ノミヲ以テ處罰ス可キモノトスレハ本條活用ノ範圍ハ非常ニ廣キモノト云ハサル可カラス而シテ一度立入リタル者ノ引續キ止マルコトヲ欲セサル場合ニ於テ之ニ對シ退去ヲ要求シタルニ拘ラス尙應セサル場合ノ如キ刑罰ナル制裁ヲ科スヘキ必要最モ大ナルヲ感スヘシ此二點ヲ綜合シテ余ハ退去セサル者モ同シク處分スヘキモノトス」ト論セリ故ニ新法ハ特ニ明文ヲ置キ疑團ナカラシメタリ

下女ト密會スルタメ人ノ住居ニ侵入シタルモノハ如何ニ處分スヘキヤハ屢實際上ノ問題トシテ起リ說モ亦分ル所ナリ家宅侵入罪ヲ以テ處罰スヘシトスル論者ハ曰ク下女ハ一雇人ニシテ一部ノ家事ニ使役セラルルノミ固ヨリ其家人ニアラス故ニ其同意アルモ不可ナリ況ンヤ如斯ヲ放任セハ遂ニ共ニ同謀シテ如何ナル惡計ヲ企ツルヤモ知レス云々之ヲ處罰ス可カラストスル論者ハ曰ク下女モ亦一ノ住居者ナリ其承諾ヲ得テ其家ニ入ルモノハ「故ナク」侵入セルモノニアラスト法文ノ表面ヨリ之ヲ見レハ後ノ解釋或ハ其當ヲ得タルモノナランカ

次ニ住居者ノ一人ハ其侵入ヲ容認シ一人ハ之ニ退去ヲ命セリトセハ如何大体ニ於テ有權者ノ命令又ハ容認ヲ以テ優先ストス可シ卽チ先例ニ於テ主人カ下女ノ相手方ニ退去ヲ命

シタル場合ニ(下女ハ却ツテ其退去ヲ欲セストスルモ)相手方之レニ應セサルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス

舊刑法ハ家宅侵入罪ニ付テ詳細ノ規定ヲ設ケ

一、侵入ノ時ニ付テハ

晝間ト夜間トヲ區別シ

二、侵入ノ方法ニ付テハ

イ、門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入リタル時

ロ、兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帶シテ入リタル時

ハ、暴行ヲ爲シテ入リタル時

ニ、二人以上ニテ入リタル時

トヲ區別セリ、新法ハ刑罰ノ範圍ヲ廣クシ別ニ是等ノ場合ヲ定ムルコトナク裁判官ノ自由心證ニヨリテ其輕重ヲ立ツルコトトナセリ然レトモ實際問題トシテ是等ハ大体ニ於テ輕重ノ標準トナルヘキモノナリ

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ(舊刑法第百七十三條)

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章　秘密ヲ侵ス罪

舊刑法ハ第三編第一章第十二節誣告及ヒ誹毀ノ罪ノ中第三百六十條ニ陰私漏告罪ヲ規定セリ然レトモ誹毀ト秘密漏洩トハ全ク其性質ヲ異ニシ且ツ憲法第二十六條ニ「日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシ」トノ規定アルニモ拘ラス刑法ニ何等其秘密保護ノ條文ヲ設ケサルハ憲法ノ規定ト相照應セサルノ憾アリ本章ハ特ニ之ヲ設ケラレタルモノナリ郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ハ本法ト關係ナシ是レ郵便法ノ保護スル所ナレハナリ

第百三十三條ハ信書開披罪ヲ定メ第百三十四條ハ秘密漏泄罪ヲ規定セリ

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ

懲役又ハ二百圓以下ノ金ニ處ス

「故ナク」トハ權利ナクシテ若クハ名宛者ノ同意ヲ得スシテトノ意ナリ

「封緘」トハ物質的ニ封閉スルヲ云フ單ニ封緘ノ文字ノミニテハ不可ナリ

「信書」トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルト封緘シタルト否トニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ（郵便法第十四條明治三十八年大審院判決錄二三八一頁同四十一年判決錄一〇〇二頁參照）電信ヲモ含ム然レトモ信書以外ノ秘密書類ヲ含マス蓋シ刑法前草案ニハ故ナク人ノ信書其ノ他ノ秘密書類ヲ開披シ又ハ隱匿シタル者云々トアリシヲ本文ノ如ク修正セラレタルモノナレハナリ

但シ信書其者ニハ秘密事項ヲ書シタルト否トヲ問ハス信書其者ヲ封緘シテ外部ヨリノ披見ヲ防ク狀態ニアルモノナラハ本條ノ適用ヲ受クルモノナリ鎖鑰ヲ施シタル箱ニ入レタル手紙ハ封書ニアラス又封緘シタルモノナリトモ信書ニアラサルモノ例ヘハ小包ハ本罪ノ目的物タルコトナシ信書ハ未タ發送セサルモノト雖モ可ナリ

「開披」トハ其信書ノ封緘ヲ破リ書面ヲ曝露スルコトヲ云フ必シモ其文辭ヲ讀マサルモ可ナリ單ニ信書ヲ隱匿シ又ハ損毀スルモ開披ニ至ラサルモノハ本罪ヲ構成セス　獨逸刑法第二百九十九條ハ權利ナクシテ故意ニ封緘シタル信書其他ノ書類ヲ開披シタルモノ云々ト規定セリ我刑法ノ規定ト其趣意相同シカラス

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

（第三百六十條）

本條ハ特別ノ職務ヲ有スル者其職務上取扱ヒタル秘密ヲ漏洩シタル罪ヲ規定セルモノニシテ一方ニ於テハ公衆ノ便益必要ヲ計リ他方ニ於テハ同職務者ノ位置信用ヲ害スルヲ防クノ趣意ニ出テタリ

「辯護士」「辯護人」トハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法

律ニ定メタル職務ヲ行フモノヲ云フ　但シ特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其職務ヲ行フコトアルモノトス辯護士試驗ニ及第シテ此資格ヲ得ルモノト試驗ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得ルモノトアリ(辯護士法、刑事訴訟法第百七十九條等參照)

「公證人」トハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ其職務トナスモノヲ云ヒ其作リタル證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ據リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スル力アルモノトス(明治十九年八月法律第二號公證人規則參照)

「産婆」トハ産婆試驗ニ合格シ年齡滿二十歲以上ノ女子ニシテ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケタルモノヲ云フ(明治三十三年七月勅令第三百四十五號産婆規則參照)

「藥種商」トハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受ケテ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

「藥劑師」トハ藥劑師免狀ヲ得タルモノニシテ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スルモノヲ云フ(明治二十二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則參照)

「醫師」トハ醫師開業免狀ヲ有スルモノヲ云フ醫術開業試驗ニ因ルモノト試驗ヲ要セサルモノトアリ(明治十六年十月太政官布告第三十五號醫師免許規則參照)

本條ニ擧ケタル業務ヲ有スル者ハ概ネ人ノ秘密事項ニ關スル委託ヲ受ク可キ地位ニアルモノナリ例ヘハ醫師ハ人ノ疾病又ハ創傷ニ藥劑士藥種商ハ藥品ノ調製ニ産婆ハ懷胎ニ辯護士、辯護人、公證人等ハ民事刑事ノ訴訟若クハ財産上ノ得喪ニ關シテ鑑定、辯護又ハ書類ノ作製等ニ神官僧侶等ハ人ノ生死婚祭等ニ付キ人ノ委託ヲ受ケテ其秘密ニ干與スル場合甚タ多シ「其業務上取扱ヒタル」トハ取扱ヒタル程度、報酬ヲ受ケタルト否トヲ問ハス又委託セントシテ秘事ヲ告ケタルモ委託契約成立セサリシ場合等ヲモ皆之ヲ含ム

「秘密」トハ他人ニ開示セラル、ニ於テハ迷惑ヲ感スヘキ事項ヲ云フ其本人ニ却ツテ利益ナルト否トヲ問ハス事實タルヲ要スルカ故ニ或ル事實ニ對スル意見ヲ含マス、但シ事實ト意見トハ實際ニ於テ往々區別シ易カラサルモノトス、秘密知得ノ方法ニ付テハ偶然タルト研究ノ結果タルト委託者ノ陳述ニ因ルトヲ區別セス

「漏泄」トハ他人ニ開示スルコトヲ云フ言語文章形容ノ何レナルカヲ問ハス公衆ニ對シテ爲シタルト一私人ニ對シテ爲シタルトヲ區別セス

本條列擧ノ者カ法律ニ依ル證人トシテ秘密ヲ開示シタルトキハ如何、此問題ニ付テハ或ハ彼等ハ證言ノ義務ヲ有スルモノナラサルヲ以テ此場合ハ罪トナルヘシト云フモノアレトモ苟モ法律ニ依リ證人トシテ立テル以上ハ明白ニ證言ヲナスモ適法ナルコトヲ法カ認

メタルモノト云ハサル可カラス彼等ハ證言ヲ拒ムノ權利ヲ有スレトモ證言セサルノ義務モ亦之ナキナリ故ニ吾輩ハ罪トナラサルヘキヲ信ス

特許代理業者ヲ本條中ニ加ヘサリシ理由

本條ハ人ノ身上ニ關スル秘密ヲ彈シ其名譽ヲ毀損スルカ如キ事實ノ漏告ニ對スル制裁ニシテ第三者ノ利益ヲ保護スル趣意ニアラス或ル國ノ立法例ニ於テ時ニ特許代理業者ヲ加フルモノアレトモ之レ單ニアル政策上ノ理由ニ出テタルモノニシテ本章ノ如キ秘密侵害罪中ニ私財産權保護ノ規定ヲ加フルハ理論上正當ナラス卽チ特許代理業者カ事件依賴者ノ秘密ヲ漏泄シタル場合ヲ罰スルハ特許權タル財産權ヲ保護セントスルモノナリ若シ斯ル場合ヲ規定セントナラハ彼ノ破産管財人、執達吏ノ如キモノト共ニ各其特別法ニ讓ルヲ可ナリトス獨逸伊太利其他多クノ國ノ刑法ニ於テモ亦然リ

本條ノ罪ハ其職務ヲ離レシ後ニモ適用アリ要スルニ彼等業務上委託ヲ受ケタル人ノ秘密ニ關シテハ一方ニ於テハ裁判上ニ於テモ證人トシテ陳述スルコトヲ拒ムノ權利ヲ與ヘ(民事訴訟法第二百九十八條、刑事訴訟法第百二十五條等參照)テ之ヲ保護シ他方ニ於テハ秘密ヲ守ルノ義務ヲ負ハシメ之ニ違反セル場合ハ刑罰ニ處スコトトセルナリ

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス(舊刑法第三百六十一條)

人ノ秘密ヲ保護スル法文ノ趣旨ナルヲ以テ告訴權ヲ被害者ニ與ヘ漫リニ之ヲ發掘セサルコトトナセリ

第十四章　阿片烟ニ關スル罪

(參照)

阿片トハ罌粟ノ未熟ノ實又ハ蕾ヲ傷ケテ是ヨリ出ツル汁ヲ取リ乾シテ製シタルモノニシテ小亞細亞、波斯、東印度、支那、埃及等ニ產ス之ヲ飲メハ忽チ精神恍惚トシテ昏醉スル醒ムレハ元ノ如シ量多ケレハ死ス汁ハ白色ニシテ乳狀ナリ之ヲ乾カシ餅ノ如クニシ罌粟ノ葉ヲ以テ包ミ市場ニ出タス新鮮ナルモノハ柔軟ニシテ內部ハ黃褐色ナレトモ十分乾キタルモノハ硬ク脆ク暗褐色ニシテ破碎面光澤アリ麻醉性アリ臭氣アリ味苦烈ナリ僅ニ水ニ溶解ス醫療ニハ細カク刻ミ六十度ニ過キサル溫度ニテ乾カシ粉末トシテ用ユ美濃國本巢郡諸村ニハ天保ノ頃ヨリ製ストト云フ其栽培製法ハ單辨白花ノ罌粟種子ヲ秋ノ霜降ノ前畑地ニ下シ翌年春分ノ頃嫩苗ノ餘分ヲ摘ミ除キテ凡六寸間ニ一株ヲ培養ス肥料ハ人尿油

滓藁灰ノ類ヲ用フ五月下旬花ヲ開ク大ナルハ徑三寸五分許花落チテ實ヲ生ス十四五日間ヲ經テ實ノ長サ二寸八分周五寸許ニ達ス其時剃刀ヲ以テ實ヲ縱ニ輕ク切ルコト三線其後毎日切ルコト三線七日間ニシテ畢リ一實ノ切傷二十一線トナル切入ノ時刻ハ午後第五時ヨリ日沒以內ナルヲ要ス其切入レタル線ヨリ白汁ノ湧キ出テタルヲ竹ノ篦ニテ拭ヒ取リ瓷盃ニ入レ液汁四五日ノ量ヲ集メ鑵ニ擴ケテ烈シキ日ニ乾セハ固結シテ黑乾色ニ變ス毎一段凡一斤半ヲ得ヘシト云フ（社會事林）

阿片煙ニ關スル罪ニ付テハ舊刑法ノ規定ト殆ント大差ナシ元來刑法ニ於テハ自身ノ生命ヲ絕ツ如キ行爲例ヘハ自殺ヲモ之ヲ罰スルコトナシ（第二百二條參照）然ルニ自カラ有害物ヲ吸食シテ其健康ヲ傷フカ如キ彼ニ比シテ輕微ノ所爲ヲ禁止處罰セントスルハ立法ノ精神トシテ寧ロ公共ノ安寧社會ノ風紀ニ重キヲ置キタレハナリ蓋シ阿片吸食ノ害弊ハ印度、支那、臺灣ニ於テ盛ンニ行ハレ蕩々トシテ已ムコト無シ聞說ク何人ト雖モ一度之ヲ吸食スル時ハ其氣ニ酹レ恍惚トシテ人生ヲ忘レ遂ニ其害毒ノ心身ヲ汚盡スルニ至ルヲ知ラスト、人々相喧傳シテ靡然風ヲ爲サハ社會ノ前途甚タ危カラントスルモノアリ是レ新舊二法何レモ爲メニ罰規ヲ設ケタル所以ナリトス（阿片ニ關スル詳細ノ事項ニ付テハ明治三十年三月法律第二十七號阿片法、同月內務省令第四號阿片法施行規則、明治三十年一月律令第二號臺灣阿片法、同月臺灣總督府令第十號同令施行規則等ヲ參照セラルヘシ）

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入シ、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス（舊刑法第二百三十七條）

「輸入」トハ帝國外ヨリ帝國版圖內ニ運漕シ來ルコトヲ云フ必シモ關稅線內ニ入ルコトヲ要セス大審院ハ陸揚ヲ以テ輸入ノ既遂ナリト云ヘトモ（明治三十七年第二千五百九號、同四十年第六百八十七號判例參照）曰ク刑法ニ所謂輸入トハ關稅法同法施行規則及關稅定率法等ニ所謂輸入ト同一義ニシテ陸上ニ在テハ國境線ヲ越エ海上ヨリスル時ハ船舶ヨリ陸揚シテ外國貨物ヲ我國內ニ運入ルル行爲ヲ云フ故ニ外國貨物ヲ積載セル船舶カ我領海內ハ勿論我港內ニ入ルモ是ヲ以テ貨物ノ輸入アリタルモノト謂フヲ得ス蓋シ外國ヨリ來レル貨物ハ輸入ニヨリ內國貨物トナルモノナレハ其輸入アリトスルニハ陸揚ニ依リ貨物カ船舶トノ關係ヲ離レテ我邦土內ノ貨物トナレル事實アルヲ要スルハ勿論外國貨物ノ輸

入ヲ爲サントスル者ハ輸入ニ先チ官ノ免許ヲ受クルヲ要スルコトハ關稅法第三十一條及第七十六條ノ規定ニ徵シ明瞭ナルニ同第三十一條ノ規定ニヨレハ其免許ハ船舶ノ入港後貨物ノ檢査ヲ經タル上受クヘキモノナルニ依テ見ルモ船舶カ我領海內ハ勿論我港內ニ入ルモ未タ是ヲ以テ貨物ノ輸入アリタルモノトセサル立法ノ趣旨自ラ明ナルヲ以テナリト、是レ吾輩ノ見解ト異ナル）次ニ第三國ニ輸入スルタメ帝國版圖ノ一部ヲ通過スル場合ハ如何　吾輩ハ疑問ナカラ處罰スヘシトノ說ヲ採ル

「所持」トハ或ル物ヲ其實力內ニ置ク關係ヲ云フ、占有、所有ト其意義ヲ異ニス、物ト所持者ト直接接觸セサルモ可ナリ隨意ニ實力ヲ加ヘ得ヘキ範圍ニ在ルヲ以テ足レリトス

「販賣」トハ其義廣シ明治三十九年六月十五日ノ大審院判決ニ依レハ我刑法上販賣ナル文辭ハ營業又ハ營利ノ爲ニスル販賣行爲ハ勿論民法上ノ賣渡行爲ヲモ指稱スル爲メ用キラレタルコトハ同法第百五十七條第二項、第二百三十七條、第二百三十八條、第三百九十三條、第四百二十五條第三號等ノ法文上明白ナレハ骨牌稅法第十四條第一項後段ノ販賣ナル文辭モ亦之レト同一意義ニ解スルヲ以テ其當ヲ得タル者トス加之同條第一項前段ニハ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ヲ處罰スルノ規定アリテ其製造ニ付テハ酒造稅法酒精及酒精含有飲料稅法ノ適用ニ付キ從來本院ノ判示シタルト同樣營業又ハ營利ノ爲ニスル製造ハ勿論自用ノ爲ニスル製造ト雖モ免許ヲ受ケサルモノハ總テ之ヲ禁スル立法ノ趣旨ナルコト毫モ疑ナケレハ同條第一項後段ニ所謂骨牌ノ販賣ニ付テモ之ト同樣營業又ハ營利ノ爲ニスル無免許販賣ハ勿論民法上ノ賣渡行爲ト雖モ免許ヲ受ケサルモノハ總テ之ヲ爲スヲ禁スルモノト解セサル可カラス何トナレハ同一條項中ニ於テ骨牌ノ販賣ニ付テハ營業又ハ營利ノ爲ニスルコトヲ要件ト爲シ其製造ニ付テハ之ヲ要件トセサルモノト分離解釋ヲ爲スノ論據ナキノミナラス徵稅ノ目的ヲ達スル爲メ卽チ脫稅ヲ豫防スル爲ニハ免許ヲ受ケスシテ骨牌ヲ製造スルコトヲ悉ク禁スルノ必要アルト同樣免許ヲ受ケスシテ其販賣ヲ爲スコトヲ悉ク禁スルノ必要アルヤ論ヲ俟タサルヲ以テナリ　是故ニ骨牌稅法及同法施行規則中骨牌ノ販賣ヲ以テ營業トナスニアラサレハ適用スルコトヲ得サル條項ナキニアラスト雖モ之レカ爲メ同法第十四條第一項ノ販賣ナル文辭ヲ營業又ハ營利ノ爲メニスル販賣ノミヲ指稱スルモノト狹義ニ解釋シ免許ヲ受ケスシテ民法上ノ賣渡行爲ヲナシタルモノヲ不問ニ附スルヲ得サルモノトス

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若ク

ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役二處ス（舊刑法第二百三十八條）

第百三十八條　稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役二處ス（舊刑法第二百三十九條）

「許シ」トハ明示默示共ニ之ヲ含ム

第百三十九條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役二處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役二處ス（舊刑法第二百四十一條、第二百四十條）

「房屋」人ノ眠食シ得ヘキ工作物及ヒ其各房ヲ云フ廣義ノ建造物ヲモ含ムト解ス可シ（第百三十條說明參照）余ハ其邸宅ノ一部ヲ貸シタル場合モ猶ホ本條ヲ以テ罪シテ可ナリト信ス但シ房屋ノ文辭ハ通常狹ク解セラルヘキヲ以テ此解或ハ通說ニ反スルナラム

「利ヲ圖リタル者」ナラサレハ房屋ヲ給與スト雖モ罪トナラス但シ利ヲ圖ルノ意思アラハ事實利ヲ得タルヤ否ヤハ問フ所ニアラス

第百四十條　阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役二處ス（舊刑法第二百四十二條）

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第二百四十三條）

「供スル」トハ現ニ供シツツアルモノヲ云ヒ供セハ供シ得ルテフモノヲ含マス

「淨水」トハ常識ヲ以テ淨水ト云ヒ得ヘキ程度ノモノヲ云ヒ醫學上衛生上果シテ眞ニ淨水ナルヤ否ヤヲ問フヲ要セス又本章ニ云フ淨水トハ井戸ノ如ク主トシテ相當人數ノ日常使用ス可キ飲料水ノミヲ想像シ器ニ盛リテ特定ノ人ニ與フル類ノ如キハ之ヲ含マストト解ス

可シ

「人」トハ自己以外ノ一切ノ他人ヲ云フ自己ノミノ飲用スル淨水ヲ汚穢スルモ罪トナルコトナシ其淵源(井戸、河井、湖沼等)ノ自己ノ有ニ屬スルト否トヲ問ハス又獸類ノ飲用ニノミ供スルモノハ之ヲ含マス

「汚穢」トハ泥土塵芥等ヲ混入シ或ハ水底、水源ヲ攪亂シ化學作用若クハ機械ノ作用ニ依ルニアラサレハ飲用シ得ヘカラサルモノヲ云フ「之ヲ用ヰルコト能ハサルニ至ラシメタル者」トハ必スシモ絶對ニ用ヰ能ハサルコトヲ云フニアラス化學作用若クハ機械ノ力ヲ藉ラハ用ヰ得ヘキニ至ルモノト雖モ「用ヰルコト能ハサルニ至」リタルモノト云フ可シ

第百四十三條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

「之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメ」公衆ノ之ヲ用フルコト能ハサルニ至リタルコトヲ云フ一二之ヲ用フル人アルモ妨ナシ

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑法第二百四十四條)

「毒物」トハ僅少ノ分量ヲ以テ化學的ニ人ノ生命身体ヲ害ス可キモノヲ云フ

「健康ヲ害スヘキ物」トハ少量ニテ人ノ身体ヲ害スヘキモノヲ云フ如何ナルモノト雖モ之ヲ過當ニ用フレハ健康ヲ害スルモノナレハナリ

本條ニ付テ二問アリ

(一)　混入トアルカ故ニ或ル化學的作用ヲ以テ化合セシメタルモノハ之ヲ罰スヘキヤ

化合ハ混入ニ比シ更ニ其程度モ高ク其性質モ複雜ナリ故ニ勿論解釋トシテ之ヲ罰スヘシ

(二)　獨逸刑法第三百二十四條ニ他人ノ使用ニ供スル泉井、瀦水機又ハ公然販賣使用ノ爲メ設ケタル物件ニ毒物ヲ投入シ又ハ人ノ健康ヲ害ス可キコトヲ知リテ其物品ヲ混和シタル者及ヒ其毒物ヲ投入シ又ハ有害物ヲ混和シタルモノナルコトヲ知リ默秘シテ販賣シ陳列シ又ハ流通セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス」トノ明文アレトモ我刑法ニハ飲用水ニ關スル相當條文(人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ

物ヲ混入シタル者アルコトヲ知リテ默秘流通セシメタルモノヲ罰スル條文）ナシ而カモナホ斯ル場合ヲモ本條ニヨリテ罰スルコトヲ得ルヤ否ヤ

此問題ハ斯ル場合ニ當該役員ニ申告スヘキ義務アル者ナルヤ否ヤニ因リテ結論ヲ異ニス假令本條ニ所謂「混入」ナル文字ハ積極的動作ヲ示スモノナレトモ申告義務アルモノ默秘流通セシメタル場合ハ不作爲ニ因ル本條違犯ナリ之ニ反シ義務ナキモノニ付テハ罪トナルコトナシ

本條ハ「混入」ノ意思ハ之ヲ要スレトモ殺傷ノ意思アルヲ要セス若シ之アラハ殺傷罪ナリ殺傷ノ意ナクシテ殺傷ノ結果ヲ生シタル場合ハ次ノ第百四十五條第百四十六條ニ依ルヘキモノトス

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス（舊刑法第二百四十五條）

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

「損壞」「壅塞」共ニ水道ノ效用ヲ全失セルト否トヲ問フコトナシ仍ホ第百二十四條說明ヲ參照セラルヘシ

本章ト舊刑法ノ規定トノ重ナル差異

（一）本章ノ罪ハ事公共ニ關シ其結果甚タ重大ナルモノアルニモ拘ラス舊法ハ一年ノ重禁錮ヲ以テ最重トセリ是レ甚タ不當ナル規定ニシテ輕ニ失セルモノト云ハサル可カラス故ニ新法ハ課スルニ重刑ヲ以テセリ

（二）舊法制定ノ時代ニ於テハ現今ノ如キ水道ノ設備ナク隨テ之ニ關スル規定ヲ缺如シ加之一家若クハ數家ノミニ供給スル飲料水ノミヲ眼中ニ置キタルヲ以テ刑罰モ亦單調ナリシカ新法ハ之ニ反シ種々ノ場合ニ隨ヒテ刑律ヲ區別シ以テ實際ノ必要ニ應セシメタリ

第十六章　通貨僞造ノ罪

本章ノ說明ヲナスニ當リ豫メ通貨ニ關スル大体ノ性質ヲ述フルヲ便利ナリトス可シ

凡ソ貨幣ハ次ノ三性質ヲ有ス（イ）一般的價格ノ標準（ロ）一般的交換要具（ハ）一般的支拂要具是ナリ而シテ是等ノ性質ヲ有スルニ至ルハ國家ノ强制其淵源ヲ爲スニ因ル貨幣ニハ帝國ノ貨幣ト外國ノ貨幣トアリ又前述ノ如キ强制力アル貨幣ト强制力ナキ貨幣トアリ前者ヲ完全貨幣ト云ヒ後者ヲ不完全貨幣ト云フ

刑法ニ所謂通貨トハ所謂强制通用スルモノノ謂ニシテ不完全貨幣ハ之ヲ含マス例ヘハ外國貨幣ノ如キ我國ト貨幣同盟條約アル諸國（現今ハ斯ル國ナシ）ノ貨幣ニアラサレハ此中ニ入ルコト無シ（明治三十八年法律第六十七號外國ニ流通スル貨幣紙幣銀行券、證券ノ僞造變造及模造ニ關スル件參照）

通貨ニハ單位ナルモノアリ通貨ヲ計算スル基本トナル可キ位ニシテ重量ト性合トノ一定シタルモノヲ指シ之ヲ圓ト云フ單位以上ノ計算ハ凡テ十進法ヲ用フレトモ單位以下ハ百分ノ一ヲ錢トシ錢ノ十分ノ一ヲ厘トス斯クノ如ク通貨ノ單位タル圓ハ純金ノ量目二分ニ該當スルモノナレトモ是レ單ニ理想上ノ標準タルニ止リ一圓ノ通貨トシテハ從來用ヰ來レル一圓ノ兌換銀行券アルノミナリ次ニ通貨ハ貨幣、紙幣及ヒ兌換銀行券ノ三種トスルヲ常トスルモ我國ニ於テハ明治卅六年以前ニ通用シタリシ政府紙幣ト國立銀行紙幣トハ同年十二月三十日限リ其通用ヲ禁止セラレタルヲ以テ現今我國ニ於テハ全ク紙幣ナルモノナシ（明治四年十二月布告紙幣條例、同九年八月布告第百六號國立銀行條例、同十八年六月布告、同廿九年十月大藏省告示第七十八號、同廿九年三月法律第八號國立銀行紙幣ノ通用及引換期限ニ關スル件、同三十一年法律第六號政府發行紙幣通用廢止ニ關スル件參照）卽チ貨幣ト兌換銀行券トノ二種アルノミ而シテ貨幣ハ政府ノ鑄造且ツ發行セルモノニシテ貨幣法ニヨレハ金銀貨幣、白銅青銅貨幣ノ四種ト定マレトモ其他ニ貨幣法施行前ニ發行セラレタル金銀銅ノ三貨幣ニシテ從前通リ通用ヲ認メラレタルモノアリ貨幣ニ本位ナルモノアリ卽チ賣買取引ニ供セラル可キ交易媒介ノ標準トシテ國家ノ認ムル所ニシテ本位貨幣ヲ以テスルトキハ法律上如何ニ巨額ノ仕拂ヲモ爲シ得ルモノナリ本位ニ種々ノ制度アリ所謂金本位銀本位等是ナリ我國ニテハ明治三十年法律第十六號ノ貨幣法ニ因リ金貨本位ヲ採用シ同年十月一日ヨリ實施セリ本位貨タル金貨ハ其品位九百卽

チ金九銅一ノ割合ヲ有スルモノニシテ五圓、十圓、二十圓ノ三種アリ本位貨ニ對スルモノヲ補助貨ト云フ銀貨銅貨是ナリ銀貨ハ品位八百ニシテ十錢二十錢五十錢ノ三種アリ十圓迄ヲ通リ法貨トシテ流通ス次ニ白銅貨幣ハ品位二百五十卽チニッケル二百五十銅七百五十ノ割合ヲ有シ五錢ノ一種ニ限リ一圓迄ヲ限リ法貨タリ青銅貨幣ハ品位九百五十位卽チ銅九百五十錫四十亞鉛十ノ割合ヲ有スルモノニシテ一錢、五厘ノ二種アリ一圓迄ヲ限リ法貨タリ

兌換銀行劵ハ明治十五年太政官布告三十二號日本銀行條例ノ規定ニ本キ十七年太政官布告第十八號兌換銀行劵條例等ノ規定ニ從ヒテ日本銀行ノ發行スルモノニシテ一、五、十、二十、五十、百、三百ノ七種アリ此兌換銀行劵ハ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ準備トシテ發行スルノ外一億二千萬ヲ限リ政府發行ノ公債、大藏省證劵其他確實ナル證劵又ハ商業手形ヲ保證トシテ發行スルコトヲ得ルモノトス但シ日本銀行ニシテ市場ノ狀況ニヨリ流通貨ノ增加ヲ必要トスルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ更ニ上述ノ證劵ト手形トヲ保證トシテ其以上ノ發行ヲ爲スコトヲ得ルモ此場合ニハ其發行額ニ對シ發行稅ヲ徵收セラル此兌換銀行劵ハ所持人ノ請求ニ應シ何時ニテモ日本銀行ニ於テ同額ノ金貨ヲ以テ兌換セラル可キモノニシテ租稅、手數料其他一切ノ取引ニ通用スヘキモノトス臺灣銀行モ或制限付ノ銀行劵ヲ發行ス(明治三十年法律第三十八號臺灣銀行法第八十一條)其僞造ニ關シテハ本章ノ適用ヲ受ク明治三十八年法律第五十一條、橫濱正金銀行ハ關東州及淸國ニテ銀行劵ヲ發行ス(三十九年勅令第二百四十七號)其僞造等ニ關シテハ三十年法律第六十六號ノ適用ヲ受クルモノナリ

通貨ニハ三箇ノ價格アリ(イ)法價トハ法律ヲ以テ定メラレタル價格ニシテ各種ノ通貨面ニ之ヲ表章セリ(ロ)實價トハ通貨ヲ組成スル物質ノ價格ニシテ普通之ヲ潰シ價ト云フ其品位、重量、磨滅等ノ如何ニヨリ高低アリ(ハ)市價トハ通貨カ市上ニテ有スル價格ニシテ實際他物ト交換セラレ他種ノ通貨ト交換セラルル割合ニ由リテ定マルモノナリ

貨幣僞造罪ハ古昔何レノ國ニ於テモ特殊ノ名稱ノ下ニ極メテ峻刻ナル刑罰ヲ科スルヲ常トセリ例ヘハローマニ於テハ之ヲ山野ニ投棄シ猛獸ノ餌ト爲セルカ如キ是ナリ蓋シ一ハ古代ニ於テハ貨幣鑄造ノ權ハ君主ノ大權ノ一部ナリト看做サレタルカ故ニ其之ヲ僞造スル罪ノ如キハ君主ノ大權ヲ犯スモノニシテ所謂大逆罪ノ一ナリト認メラレ又他方ニ於テハ當時凡百ノ學藝幼稚ニシテ貨幣鑄造法ノ如キ極メテ簡畧ナリシヲ以テ之ヲ僞造變造ス

ルコトモ亦容易ナリシヲ以テ酷刑ニ依リ犯罪ヲ抑制セント欲シタルモノニ似タリ

然ルニガロー氏モ云ヘル如ク近世財政學ノ發達ト共ニ貨幣鑄造權ハ君主ノ大權ニ屬セス只當該國公益ノ維持上此權ヲ政府ニ保有スルニ在ルコト猶ホ彼ノ煙草ノ製造又ハ販賣ヲ政府ノ手ニ留保スルカ如シ故ニ其刑罰モ亦漸次緩和ニ趣クニ至レリ

貨幣僞造ノ罪ハ虛僞ノ貨幣ヲ受取リタル者ヨリシテ之ヲ見レハ純然タル詐欺取財ニ過キス然レトモ貨幣其者ノ性質タル國家ノ信用ヲ表現シ一般取引ノ標準且媒介タルモノナレハ之ニ對スル疑惧ノ念ハ公安ニ害アリテ普通詐欺取財ト稍其性質ヲ異ニセリ是レ舊刑法カ特ニ信用ヲ害スル罪ノ一トシテ規定セル所以ナリ但シ本罪ハ獨リ信用ニ關スルノミナラス寧ロ他方ニ於テ貨幣鑄造ノ政府ノ獨占權ヲ侵害スル犯罪ナリト見ルヲ重シトナス可シ故ニ新法ハ特別罪トシテ之ヲ定メタリ第百四十八條ハ內國ノ通貨ニ關スル罪第百四十九條ハ外國ノ通貨ニ關スル罪第百五十條ハ通貨收得ニ關スル罪第百五十一條ハ以上諸罪ノ未遂罪第百五十二條ハ收得行使又ハ行使ノ目的ヲ以テスル交付罪第百五十三條ハ準備罪ヲ規定セリ以下之ヲ詳說セン

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ（舊刑法第百八十二條、第百八十四條、第百八十五條、第百八十九條）

以下說明ノ便利ノ爲メ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ合シタル名稱トシテ假リニ寶貨ヲ語ヲ使用ス可シ

「行使」トハ所謂流通ニ置クト解スルヲ普通トスレトモ流通トハ單ニ寶貨トシテノ用ヲ充スヲ以テ足レリ必スシモ所持ノ移轉ヲ含マスト解セサルヘカラス卽チ他人ヲ欺キ眞正ノ寶貨ノ流通トシテ之ヲ承認セシムルコトヲ云フ故ニ學術研究ノ爲メ、好奇ノ爲メ若シクハ玩弄ノ爲メニスルモノハ行使ニアラス又共犯者ノ一人又ハ僞造寶貨タルノ情ヲ知ル者ニ交付スルカコトキ亦然リ仍ホ行使ノ意義ヲ明ニセンカ爲メ次ノ二例ニ依リ之ヲ說明セン

（一）自ラ眞貨ニ裝ヒテ使用シタルハ其行使タルコト毫モ疑ナシト雖モ眞貨トシテ使用

セントスル意思アルモノニ引渡スコトハ之レヲ行使ト云ヒ得ヘキヤ

此問題ニ付テハ曾テ外國ニ實例アリ或銀行ノ發行シタル紙幣ト極メテ判別シ難キ物ヲ製造シテ之ヲ賣渡シタルモノアリ此賣渡人ヲ紙幣僞造行使者トシテ處罰スヘキヤ否ヤニ關シ議論二ツニ岐レタリ之ヲ罰セストスル論者ハ曰ク此ノ如キハ未タ世上ニ流通セシメタルニアラスシテ一個ノ印刷物トシテ賣買シタルニ過キス賣買ノ目的ヲ以テ寶貨ヲ僞造セルモノハ未タ「行使ノ目的ヲ以テ僞造セルモノ」ト云フコト能ハストシ之ヲ罰スヘシトスル論者ハ曰ク本問題ノ製造者カ買受人ニ讓渡シタル點ノミヲ以テ印刷物ノ賣買ニ過キストナスハ尚未タ盡ササル所アリ卽チ自分カ寶貨トシテ他人ニ引渡サストモ已ニ僞造タルノ情ヲ知ル者又ハ其情ヲ知ラサル他人ノ手ヲ經テ寶貨トシテ世上ニ流通セシメントスル意思アリ行爲アル以上ハ其行爲ノ賣買タリ交換タリ贈與タルヲ問ハス均シク行使ト云ハサルヘカラスト余輩ハ此後者ノ說ヲ可ナリト信ス

（二）所謂見セ金トシテ會社又ハ銀行カ法令ノ規定ニヨリ或ル時期ニ於テ相當ノ現金ヲ所持スルコトヲ必要トスルコトアリ此場合ニ僞造寶貨ヲ金庫內ニ陳列シテ檢査員ヲ欺キタリトセンニ如此ハ目シテ犯罪行爲トナシ僞造罪ニ問フコトヲ得ルヤ

此場合ハ世上ニ流通セシムル行爲無キコトハ明ナリト雖モ寶貨ト認メシメ檢査ヲ濟了シ得タルモノニシテ僞造物カ寶貨トシテノ用ヲ充シタルモノナレハ行使ト云フコト毫モ妨ナシ多數ノ學者ハ此場合ハ流通ニ置キ他人ノ手ニ轉轉セリト云フ事實ナキヲ以テ行使ト云フコトヲ得スト論スレトモ誤ナリ勿論一般ニ僞造又ハ變造寶貨ヲ展示シテ他人ニ之ヲ眞貨ナリト誤信セシメタル場合ハ罪トナルモノニアラサルコト彼等ノ論ノ如キモ若シ其他人ニシテ相當權限ヲ有スルモノニ係リ當該他人ノ誤信其者カ已ニ僞造變造物ヲシテ一種ノ寶貨トシテノ效用ヲ充タサシメタル結果トナリシコトヲ思ヘハ是レ亦一ノ流通ニシテ本條ノ罪ヲ構成スルモノナルコト明ナリト信ス

「目的」トハ行爲ノ理由ニシテ犯罪意思ノ原因ナリ行使ヲ目的トセサル僞造變造ハ罪トナルモノニアラス舊刑法カ殊更ニ行爲ノ目的ヲ必要トナササリシニアラサルニ拘ラス「目的トシテ」ナル文辭ヲ明記セサリシハ缺點ナリ

「通用」トハ法律上通用セラレ居ルコトノ義ニシテ所謂現ニ行ハレテ居ルコトヲ云フ故ニ强制通用力ナキ外國寶貨、舊貨幣ノ如キハ之ヲ含マス次ノ第百四十九條ノ「流通」ト其意義異ルコトヲ注意セラル可シ但シ通用期限後ト雖モ交換期限中ハ寶貨ハ仍ホ通用セル寶

貨ト解スヘシ外國貨幣ト雖モ貨幣同盟條約ニヨリ我國ニ(通用)强制スルモノハ勿論之ヲ含ム

「貨幣」トハ現今ニ於テ金、銀、銅三種ノ硬貨ヲ云ヒ「紙幣」ハ現今之ヲ見ス

「銀行券」トハ兌換銀行券條例ニ基キ日本銀行ニ於テ發行スルモノヲ云フ尙ホ是ニ付テハ前ノ說明ヲ參照セラル可シ　其他特別通用ノ性質ヲ有スル銀行券ハ後章有價證券ニ屬シ本條ノ所謂銀行券ニ包マス又第一銀行カ朝鮮ニテ發行スル銀行券ノ如キハ本條ノ適用ヲ受ク可キモノニアラスシテ明治三十八年法律第六十六號ニ依ルモノトス

「僞造」トハ無權者カ眞正ナル寶貨ニ模擬セル物件ヲ製造スルコトヲ云フ、次ニ之ヲ分析說明スヘシ

(イ)　無權利者ナルコトヲ要ス、國家ハ寶貨ノ鑄造又ハ製造ノ獨占權ヲ有シ私人ヲシテ之ヲ擅用セシメス蓋シ其弊甚大ナルヲ以テナリ但シ現今ニ於テハ特ニ日本銀行ニ認許シテ一般通用ノ銀行券ヲ發行セシム故ニ玆ニ所謂無權者トハ政府若クハ日本銀行ナラサルモノヲ云フ、通貨僞造罪ハ一方ニ於テハ國家ノ獨占權ヲ侵害スルモノナルヲ以テ苟モ無權者ノ製出ニ係ルモノタル以上ハ其物カ假令眞正ノ通貨ト其實質及ヒ形式ニ於テ同一ナルト否トヲ問ハス均シク僞造罪トスヘキナリ

(ロ)　模擬ノ程度ハ普通ノ注意ヲ以テ識別スルヲ得サルヲ以テ足ル、故ニ熟練ナル技師若クハ銀行家カ之ヲ識別シ得或ハ貨幣ニ關スル經驗ノ尤モ少キ者カ之ヲ識別シ得サルトハ共ニ問フ所ニアラス、之ヲ以テ小供ノ使用スル玩弄紙幣、表面ノ一部紙幣ノ如クナルモ他ノ部分ハ全ク紙幣ノ如クナラサルモノ(例ヘハ之ヲ四ツ折ニ爲セル表面ノミ紙幣若クハ銀行券ニ類似スルモノ)ノ如キハ普通ノ注意ヲ以テスレハ直ニ發見シ得ラル可キモノナルヲ以テ僞造通貨ニアラス

(ハ)　日本銀行ノ發行スル銀行券ト雖モ發行ノ手續ヲ經履セサルモノハ眞正ノ銀行券ニアラス然レトモ發行手續ノ如キハ事內部ノ關係ニシテ外部ヨリ之ヲ窺知スルコト能ハサルモノナルヲ以テ其實質及ヒ形式ニシテ普通銀行券ト相違スル所ナクンハ之ヲ僞造通貨ト稱スルコトヲ得ス政府發行ノ通貨ニ付テモ亦同シ

(ニ)　僞造貨幣ノ實價ハ金屬貨幣ノ僞造ニ付テハ眞物ヨリ劣ルヲ常トスルモ彼此同一ノ實價ヲ有スルモ仍ホ僞造タルコト已ニ述ヘタル所ナリ殊ニ補助貨ノ如キ政府發行ノ物ト雖モ其表章價格ニ比シ其實價低キモノニ就テハ其然ルヲ見ル、或學者カ實價ヲ減削

セサル場合ニシテ其形式亦眞通貨ト同シキ場合ハ僞造ニアラスト論スレトモ斷シテ誤ナリ但シ寶貨ノ眞價ヲ一旦失ヒタル物件ヲ材料トシテ新ニ寶貨ニ酷似セルモノヲ作ルコトモ亦僞造ナリ蓋シ已ニ其本体ヲ失ヒタルモノナレハナリ

（ホ）眞正ノ通貨以外ノモノヲ材料ニ用フルコトヲ要ス、眞貨ヲ材料トシタルモノ例ヘハ五厘銅貨ヲ二十錢銀貨ニ改作スルカ如キハ僞造ニアラス變造ナリ（次ノ説明參照）材料ヲ眞價ニ採ルハ變造ナリ）僞造ト變造トノ區別ハ「既存ノ貨幣ヲ利用シ新貨幣ヲ作製シタルヤ又ハ僞造貨幣ノ材料ヲ貨幣以外ノ物件ニ採リテ新タニ貨幣ヲ作製シタルヤニ非スシテ其ノ種類如何ヲ論セス犯人ハ或種類ノ貨幣ニ工作ヲ加ヘテ之ト其種類ヲ同ウスル他ノ貨幣ヲ製出シタルニ過キサルヤ若クハ別ニ新ニ特種ノ貨幣ヲ製造シタルモノナルヤニ在リ」トノ説アリ一應ノ理アルカ如クナレトモ余輩ハ寧ロ上叙ノ如ク實際ニ適切ナル見解ヲ採ラント欲ス

（一）實際問題トシテ二圓、三圓等ノ銀貨ノ外形アルモノヲ製造シタルカ如ク實際如此銘價ノ貨幣ナキモノヲ製造シタル場合ハ之ヲ僞造ト云ヒ得可キヤニ付テモ議論分レタリ但シ如此ハ事實問題トシテ解決ヲ要スヘキモノニシテ此ノ如キ銘價ヲ有スル貨幣ハ貨幣ニ關スル法令ノ認ムル所ナラサルモ他人カ此ノ如キ銘價ヲ有スル貨幣ナリト信スヘキ（普通ノ注意ヲ以テ）理由アル場合ハ僞造罪ナリトセサル可カラス但シ最モ多クノ場合ニ於テハ僞造罪ナラサルコト勿論ナリトス（詐欺取財罪）猶ホ變造ニ付テモ亦同シ參照セラルヘシ

「變造」トハ無權者カ眞正ナル通貨ノ上ニ其實價又ハ形式ノ變更ヲ加ヘ以テ他ノ眞貨ニ模擬セシムルヲ云フ、ナホ之ヲ分析説明スレハ

（イ）製出セル物件ハ貨幣ニ酷似スルコトヲ要ス而シテ其酷似シタルヤ否ヤハ普通ノ注意ニ因ルヲ以テ足レリトス

（ロ）僞造トノ差異ハ其材料ヲ眞價ニ採ルト否トニアリ

（ハ）製出セル物件カ實價以上ノ價格ヲ有スルモ亦變造タルヲ失ハサルコト僞造ノ場合ニ等シ

（ニ）實價ヲ變更スト云フハ例ヘハ金屬貨幣ノ内部又ハ外部ヲ除去シ若クハ鍍金シテ他ノ貨幣ニ變更スルカ如キヲ云フ但シ其除去スル部分多キニ過キ通貨ノ体ヲ全ク失フトキハ之レ變造ニアラス破壞ナリ

形式ヲ變更ストハ其銘價ヲ變更シ其他法定形式卽チ法律或ハ大藏省令ニ定メタル形式ニ變更ヲ加フルコトヲモ意味ス但シ紙幣若クハ銀行劵ニハ元來實價ナキモノナルヲ以テ其變造ハ皆形式ノ變更ノミト解スルヲ便トナス

（ホ）實價ハ減少ハ必スシモ公差以上ニ至ルヲ必要トセス公差トハ實際ノ純分量目ト法定ノ純分量目トノ間ニ上下共細微ノ差違ヲ存スルコトヲ法律ニヨリ定メタル場合ヲ云フ、故ニ硫酸删取又ハ流汗法ニヨリ公差ノ範圍內ニ於テ實價ヲ減少スルカ如キ亦變造ノ一タリトス

「交付」トハ廣ク所持ヲ移スコトヲ云フ有償ナルト無償ナルトヲ問ハス本條ノ交付ハ單ニ交付者カ行使ノ目的ヲ有スルヲ以テ足リ之ヲ收得セル者カ果シテ行使シタルト行使セサルト若クハ最初ヨリ行使ノ意思ナキモノタルト或ハ後ニ至リテ行使ノ意思ヲ翻シタルトヲ問ハス苟モ交付者カ行使サルヘキモノナリト信スル理由アリテ之ヲ交付シタル場合ハ、凡テ之ヲ含ム或ル學者カ此場合ノ收得者モ亦行使ノ目的ヲ有セサルヘカラストナシ第百五十條ノ收得者ニ該當スルモノナリト論スレトモ全ク誤ナリ但シ實際ノ場合ニ於テハ論者ノ言ノ如キ場合多カランモ此場合ノミニ限ラサルコト識者ヲ俟タスシテ明ナルコトナリトス是レ恰モ第百五十條ノ收得者ニ對スル交付者ノ必スシモ行使ノ目的ヲ有スルモノタルト否トヲ問ハサルト同論ナリ

以上ヲ以テ文辭ノ解釋ハ之ヲ終レリ要スルニ本條ハ三箇ノ罪ヲ規定セルモノニシテ卽チ

第一、

行使ノ目的ヲ以テ通用シ貨幣、紙幣、又ハ銀行劵ヲ僞造又ハ變造シタル罪

行使ノ目的ヲ以テセスンハ罪トナラス

僞造變造スレハ已ニ本罪ノ既遂ナリ行使ニ着手セスト雖モ可ナリ是レ舊法ノ規定ト著シキ差異ナリ

第二、

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行劵ヲ行使シタル罪

其物件ハ僞造又ハ變造セル物ナルコトヲ要スルモ僞造又ハ變造セル者ニ於テ行使ノ目的ヲ有シタルト否トヲ問ハス只犯人ニ於テ其物件ノ僞造、變造セラレタル物タルヲ知ルヲ以テ足ル又之ヲ行使スルコトヲ要スルカ故ニ情ヲ知テ所持スルモ本條ノ罪トナラス（第百五十二條參照）

第三、

行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル罪

行使ノ目的ナクンハ本條ノ罪ヲ構成セス苟モ其目的アラハ其交付ヲ受クル者情ヲ知ルト否ト行使ノ目的ヲ有スルト否トヲ問フコト無シ是ニ付テハ尚ホ前頁「交付」ノ說明ヲ參照セラルヘシ

本條ノ罪及ヒ其未遂罪ハ本法第二條ニ因リ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ適用セラル蓋シ一國ノ財政權ニ對スル重大ナル侵害ナルヲ以テナリ斯ク其適用ノ範圍廣汎ナルヲ以テ外國法トノ關係亦一瞥ニ供セサルヘカラス左ニ二三ノ立法例中關係アル部分ヲ揭ケテ參考ト爲サン

甲、清律

凡私鑄銅錢者絞、匠人同　若將時用銅錢、剪薄小、取銅以求利者杖一百、若僞造金銀者杖一百徒三年

乙、佛蘭西法

第一三二條佛國ニ於テ法律上ノ流通力アル金銀貨幣ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一三四條佛國ニ於テ法律上ノ流通力アル貨幣又ハ外國ノ貨幣ニ彩色ヲ施シ以テ其金質ヲ欺ク者ハ六月以上三年以下ノ禁錮ニ處ス

丙、獨逸法

第一四六條內外國ノ貨幣又ハ紙幣ヲ僞造シテ眞正ノ貨幣又ハ紙幣トシテ使用シ又ハ通用セシメントシタル者、又ハ使用若クハ通用セシムルノ目的ヲ以テ眞正ナル寶貨ヲ變更シテ其正價ヨリモ高價ナル外觀ヲ與ヘ又ハ通用セサル寶貨ニ通用寶貨ノ外觀ヲ與ヘタル者ハ二年以上ノ徒刑ニ處シ云々

第一五〇條全價格ヲ有スルモノトシテ通用セシムルノ目的ヲ以テ通用貨幣ヲ磨キ又ハ之ヲ削リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其銖料ヲ減少シテ通用セシメタル者ハ禁獄ニ處ス……

丁、和蘭法

第二〇八條眞實ニシテ贋造セサル貨幣又ハ紙幣ナリトシテ行使シ又ハ行使セシメシカ爲ニ貨幣又ハ紙幣ヲ僞造變造シタル者ハ寶貨贋造ノ犯人トシ九年以下ノ禁錮ニ處ス

第二一〇條行使シ又ハ行使セシムルノ目的ヲ以テ貨幣ノ價格ヲ減少シタル者ハ貨幣變造ノ犯人トシ八年以下ノ禁錮ニ處ス

戊、伊太利法

第二五六條左ニ記載シタル者ハ三年以上十二年以下ノ懲役ニ處ス

一、國內又ハ國外ニ於テ法律又ハ商業上ノ流通力ヲ有セル內國又ハ外國ノ貨幣ヲ僞造セルモノ

二、何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス眞貨幣ニ具有スル價格ヨリモ高價ノ外觀ヲ與ヘ以テ之ヲ變造シタルモノ

三、貨幣ヲ僞造又ハ變造シタル者又ハ之ニ加巧シタルモノト共謀シテ僞造又ハ變造シタル貨幣ヲ國內ニ輸入使用又ハ其他ノ方法ヲ以テ流通ニ置カシムル爲メ他人ニ交付シタルモノ

若シ僞造又ハ變造カ法律又ハ商業上ニ於テ重大ナル價格ヲ有スル貨幣ニ係ルトキハ五年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

若シ僞造貨幣ノ實價ハ眞實ノ實價ト同一ナルカ又ハ其ヨリ大ナルトキハ一年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス

己、匈牙利法

第二〇三條眞正ナル寶貨又ハ全價格ヲ有スル寶貨トシテ通用セシムルノ目的ヲ以テ左ニ記載シタル所爲ヲ爲シタル者ハ寶貨贋造ノ罪ヲ犯シタル者トス

一、匈牙利又ハ外國ニ於テ通用セル貨幣又ハ紙幣ヲ僞造シ又ハ僞造セシメタル者

二、眞正ナル貨幣又ハ紙幣ノ上ニ其價格ヨリモ大ナル價格ヲ有セシム可キ性質ノ變更ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者

三、何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス眞正ナル匈牙利又ハ外國ノ金銀貨ノ實價ヲ減少シ又ハ減少セシメタルモノ

前ニ記載シタル同一ノ目的ヲ以テ廢却シタル寶貨ノ上ニ之ヲシテ通用寶貨ノ外觀ヲ裝ハシム可キ變更ヲ行ヒ若クハ行ハシメタル者

第二〇四條前條第一、第二號ニ記載シタル場合及廢却シタル寶貨ヲ變更シタル場合ニ於テハ五年以上十年以下ノ徒刑ニ處ス第三號ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役ニ處ス

劣等ノ貨幣若クハ之ニ代ルヘキ紙幣ニ前條ノ行爲ヲ爲シタル者ハ輕罪トシ六月以上三

年以下ノ禁錮ニ處ス

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

僞造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ（舊刑法第百八十三條、第百八十四條、第百八十九條）

「流通」トハ事實上ハ通用ヲ指シ法律上ハ强制通用ヲ含マス論者或ハ我帝國內ニ於テ法令上强制通用ヲ認メラレタル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ謂フト爲スモノアレトモ誤ナリ

是レ蓋シ法律カ特ニ通用ト流通トヲ區分シタル所以ニシテ本法討議ノ際政府委員ノ說明ニモ明ナル所ナリ若シ帝國政府カ認容シテ强制流通力ヲ有セシメタルモノナラハ帝國政府ノ獨占權ヲ侵シ公共ノ信用ヲ害スルコト何ソ前條ノ罪ト異ナル所アラン然ルニ之ヲ前條ノ罪ト區別シ罰スルニ輕刑ヲ以テセル所以ヲ考フルニ本條ノ罪ハ事實上ノ流通ヲ指スモノト解セサル可カラス方今國際ノ交通頻繁ヲ加ヘ來リ居住往來ノ密ナル實ニ甚シキモノアリ外國貨幣ト雖モ事實上我國內是等人々ノ間ニ流通スルモノ決シテ少ナカラス本條ハ蓋シ是等ヲ保護シ兼ネテ外國貨幣ヲ僞造變造スルカ如キ犯人ノ主觀的危險ナル傾向ヲ防クノ意ニ出テタルモノナリト解スルコトヲ要ス

卽チ强制通用力アル外國貨幣ハ前條ノ適用ヲ受ケ單ニ流通スルモノハ本條ノ適用ヲ受クルモノナリトス可シ（舊刑法第百八十三條ノ「內國ニテ通用スル外國ノ金銀貨ヲ僞造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス」トアルハ强制通用ノ貨幣ノミニ付テ之ヲ謂フ本條ノ罪ト其性質全ク異ナル學者之ヲ混同スルモノ多シ注意ヲ要ス）但シ內國ニ於テ流通ヲ禁セラレタル外國貨幣ハ之ヲ含マサルコト勿論ナリトス

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス（舊刑法第九十條）

「貨幣、紙幣又ハ銀行券」ハ第百五十二條ノ其レト共ニ前二箇條ニ謂フ所ノモノヲ包括セルモノヲ指セリ

「收得」トハ他人ヨリ取受スルコトヲ廣ク含ミ其收得ノ原因收得ノ方法如何ヲ問フコトナ

シ苟モ行使ノ目的ヲ以テ收得シタル者ハ直ニ本罪ヲ構成シ若シ之ヲ行使スルトキハ第百四十八條第二項ノ罪ヲ構成ス

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第百八十六條第一項）

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

但一圓以下ニ降スコトヲ得ス（舊刑法第百九十三條）

本條ハ收得ノ時情ヲ知ラス其後情ヲ知リテ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ニ交付シタル罪ヲ規定セルモノナリ

本條ノ物件ニ付テハ第百五十條ニ述ベタル所ト同シ

「名價」トハ其行使シタル貨幣、紙幣又ハ銀行券面ニ表章セル價額ヲ云フ例ヘハ僞造五十錢銀貨ヲ行使セル場合ハ一圓五十錢ノ罰金ニ處セラルルカ如シ

本條ノ罪ノ犯人ハ本來ニ於テハ惡意ナキモノナリシモ偶々僞造變造貨ヲ收得シタルニ因リ或ハ慾心ノ爲メ或ハ自己收得ノ損失ヲ償ハンカ爲メ一時ノ出來心ニヨリ名價額ニ對スル損得上ノ考慮ヲ以テ行使若クハ交付スル普通ナルニ至ルコト多シ故ニ三倍ノ罰科ハ能ク斯ル惡意ヲ矯正スルノ資ト爲スニ足ル是レ本條ノ處分アル所以ナリ

第百五十三條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス（舊刑法第百八十六條第二項）

本條ハ通貨僞造變造罪ノ準備ヲ罰スルコトヲ規定セルモノナリ蓋シ其惡結果ノ大ナルヲ慮リタレハナリ而シテ僞造又ハ變造ニ必要ナル器械全部ヲ準備スルヲ要セス其幾分ヲ準備セル時ハ既遂トナルモノナリ

以上ヲ以テ通貨僞造罪ニ關スル本章ノ說明ヲ終レリ仍ホ舊刑法トノ差ノ大要ヲ揭ケン

（一）已述ノ如ク舊刑法ハ僞造又ハ變造ナル行爲ト行使ナル行爲トノ二要素アルヲ俟チテ本罪ヲ構成スルモノトシ單ニ僞造ノミノ場合ニハ刑ヲ減輕スルコトトシタリ然レトモ是レ甚タ理由ナキコトナルヲ以テ新法ハ斯ル二要素ノ具有ヲ必要トセサルコトトナシタリ

(二) 新法ハ更ニ銀行券ニ關スル規定ヲ設ケタリ

(三) 舊法ハ貨幣カ金銀ナルカ銅ナルカニヨリテ其處分ヲ異ニシタルモ新法ハ特ニ此區別ヲ設ケス但シ僞造又ハ變造貨幣ノ性質、多寡如何ハ刑ノ輕重ニ影響スル所アルヘキハ勿論ナリ

(四) 舊法ハ內外貨幣ノ差ニヨリテ處分ヲ異ニセルモ新法ハ通用貨幣ト流通外國貨幣トノ差ニヨリテ處分ヲ分テリ

(五) 舊刑法ハ其第百八十七條、第百八十八條ニ於テ僞造變造ノ補助罪ヲ規定セルモ新法ハ總則ノ規定ニ讓リタリ

(六) 舊法ハ其第百九十二條ニ於テ自首ヲ規定セルモ新法ハ特ニ此規定ヲ必要トセス

第十七章　文書僞造ノ罪

本章ハ文書僞造變造ノ罪ヲ規定シ舊刑法第二編第四章第三節及ヒ第五節ノ規定ヲ修正セルモノニシテ其要領左ノ如シ

(一) 舊刑法ハ文書僞造罪ノ成立スル爲メニハ原則トシテ僞造ナル行爲ト行使ナル行爲トノ二要素アルヲ必要トセリ隨テ單ニ僞造シタルノミニテハ未タ罪トナラス然ルニ新法ハ之ニ反シ行使ヲ待タスシテ既ニ僞造ノ時ニ罪ハ成立スト爲シ行使ノ有無ヲ問ハサルコトトナシタリ

(二) 舊刑法ハ其第二百二條末段、第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ニ於テ官文書毀棄罪ノ規定ヲ設ケタリシモ元來毀棄ハ毫モ僞造ト關係ナキモノナルヲ以テ新法ハ之ヲ僞造罪ヨリ除キ財物毀棄罪中ニ規定シタリ

(三) 舊刑法ニハ官吏公吏ニ對シ詐僞ノ申立ヲナシ戶籍其他ノ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定無ク唯近來施行セラレタル戶籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルノミナルヲ以テ新法ハ殊ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

其他新舊兩法規定ノ詳細ナル差異ニ付テハ各本條ノ說明ヲ參照セラル可シ

各本條ノ說明ヲ始ムル前「文書」ノ意義ヲ大略述フル必要アリ

文書トハ言語又ハ言語ニ代ルヘキ符號ヲ以テ或物ノ上ニ附着セシメタル思想ノ表示ナリ

仍ホ詳細ニ說明スレハ

(イ) 文字ニハ單ニ音ヲ表ハスモノト(音標文字)直接ニ意義ヲ表ハスモノ(形象文字)ト

アレトモ苟モ其思想ヲ表ハスモノナル以上ハ文書ナリ之ニ反シ假令文字アリトモ思想ヲ表明スルモノナサラル場合例ヘハ名刺ノ如キハ文書ニアラス而シテ文字ハ西洋字タルト漢字タルト和字タルト速記文字タルトヲ問フコトナシ

（ロ）文字其他ノ附着セル物品ハ其性質ニ於テ毫モ制限ナシ布帛タルト竹木タルト革石タルトヲ問ハス

（ハ）文字ニアラサル符號ト雖モ苟モ思想ヲ表ハスモノハ文書ナリ電信ノ符號、盲者ノ符號等ノ思想ヲ表ハスモノ此例ナリ

（ニ）思想トハ單ニ意味ト云フノ義ニアラス文書行使ノ目的（次ニ說明ス可シ）ニ應シテ一定ノ思想ヲ示スニ足ル可キ章句ヲ爲スモノナラサル可カラス故ニ普通ノ額若クハ掛軸ニ天長地久又ハ山高水長等ノ文字ヲ表ハシタリトスルモ是等ノ表明ハ單ニ一ノ紀念若クハ美術トシテ爲サルルモノニシテ天長キカ故ニ如何ニ人ノ權利義務ニ關係スルカ、彼ノ高キ山ハ何故ニ高キカ、彼ノ水長キカ故ニ如何ナル結果ヲ生スルカ等ノ解說スルモノニアラス故ニ文書ト云フコト能ハス

（ホ）文字ノ附着ハ其時間ノ長短ヲ問フコトナシ只文書ノ功用トノ關係上相當期間附着シ得ルモノタルヲ以テ足レリトス

（ヘ）文書トハ附着セル文字ニモアラス其物品ニモアラス文字ノ附着セル其物品ヲ云フ

（ト）文書ハ其目的トノ關係上特定ノ人ニ對シ若クハ特定ノ人ノ表意タルコトヲ要ス其全ク特定的ナラサルモノハ文書タルコトヲ得ス但シ署名又ハ捺印ハ其要件ニアラス其文書ノ上ヨリ明示若クハ默示的ニ或ル特定人ニ關スル思想ヲ表示スルモノナラサルヘカラス

（チ）書類自体ハ或ル思想ヲ表示スルニ不充分ナルモ是レ一般通用ノ省略式ニ由レルモノナルトキハ亦文書タルコトヲ失ハス鐵道乘車券、略式入場券ノ如キ性質上此例ナリ但シ我現行法令ニ於テハ切手、印紙、貨幣、銀行券ノ如キ一定ノ紋章又ハ模樣ヲ要素トスルモノヲ文書ニ含有セシメサルカ如シ

（リ）文字以外ニ存スル周圍ノ狀況上或ル思想ヲ表示スル符號ハ文書ニアラス境界ノ標石ノ如キ是ナリ

（ヌ）圖畫ハ文書ナルヤ、形象文字ノ如キハ往々圖畫ト區別スルコト難キ場合アリ圖畫モ亦土地若クハ家屋ノ形狀ヲ示シツツ或ル思想ヲ明ニシ且ツ之ヲ說明ス可キ文字ノ加

ヘラレタルモノアリ刑法上之ヲ文書ト區別スルハ甚タ不當ノ結果ヲ生スト雖モ古來文書ト圖畫トハ其用語上劃然區別ヲ存シ之ヲ同一視スル亦甚タ難シ、然ルニ舊刑法ニハ是等圖畫ニ關スル規定ヲ欲如セルヲ以テ已ム無ク學者ハ文書ナル文字上或種ノ圖畫ヲモ包含スト說明シ旁法ノ不備ヲ補ヒシモノアレトモ純然タル圖畫（少シモ文字ヲ加ヘス單ニ圖畫ノミノモノ）ニ至リテハ遂ニ之ヲ包含セシムルコト能ハスシテ圖畫ノ僞造ニ至リテハ本章ノ罪ヲ以テ論スルニ由ナカリキ、新法ニ於テハ特ニ圖畫ノ文字ヲ加ヘテ文書ノ文字ト對立セシメ（第百五十五條以下）タルヲ以テ此ノ如キ圖畫ハ文章中ニ包含セストス可シ

卽チ「圖畫」トハ例ヘハ檢證證書ニ添附セル圖面又ハ町村役場ニ備付ケタル繪圖ノ如キモノニシテ圖畫自身ハ思想ヲ表示スルモノニアラスシテ單ニ時ト處トノ關係ニ於テ一種ノ思想ヲ觀念セシムルモノタルニ過キス

文書ノ種類ハ諸方面ヨリ之ヲ區別スルコトヲ得ヘキモ暫ラク刑法ノ規定ト關聯シテ之ヲ見ルニ

（一）詔書其他ノ文書

（二）公文書

（三）私文書

ノ三種トスルコトヲ得ヘシ詔書其他ノ文書ハ第百五十四條ニ於テ之ヲ規定シ公文書ハ第百五十五條、第百五十六條、第百五十七條ニ於テ之ヲ規定シ私文書ハ第百五十九條、第百六十條等ニ於テ之ヲ規定セリ、詔書其他ノ文書トハ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ作成スヘキ文書ナリ明治四十年勅令第六號公式令ヲ參照スルニ詔書、勅書、上諭、勅任以上ノ官記、其免官辭令、爵記、四位以上ノ位記、勳記、功記、國書、其他外交關係上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀、外國領事認可狀ノ如キ此例ナリ、官文書私文書ノ區別ニ就テハ種々ノ見解アリ其重ナルモノヲ擧クレハ或學者ハ曰ク文書ノ公私ハ其關係スル所ノ公法的ナルヤ私法的ナルヤニ由リテ定マル卽チ公務員カ國權發動ノ機關トシテ公法關係ニ於テ作成スル文書ハ公文書ニシテ公務員タルト私人タルトヲ問ハス其私法關係ニ於テ作成スルモノハ私文書ナリト元來公法ト云ヒ私法ト云フ其區別性質各人ニ由リテ同シカラス其採ル所ノ主義方針ニ從ヒテ其傾向皆異ナリ孰レヲ是トシ孰レヲ非トスルカハ漫リニ容易ク斷言ス可カラス只余輩ハ刑法ノ

規定ヲ説明スルニ當リ比較的便宜ナル解釋ヲ下シ公文書トハ公務員カ國權發動ノ機關トシテ公法上作成スル文書ノミナラス苟モ直接其職務ニ關シ作製スル文書ハ假令私法上ノ關係ニアルモ可ナリトナシ例ヘハ公務員ノ其官廳ヲ代表シテ一私人ト請負契約ヲ爲シタル場合ニ作製スル契約書ノ如キモ公文書ナリトシ一私人若クハ一私人ノ資格ニ於テ公務員ノ作製スル文書ハ私文書ナリトシ必スシモ理義ノ析辯ニ拘泥セサルヲ可ナリトス明治三十九年十一月二日ノ大審院判例ハ曰ク一ノ文書カ刑法第二百三條第二項ニ謂フ官ノ文書ナルヤ否ヤハ其作製者並ニ保有者カ官廳ナルト否トノミニ因リ決定スヘキモノニアラス尚ホ進ンテ其文書ハ官廳ノ所管事務ニ直接關聯スルモノナルヤ否ヤヲ究メサルヘカラス何トナレハ其作製者カ官廳ナリトスルモ其所管ノ事務ニ直接關聯セサルモノハ之ヲ官文書ト云フヲ得サルト同時ニ一方ニ於テハ一私人ノ作製シタルモノト雖モ官廳カ其所管事務ニ直接關聯スル文書トシテ之ヲ保有スルトキハ其官文書タルニ妨ナケレハナリ故ニ官ノ文書ナル事實ヲ確定スルニハ一ノ文書カ官廳ニ依リ作製セラレタル事實又ハ其保管者カ官廳ナル事實ノ外尚ホ其文書ハ官廳所管事務ニ直接關聯シテ作製シ又ハ保有セラレタル事實ヲ認メサルヘカラス今本訴官文書毀棄ノ案件ニ於テ原院カ官文書ナリト認メタル押收第一號局報ナルモノノ作製者ハ東京稅務管理局ニシテ同局カ其作製權限ヲ有シ谷村稅務署カ之ヲ保有スルコトハ疑ナシト雖モ同局報カ官ノ文書タルコトヲ判決スルニハ尚ホ進ンテ同局報ノ包有スル各文書カ直接同局ノ所管事務ニ關聯スルモノナルヤ否ヤヲ究メサルヘカラス依テ同局報綴ヲ査閲スルニ其幾部ハ同管理局カ其所管事務ニ關シ管區內ノ各稅務署ニ爲シタル訓示ノ類ニシテ官文書ナリト認メラルルモ其他ノ部分ハ法令トシテ他ノ官廳カ發布シタルモノノ中所管事務取扱上參照スヘキモノヲ拔集シ之ヲ印刷ニ附シタルモノ卽チ法令ノ謄寫ニ外ナラスシテ同局ノ所管事務ニ關聯シ作製セラレタル文書ニアラサレハ元ヨリ官文書ト稱スヘキモノニアラス（一部分ハ固ヨリ官文書ナリ）ト云ヘルハ參照トナスニ足レリ

尚ホ公文書ニ關シ説明スヘキハ

イ、公文書ノ單純ナル寫（抄本謄本タル旨ノ公證ナキモノ）公務所ニ保存スル一私人ノ作成セル文書ハ所管事務ニ直接關係ナキ以上ハ公文書ニアラス

ロ、第百五十五條ノ下ニモ説明セルカ如ク公文書ハ公務員ノ權限ニ隨ヒ又公文書タルノ形式ヲモ具フルヲ必要トスルモノナレトモ苟モ人ヲシテ公文書タルコトヲ信セシムル

ニ足ルモノタル以上ハ假令輕微ナル形式ヲ缺キ若クハ多少其權限ヲ超逸セルモノト雖モ可ナリトス（反對說アリ）

ハ、公務員ノ職務上作成シタルモノナル以上ハ一私人ノ依賴ニ基クモノト雖モ可ナリ例ヘハ電報ノ如シ

ニ、苟モ公務ニ關スルモノナル以上ハ權利義務又ハ事實證明ニ供スル文書ナラサルモ又外部ニ對スル交通文ナラサルモ亦可ナリ

私文書トハ公文書ナラサル文書ニシテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書タルモノヲ云フ私圖書亦然リ尙ホ委任狀ニ就テハ明治二十九年大審院判決錄第十卷案內狀及添狀ニ就テハ三十六年判決錄第三六七頁登記申請書ニ付テハ三十六年判決錄第六二九頁後見人並ニ後見監督人ヲ選定シタル親族會決議書ニ付テハ三十七年判決錄第一一六一頁養子緣組屆書ニ付テハ三十七年判決錄第一三二七頁假住所屆出ニ付テハ三十八年判決錄第一〇三九頁ヲ參照スヘシ

苟クモ權利義務ニ關係アル書類ナル以上ハ其私法上タルト公法上タルトヲ問ハス又判例ニヨレハ（明治二十七年判決錄第二〇二八頁）文書ノ性質上獨立シテ權利義務關係ヲ證明シ得サルモノハ權利義務ニ關スル證書ニアラスト云フト雖モ他トノ關係ニ於テ文書タルコトヲ得ヘキモノ例ヘハ僞造セラレタル債權讓渡證書卽チ無效ナル意思表示ヲ記載シタル書類ノ如キモ事實證明ニ關スル文書トシテ其文書以外ニ存スル事實ノ證明ニ供セラレ直接間接ニ權利義務其他ノ法律關係ニ影響ヲ及ホスモノナリ

官吏カ所持スル官給ノ手牒ハ公文書ナルヤ否ヤ、思フニ所論ノ手牒ハ所持者ノ自由ニ處分スルコトヲ得サル性質ノモノニシテ執務ニ關スル事項ヲ記入スヘキモノタリ其事項ハ當該官吏ノ執務ニ關シテ重要ナル參考トナルヘク且ツ其記載事項ニ就テハ當該長官ノ任意監視スル所ニシテ所持人ハ擅ニ私事ヲ記シ若クハ執務ニ何等關係ナキ事項ヲ記載スルコトヲ得ス其公文書タルコトハ勿論ナリ尙ホ之ニ付テハ明治四十一年六月二十九日ノ大審院判例ヲ參照スヘシ曰ク軍隊手牒ハ被服給與履歷賞罰等ノ事項ヲ記載スヘキ官給ノモノニシテ名義人ノ自由ニ處分スルコトヲ得サルモノナリ而シテ其履歷等ヲ記入スルハ總テ曹長ノ職務ニ屬シ名義人カ擅ニ自記スルコトヲ得サルモノトス（右記入カ曹長ノ職務タルコトハ陸軍ノ法規上特ニ徵スヘキ明文ナシト雖モ右ハ陸軍ノ慣例ニシテ其曹長ノ職務タルコト毫モ疑ナキ所トス）左スレハ被告カ擅ニ手牒履歷ノ部ニ「明治三十八年九月

二日任歩兵伍長」トノ文字ヲ自記シテ實際ニ其事實ナキニ拘ハラス恰モ伍長ニ進級シタルモノノ如ク裝ヒタルハ卽チ被告カ曹長ノ資格權限ヲ冒シテ斯ル記入ヲ爲シタルモノニシテ其所爲文書ノ信用ヲ害スヘキモノタルコト論ヲ俟タス而シテ被告カ之ヲ村役場ニ提出シタルハ卽チ僞造ノ官文書ヲ行使シタルモノナレハ云々

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シ又ハ僞造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ（舊刑法第百九十四條、第百九十七條、第二百二條第一項）

本條第一項ハ詔書其他ノ文書僞造罪ヲ規定シ第二項ハ詔書其他ノ文書變造罪ヲ規定セリ

「御璽」トハ天皇ノ御印ヲ奉稱ス

「國璽」トハ大日本帝國ノ印章ヲ云フ

「御名ヲ使用シ」トハ天皇ノ御名ヲ不正ニ用フルコトヲ云フ

「詔書」トハ詔書、勅書、上諭等名義ノ何タルヲ問ハス天皇ノ御名ヲ以テ調成スヘキ文書及ヒ調成シタル文書ヲ云フ「其他ノ文書」トハ例ヘハ外國ニ對スル國書、御親翰ノ如キ是ナリ

「行使ノ目的」トハ其文書ヲ或ル事項ノ說明トスルノ理由ニ出ツルコトヲ云フ、獨逸ノ刑法學者ハ文書僞造罪ノ場合ニ於ケル文書ナル文字ヲ非常ニ廣義ニ解シ證據物ノ義トスルモノ多シ然レトモ我國ニ於テハ斯ク廣義ニ說クコト穩ナラス只「行使ノ目的」ヲ以テ證據用ニ供セン爲トノ意味ニ說クヲ以テ當レリトスヘシ故ニ始ヨリ行使ノ目的無カリシ場合ハ其文書カ後ニ至リ偶或ル事項ノ證據ノ用ニ供スルニ足ルニ至リシ場合ト雖モ本條ノ罪ヲ構成スルコトナク又行使ノ目的已ニ存ストセハ其文書カ實際上證據力ナキモノタリシ場合ト雖モ尙ホ本罪ヲ構成セリトス可シ（反對說アリ）

「僞造」トハ新ニ眞正ノ文書ニ摸擬セル文書ヲ作成スルコトヲ云フ

「變造」トハ已ニ存スル眞正ノ文書ヲ材料トシ其內容ヲ增減變更スル等ノ手段ニヨリ之ヲ改ムルコトヲ云フ仍ホ前章僞造變造ノ說明ヲ參照セラル可シ要スルニ何レモ權限ナキモ

ノカ惡意ヲ以テ他人ノ文書ヲ作成スルモノナリ卽チ

イ、印章、署名及ヒ文辭ノ全部ヲ作成シタルトキ

ロ、眞正ナル文書ノ作成人ノ署名ヲ更改シテ或ハ第三者ノ名ヲ署シ或ハ第三者ノ署名ヲ

モ附加スルカ如キ

ハ、眞正ナル印章、署名又ハ第三者ノ僞造シタル印章、署名ヲ利用シテ文書ノ內容ノミ

ヲ全然僞造シタルトキ

ノ如キハ僞造ノ塲合ニシテ

他人ノ眞正ナル文書ヲ變更シテ不眞正ナル文書ヲ作成スルカ如キ

ハ變造ノ例ナリ此塲合ニ於ケル變造僞造ノ區別ハ本來ノ文書ノ效力ヲ全部更改シタルヤ否ヤ換言スレハ本來ノ文書ノ本實ヲ更改シタルヤ否ヤニ存シ其本質ノ更改アリシヤ否ヤハ當該文書ノ本体的事項（例ヘハ署名、印章等鐵道乘車券ノ日附三十四年一月二十九日ノ判例）ヲ變更シタルヤ否ヤニアリトス

（參照）明治四十年六月八日大審院判例

原院ハ被告等カ出納簿中支拂命令檢印欄ニ僞造若クハ虛僞ノ各領收證ノ金額ニ付支拂命令發布ニ代ハル被告牛島政爲ノ檢印ヲ押捺シ以テ出納簿中支拂命令檢印欄ノ部分ヲ僞造シタル事實ヲ認定シタリ而シテ右ノ事實ハ一見スレハ檢印欄ニ檢印ヲ押捺シタルノミニシテ文書ヲ作成スルモノニアラサルカ如シト雖モ出納簿中ノ支拂命令檢印ナル記載及ヒ支拂フヘキ金員費目ノ記載ト檢印ト相俟テ各領收證ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ命令シタル旨趣ノ文書ヲ成スモノナレハ原院ノ出納簿中ノ檢印欄ニ牛島政爲ノ檢印ヲ押捺シ以テ支拂命令（各領收ノ金額ニ付）發付ニ代ヘテ之ヲ行使シタル所爲ヲ公簿卽チ公文書僞造行使罪ナリト爲シタルハ固ヨリ當然ニシテ刑法第二百三條第一項第二百五條第一項ヲ適用シテ處斷シ且同法第四十三條第一號第四十四條ニ依リ同出納簿中支拂命令檢印欄ヲ沒收シタルハ何レモ相當ニシテ云々

又明治四十年十二月二十日ノ判例ニ

原判決ニ依レハ本件包裝紙及ヒ效能書ハ「守田治兵衞名義ノ寶丹ハ文久二年發明ノ良劑ニシテ之ヲ服用スレハ諸病ニ靈驗アル旨」ヲ記載セル文書ニシテ之ヲ僞造行使シタル被告ノ所爲ハ則チ私文書僞造行使罪ヲ構成シ商標法違犯ノ所爲トハ全ク法益ノ侵害ヲ異ニセル一箇獨立ノ犯罪ナルヲ以テ商標法違犯ノ所爲ニ付被告ハ假令ヒ被害者ノ告

訴取下ニ依リ豫審免訴ノ言渡ヲ受ケタリトスルモ之レカ爲メ私文書僞造行使罪ノ責ヲ免ルヘキ謂ハレナキヲ以テ云々

直接ト間接トヲ問ハス苟モ權利義務ニ關係アル文書ハ刑法第二百十條第一項ニ所謂權利義務ニ關スル證書ニシテ同條第二項ハ權利義務ニ關係ナキ文書ニ關スル規定ナリトス而シテ本判決ニ依レハ本件效能書及ヒ包裝紙ハ被告忠太郎上告趣意書……ニ對シ既ニ說示シタルカ如キ趣意「守田治兵衛名義ノ寶丹ハ……」ヲ記載セル文書ニシテ權利義務ニハ何等關係ナキモ美術ニ屬スル書畫ノ如キモノト同一視スヘキモノニアラサレハ原院カ之ヲ僞造行使シタル被告ノ所爲ヲ刑法第二百十條第二項ニ問擬シタルハ法則ノ適用ヲ誤リタルモノニアラス

本條ノ罪ノ構成條件トシテ行使ノ目的アルコトヲ要シ僞造變造ノ行爲アルコトヲ要スルハ條文ノ示スカ如ク別ニ說明ヲ要セス只一言注意ス可キハ

本條第一項ハ詔書其他ノ文書僞造罪ヲ規定シ更ニ第一段ハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル罪、第二段ハ行使ノ目的ヲ以テ僞造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル罪ヲ規定シ第二項ハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽ヲ押捺シ、又御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造スル罪ヲ規定シタリ

最後ニ一般ニ說明ス可キハ印若クハ印章トハ印顆ヲ指セルモノナルカ印影ヲ指セルモノナルカ(璽又然リ)若シ前者ナリトセハ印影ヲ模造シテ本條第一項ノ如キ罪ヲ犯スモノヲ罰スルコト能ハス若シ後者ナリトセハ押捺ノ文字ト衝突スル所アリ何レノ解釋ヲ採ルヘキカハ多少ノ疑問ナキ能ハスト雖モ余輩ハ刑事政策上ノ理由ヨリ寧ロ二者ヲ竝合スルモノナリト解釋セント欲ス印影說ハ理論上有力ナリ

本罪ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ犯シタル者ニモ適用セラル(第二條)蓋シ其影響スル所甚タ大ナルヲ以テナリ第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ニ就テモ亦同シ(第二條)

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務

所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第百九十五條、第百九十七條、第二百三條第一項）

本條ハ所謂公文書ノ僞造變造罪ヲ規定セルモノナリ

公文書ニ付テハ既ニ説明セル所ノ如シ只問題トナル可キハ一私人ノ作成シタル文書ニ官吏又ハ公吏カ奥書ト稱スル方法ヲ以テ證明ヲ與ヘタル文書カ其全部ニ於テ公文書ナルヤ或ハ其奥書ノ部分ノミ公文書ナルヤ是ナリ余輩ノ信スル所ニ由レハ其奥書ナルモノハ其文書全部ニ對シテ不可分ノ關係ニアリテ之ヲ分離スルトキハ何等ノ用ヲモ爲スモノニハアラス故ニ其全部ヲ以テ公文書ト爲ス可キナリ、且ツ公文書トハ其全部私人ノ作製セルモノナリト雖モ一旦之ヲ公署ニ提出シ公署ニ於テ相當ノ標記ヲ表シテ保管存置セルモノヲモ之ヲ含ム例ヘハ民事訴訟當事者ノ提出シテ記錄ニ添附セル文書圖畫ノ如キモ公文書タル姓質ヲ帶フルニ至ル場合多シ

公文書トハ已ニ説明セル如ク公務員カ其職務ニ關シテ作製スルモノヲ云ヒ公文書圖畫ハ多クノ場合ニ於テ其程式ヲ定メラル或ハ法令ニ因リ或ハ慣例ニ因リ或ハ令、達其他ノ內規ニ因ルアリ其程式ノ定メラレタルモノト否トニ係ラス其職務ニ關スルモノタルヲ要スルカ故ニ其程式ノ定メナキモノニ付テハ苟クモ人ヲシテ公文書タルコトヲ信セシムル程度ニ至ルヲ以テ足リ其程式ノ定メアルモノニ付テモ人ヲシテ相當權限アル公務員ノ作製セルモノト信セシムルヲ以テ足レリトス可ク必シモ全部其程式ニ遵據スルヲ要セス只其眞物ニ酷似スルヲ以テ足レリトス全然程式ニ依リテ作製セルモノヲノミ含ムト解スルハ誤ナリ今判例ニ因リテ之ヲ例述センニ

各國現今ノ法制ニ於テハ稅金徵收官吏ト稅金收入官吏トハ各相獨立シテ特殊ノ資格ヲ有スルモノトナシ稅金徵收ノ官吏ニハ其領收ノ權限ヲ與ヘス又收入官吏ニハ徵收ノ權限ヲ

與ヘス二者ノ間劃然タル分界ヲ設ケ互ニ其權域ヲ侵スコトヲ得ス、而シテ現行法上稅務署長ハ稅金ノ領收ノ職權ヲ有スレトモ署長トシテノ資格ノ本ニ當然之ヲ有スルニアラスシテ署長タル資格ノ外ニ更ニ收入官吏タル資格ヲ附與セラル、カ故ニ之ニ依リ始メテ收入ノ事務ヲ行フ者トスサレハ稅務署長ハ署長トシテハ稅金收入ノ權限ナク又其收入官吏タル資格ニ於テハ稅金徵收ノ權限ナシ故ニ若シ以上ノ兩個ノ稅務ニ關シ其職權ニ相當スル資格ノ表示ヲ誤ルトキハ其行爲ハ違法ニシテ從ツテ之カ爲メニ作成シタル文書モ亦其效力ヲ有セス、然レトモ官文書僞造罪ハ僞造文書カ人ヲシテ權限アル官吏カ正當ニ作成シタルモノト信セシムル程度ニ達スルヲ以テ足リ必シモ之ヲ眞正ノ文書トシテ法律上ノ效力ヲ有セシムルモノナルコトヲ要セサルカ故ニ右稅務署長カ署長タル資格ヲ以テ作成シタル無效ノ稅金領收證ヲ僞造行使シタル行爲モ亦僞造罪ヲ構成スルヲ妨ケス云々

ナホ文書僞造罪全部ニ關聯シテ說明スヘキコトアリ卽チ貨幣ノ場合ニ於テ多クハ摸擬スヘキ眞正ノ貨幣アルコトヲ要スルコト已述ノ如クナルカ文書ニ付テハ如何ニ之ヲ解釋スヘキカ、蓋シ文書ハ貨幣ノ如ク其態樣簡單ナラスシテ種々ノ事項ニ關シテ千態万狀限リナシ故ニ其果シテ摸擬セラルヘキ眞正ノ文書アルヤ否ヤヲ知ラサルモノ多ク或程度ニ進ミタル僞造變造文書ヲ以テ直ニ眞正ノモノト信了スル場合多シ然ルニ其人ヲシテ信了セシムル狀況サマテ異ナラサルニモ拘ハラス摸擬スヘキ文書ノ有無ヲ以テ直ニ僞造變造罪ノ有無ヲ決セントスルハ餘リニ形式ニ拘泥セルモノト云ハサルヘカラス故ニ余ハ反對說ノ有力ナルモノアルニモ拘ラス摸擬スヘキ文書ナキ場合ニ於テモ僞造變造罪ノ成立スル場合無キニアラサルコトヲ信セントス

尙ホ文書作成者ノ名義ヲ僞ル場合モ僞造ニシテ文書ニ記載セラレタル作成名義人カ恰モ之ヲ作成シタルモノナリト人ヲシテ信セシムル体裁ヲ有スルモノナル以上ハ假想ノ人タルモ死者ナルモ可ナル場合亦之ナキニ非ス

「行使ノ目的」トハ已ニ說明セル所ノ如シ仍ホ本條ニ關シテ詳言スレハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ或ハ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書又ハ圖畫ヲ僞造使用シテ或ル事項ニ關スル不正證據ノ資料タラシメ以テ事實ヲ扭曲セントスル如キヲ云フ

本條規定ノ罪ヲ分析說明センニ

第一項ハ(イ)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務員又ハ公務所ノ作ルヘキ文書又ハ圖畫ヲ僞造シタル罪及ヒ(ロ)行使ノ目的ヲ以テ僞造シタル

公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書又ハ圖畫ヲ偽造シタル罪ヲ規定シ

第二項ハ(ハ)行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪、第三項ハ(二)行使ノ目的ヲ以テ前二項以外ノ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務員又ハ公務所ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル罪ヲ規定シ公務所若クハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セサル偽造變造罪ナルヲ以テ前三罪ニ比シ其刑ヲ輕減セリ

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル(舊刑法第二百五條第一項、第二百六條)

「行使ノ目的」トハ例ヘハ會計官吏カ金庫ヨリ金錢ヲ騙取スル目的ヲ以テ虛偽ノ支拂命令書ヲ作ルカ如キ是ナリ

「其職務ニ關シ」トハ公務員其職務上作成シ又ハ作成スヘキ權限ヲ有スルコトニ關セサル可カラス其職務ニ關セサル場合ハ本條ノ罪ヲ構成セス蓋シ公務員ト雖モ自己職權外ニ於テハ斯ル文書ヲ作成シ得サルモノナレハナリ例ヘハ行政官タル檢事カ判決書ヲ作ルカ如シ但シ他ノ罪ヲ以テ處罰サル可キハ勿論ナリ

「虛偽ノ文書若クハ圖畫」トハ不實虛構ノ事實ヲ記載スルモノヲ云フ例ヘハ有ヲ無トシ無ヲ有トシ或ハ自己ノ認定意見ニ關シ其眞意ニ反スル意見ヲ記載スルカ如キ是ナリ

「變造」トハ文書圖畫ノ內容ヲ增減變更スルコトヲ謂フコト已述ノ如ク稅務官吏カ故意ニ犯則酒ノ數量ヲ變更スルカ如ク苟モ變造ノ事實タニアレハ其動機原因ノ如何ヲ問ハス本罪成立スルモノトス

但シ公務員カ作成名義ヲ偽ルニアラスシテ作成者ト作成名義人ト同一ナル場合ノミ本條ノ適用ヲ受クルモノニシテ他ノ公務員ノ作成シタルモノヲ變造セル場合ハ前條ノ適用ヲ受クルモノト知ルヘシ

本條ハ舊刑法第二百五條第一項ニ所謂「官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ增減變換シ云々」ヲ修正セルモノナリ

本條ノ罪ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國ノ公務員ニモ之ヲ適用スルコトトナレリ(第四條)

第百五十七條　公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル

公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第二百十一條、第二百十四條）

文書僞造罪ノ學說上ノ用語トシテ有形ノ僞造、無形ノ僞造アリ

有形ノ僞造トハ資格ヲ僞リ若クハ既存ノ文書ニ變更ヲ加フルカ如キ文書ニ現ハレタル物質其自身ニ僞アルヲ謂ヒ無形ノ僞造トハ

（イ）自己ノ名義ヲ以テ自ラ指示事實ニ僞アル文書ヲ作成スルモノ、如キ（第百五十六條ハ此場合ノ一ナリ）

（ロ）資格アル者ニ虚僞ノ申立ヲ爲シ事實ニ相違シタル文書ヲ作成セシムルカ如キ

類ヲ云フ無形僞造ヲ罰スルヲ可トスヘキヤ否ヤニ就テハ是非ノ見解分レ獨逸ノ多數學者（例ヘハフランク、リスト）ハ文書ノ僞造ハ文書ノ作成者ノ氏名ノ詐稱ナリト解釋シ自己ノ氏名ヲ署スル場合ハ僞造ニ非スト說明セリ我國ノ判例亦區々タリ然レトモ文書僞造罪ハ其文書カ一種ノ證明力ヲ有シ信用ノ實害又ハ危險ヲ生スルノ虞ヲ罰スルモノナルヲ以テ無形僞造ト雖モ之ヲ罰セストスルノ理由ナシ本刑法ハ無形僞造ノ第一ノ場合ハ第百五十六條ニ於テ之ヲ罰スルコトヽ爲シ第二ノ場合ハ本條ニ於テ之レカ規定ヲ設ケタリ但シ所謂無形僞造ノ場合ハ此二場合ノミニ限ラスシテ記載文字ニ僞ナク唯其指示スル內容ニ僞アル場合ハ總テ之ヲ含ミ苟モ其證據ノ用ニ供スルコトヲ得ル書畫ナル以上ハ之ヲ罰スヘキモノト解釋スルヲ正當トス

上述ノ如ク本條ハ無形僞造ノ一種ヲ罰スル爲メノ新設ノ規定ニシテ併セテ舊刑法第二百十四條ノ規定ヲモ修正セルモノナリ

「虚僞ノ申立」ハ口頭ナルト書面ナルトヲ問ハス又直接ニナスト間接卽チ故意又ハ責任能力ナキ第三者ヲ介スルトヲ問ハス又申立ノ內容ハ申立人ノ資格氏名ニ關スルト意思表示ノ實質ニ關スルトヲ問フコトナキナリ故ニ他人ノ代理人タルコトヲ詐リ公證人ノ作成スル公正證書ニ署名シタルカ如キ固ヨリ僞造罪ヲ構成スルモノト云フヘシ

「公務員」ハ本條ニ於ケル當該公正證書、免狀、鑑札又ハ旅券等ニ記載ヲ爲ス可キ權限ア

ルモノタルコトヲ要ス例ヘハ稅務官吏ニ對シ人ノ身分ニ關スル出生、死亡、婚姻等ノ屆出ヲ爲スモ當該官吏ノ職務事項ニ非サルモノニ就テハ本條ヲ以テ論スルコトヲ得ス

「公正證書ノ原本」公正證書トハ公務員カ其管掌ノ事項ニ關シ法令ノ規定ニ從ヒ作成セルモノニシテ法令ノ定メタル程式ヲ具備シタル證據ニ關スル文書ヲ云フ例ヘハ公證人カ囑托ニ應シ作成シタル民事ニ關スル公正證書、登記官吏カ商業登記若クハ不動產ニ關スル權利ノ設定、保存、變更、消滅等ノ申請事項ヲ登記スヘキ登記簿、戶籍吏カ人ノ出生、養子、緣組、婚姻、離婚、離緣、死亡、失踪、隱居、後見、家督相續等ニ關シ屆出事項ヲ登記ス可キ身分登記簿ノ如キモノ是ナリ是等ノ文書ハ其記載事項ノ眞實ナルコトニ付キ反證ノ立タサル限リハ完全ナル證據力ヲ有ス但シ之ニ添附セル委任狀ノ如キハ公正證書ニアラス公正證書ノ原本トハ單ニ證書ノ本紙ノミナラス廣ク公務員カ申立ニ依リ作成スヘキ調書、公簿其他ノ公書等ヲ總稱スト解釋スルヲ要ス

免狀トハ法令ニ因リ一定ノ資格若クハ條件ヲ具備スルモノニ對シ公務所ヨリ一定ノ業務ヲ爲シ又ハ爲スコトヲ得ヘキ資格ヲ附與スル證書ヲ云フ試驗合格證書ノ如キ是ナリ

「鑑札」トハ法令ノ規定ニ因リ公務所ヨリ或ル一定ノ業務ヲ爲シ又ハ爲スコトヲ得ヘキコトヲ許可シタル鑑札ヲ云フ營業鑑札ノ如キ是ナリ

「旅券」トハ旅行セントスル者ニ對シ公務所ヨリ下附スル旅行免許券ヲ云フ外國旅行券ノ如キ是ナリ

第百五十八條

前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第二百二條第一項、第二百三條第一項、第二百四條、第二百五條第一項、第二百六條、第二百十一條）

本條ハ僞造、變造ノ公文書又ハ圖畫ノ行使罪ヲ規定セルモノナリ

舊刑法ニ於テハ其第二百五條ヲ除クノ外ハ總テ僞造變造ト行使ト相加ハリテ一罪ヲ爲スノ規定トナリ居タルヲ以テ他人ノ僞造變造シタル文書圖畫卽チ自己ノ僞造變造セサルモノヲ行使シタルモノハ如何ニ之ヲ處分スヘキヤハ非常ニ困難ナル問題タリキ而シテ之ニ關スル學者ノ見解亦歸一セス或ル學者ハ(イ)本問行使者ハ全ク僞造變造ノ行爲ヲ欲クモ

ノナリト雖モ同シク同一犯罪ノ實行ニ介入シタルモノナリ(ロ)僞造ノ行爲ト行使ノ行爲ト若シ二人以上異リタル人ノ手ニ分レタル場合ニハ恰モ一人ノ行爲トシテ時ヲ異ニシタルト同シク一ハ豫備ノ性質ヲ生シ他ノ一タル行使ハ之ヲ全部ノ實行ト看做サザル可ラザル性質ナリト論シテ有罪ヲ主張スレトモ附會ノ說ナリ法ノ明文上之ヲ無罪トセザルヘカラザリキ而モ其行爲タル本質上僞造變造罪ト異ナル所ナク之ヲ不問ニ附スルノ理由ナキヲ以テ本法ハ殊ニ本條ノ規定ヲ置クコトトセリ

故ニ一人ニシテ僞造、變造及ヒ行使ヲ爲シタルトキハ前諸條ノ罪ト行使罪トノ併合罪ナリトス

「行使」トハ其犯者以外ノ他人ニ表示スルコトヲ云ヒ苟モ其犯者ナラサル以上ハ犯人自己ノ訴訟代理人タル辯護士ニ表示スルモ已ニ行使セルモノトス

行使セリト見ル可キ既遂ノ時期ニ就テハ

甲、隔地者間ニ就テハ

(イ) 發信主義

(ロ) 到達主義

(ハ) 了知主義

ノ三說アリ

乙、非隔地者間ニ於テハ

(イ) 呈示主義

(ロ) 了知主義

ノ諸說アレトモ余輩ハ發信、到達又ハ呈示ハ未タ行使ノ事實ニ到ラスシテ未遂ノ狀態ニアルモノト信スルカ故ニ被行使者ノ當該文書圖畫ヲ閱了シ其內容ヲ知得シタル時ヲ以テ行使ノ既遂ナリト解釋セント欲ス

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第二百九條、第二百十條、第二百八條）

本條ハ私文書又ハ圖畫ヲ僞造變造シタル罪ヲ規定セルモノニシテ第一項ハ二種ノ僞造罪第二項ハ同シク變造罪、第三項ハ前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スルモノノ僞造變造罪ヲ規定セルモノナリ

「權利義務ニ關スル」トハ權利義務ノ發生、變更、消滅ニ關スルモノニシテ例ヘハ委任狀、遺言書、債權證書、受取書、保險申込書、債權讓渡ノ通知書、通帳等ノ類是ナリ

「事實證明ニ關スルモノ」トハ或ル事實ノ存在、不存在ヲ表示スルモノニシテ時ト處トノ關係ニ於テ事實ノ立證ニ供セラルルモノナリ勿論常時立證ノ用ニ供セラル可キモノタルヲ要セサルナリ例ヘハ姦通ヲ證明スル資料ノ一タル艶書ノ如キ是ナリ

「印章」ニ印顆、印影ノ二アルコトハ已述ノ如シ

仍ホ印章ニ就テハ第十九章ノ說明ヲ參照セラルヘシ

本條ニ關シテ問題トナルハ有名ナル「死者又ハ假想ノ名義ヲ以テ作成セル文書ニ付テハ本罪ヲ構成ス可キヤ否ヤ」是ナリ學者ノ所說モ歸一セス大審院ノ判例モ從來區々ニ分レ或ハ罪ヲ構成セスト云ヒ或ハ其日付ノ生前ナルカ死後ナルカニヨリ罪ヲ決ス可シト云ヒ或ハ世ニ存スル者ノ如ク信セシムルテ足ルヘキ場合ナレハ罪ヲ構成スト稱セリ余輩ハ私文書僞造變造罪ノ本質タル人ヲシテ其證據力ヲ信賴セシメテ不正ヲ働クモノニ對スル制裁ナルニ鑑ミテ苟モ他人カ見テ以テ眞正ノモノナリト誤信スルニ足ル可キ体裁ヲ具備スルモノタル以上ハ之ニ用ヰタル名義ノ眞ニ存在シタルヤ否ヤヲ問フノ要ナク只名義又ハ內容タル事實ノ虛僞タルモノアラハ足レリト信ス或ハ他人ト云フトキハ自己以外ノ人格者アルコトヲ前提シ公務所公務員ト云フトキハ實在ノ公務所又ハ職員アルコトヲ前提トスヘシト論スルモノアレトモ必シモ此ノ如ク狹義ニ解スルコトヲ必要トセス苟モ人ヲ如此人格アリ如此公務員アリ職員アリト解セシムルニ足ルモノニシテ爲メニ權利關係ニ影響ヲ及ホスヘキモノタラハ足レリ

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス（舊刑法第二百十五條）

「診斷書」トハ醫術上ヨリ判斷セル人ノ生理狀態ヲ證明スル證書ヲ云フ

「檢案書」トハ人ノ傷害又ハ變死ニ關シ醫師ノ作成スル意見書ヲ云フ

「死亡證書」トハ人ノ死亡ヲ證明スル證書ヲ云フ

本罪ハ單ニ公務所ニ提出ス可キモノニ付テノミ成立スルモノナルコト注意ヲ要ス

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第二百九條、第二百十條、第二百十三條、第二百十五條、第二百八條、第二百十一條、第二百十六條、第二百十七條、第二百七條、第二百十二條）

「行使」本條ニ於テ前數條ニ關聯シテ尙ホ行使ノ意味ヲ說明セン貨幣ニ關スル說明ト參照セラルヘシ卽チ行使トハ不眞正ナル文書ヲ眞正ナル文書ナルカ如クニ裝ヒ使用スルコトヲ云フ詳言スレハ文書カ僞變文書タルコト及ヒ其文書ニヨリテ不正ナル法律上ノ效果ヲ發生セントノ故意ヲ以テ文書ヲ使用スルナリ故ニ僞變文書ヲ眞文書ノ單純ナル寫ナリト稱シ若クハ僞變タルコトノ情ヲ知ラシメテ使用スルカ如キハ行使ト云フコトヲ得ス又僞變文書ヲ所持シ眞文書ヲ所持スルモノノ如クニ裝フモ未タ使用スルニ至ラサルモノハ是亦行使ニアラス然レトモ自ラ所持スルコトヲ主張シ或ハ他人ニ呈示スルノミヲ以テ直ニ文書ノ效果ヲ外部ニ發現シウル場合ニ於テハ主張、呈示其者ヲ以テ直チニ行使ト見ルコトヲ得ヘキモノトス　又僞變文書ニ確定日附ヲ受クル爲メ之ヲ公證人ニ提出シタル場合モ亦行使ト認メラルルモノトス明治三十八年十二月二十二日大審院判決ハ曰ク僞造變造ノ文書ノ行使ハ其證書元來ノ目的ニ從ヒ之ヲ使用シタル場合ノミナラス變造變造ノ文書ヲ以テ眞正ノモノトシ之ヲ他人ニ提出シ或ル證明ノ用ニ供スルニ於テハ文書ノ信用ヲ害スルノ點ニ於テハ書面記載ノ趣旨ニ從テ使用シタルト一般ナルヲ以テ刑法ノ所謂行使ノ事實アルモノトス而シテ被告カ本件ノ變造契約證書ヲ公證人ニ提出シ確定日附ヲ受ケ

タル行爲ハ證書面ノ義務者ニ對シ權利ノ存在ヲ證明シ其履行ヲ求メタルニアラスト雖モ公證人ニ對シ變造證書ヲ使用シ其證書ノ成立ヲ證明シタルモノナルヲ以テ其行爲ハ變造證書ノ行使タルヲ免レス

文書ノ行使トノヨリ生スル實害トノ關係亦大ニ注意スルノ價値アリ參照トシテ二三ノ判決例ヲ擧ケンニ明治三十五年四月二十四日ノ宣告ニ曰ク文書僞造行使ノ罪ヲ構成スルニハ其文書ヲ僞造行使シタルニ因リ他人ニ害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキコトヲ要スルモノニシテ他人名義ノ文書ヲ僞造行使スルモ其者ノタメ必ス利益ヲ生シ損害ヲ生スヘカラサルトキハ固ヨリ犯罪ヲ構成セサルハ明ナリ故ニ他人名義ノ文書ヲ僞造行使シタルノミヲ以テ常ニ犯罪アリト云フヘカラス云々三十七年二月八日ノ宣告ニ曰ク文書僞造ノ成立ニ必要ナル實害ナルモノハ必シモ僞造文書ニ於テ署名ヲ濫用セラレタル者ノ方面ニ於テ生スルコトヲ要セス署名者ノ方面ニ於テ實体上何等ノ損害ヲ生シ又ハ生スルノ恐レナキ場合ト雖モ其證書ノ提示ヲ受ケ之ヲ信シテ取引ヲ爲シタル第三者ノ方面ニ於テ損害ヲ生シ又ハ之ヲ生スルノ恐レアルトキハ文書僞造罪ノ成立ニ要スル實害ノ要件ハ具備スルモノト云ハサルヲ得ス且ツ所謂實害ナルモノノ性質ニ付キテモ其實害ハ必スシモ財產上ノ損害タルコトヲ要セス無形ノ損害モ亦其中ニ包含セシムヘク其損害ノ個人ノ私益ニ關スルト國家ノ公益ニ關スルトハ之ヲ問フコトヲ要セサルモノト論斷セサルヘカラス何トナレハ僞造文書ノ行使カ苟モ實際ノ取引上ニ於テ現ニ害惡ヲ生シ又ハ害惡ヲ隨伴スヘキ性質ノモノナルニ於テハ刑罰ノ制裁ヲ附シ之ヲ禁壓スルノ必要アリ其害惡ノ生スル方面其害惡ノ性質如何ハ之ヲ問フコトヲ要セサルハ敢テ說明ヲ要セサルナリ

以上ヲ以テ本章ニ關スル說明ヲ終レリ最後ニ參照ノ爲メ一二ノ問題ヲ解決センニ

（一）文書ノ僞造變造ハ文書自体ノ眞正ヲ摸擬變更スルニ因テ罪トナルカ或ハ文書ノ指定スル事項ノ眞正ヲ害スヘキ体裁アルニ因テ罪ト爲ルカ（例ヘハ一ヲ壹ニ改ムルカ如キ）

公私文書ニヨリ其解決ヲ分チ公文書ハ獨リ其文書ノ示ス事實ヲ證據立ツルノミナラス同時ニ其調成方法等カ職務ノ完全ニ行ハレ居ルヤ否ヤヲ示シタルモノニテ形式ヲ勵行スルモノナルカ故ニ文書自体ヲ變更スルモ罪トナリ私文書ハ之ニ反シ其指示事項ノ眞正ヲ害スヘキ体裁アルニ因ツテ罪トナルトノ說アレトモ余輩ハ更ニ他方面ヨリ解決シ兩者ニ通シテ苟モ行使ノ目的ヲ以テ或ル事項ニ關スル證明力ニ對シ增減變更ヲ及ホス場合ハ常ニ

罪トナルモノト立言セントス

(二) 僞造變造セル事項ハ如何ナル事項タルコトヲ問ハサルカ

其事項ノ主タル證明事項ナルヤ從タル證明事項ナリヤハ固ヨリ之レヲ問フコトナシ、其事項ノ文書ノ證明セントスルモノニ關係ノ有無ニヨリテ公私兩文書ニ分チテ解決ヲ下シ公文書ノ場合ニ於テハ此關係ノ有無ヲ問ハス罪トナルト解シ私文書ニアリテハ關係ノ存スル場合ニノミ罪トナルト說クモノアリ、其趣意ニ於テハ或ハ不可ナラサランモ余輩ハ寧ロ二者ヲ區別セス其何等關係ナキ場合ハ公私文書共ニ罪トナルコトナシト解スルヲ可ト信ス但シ公文書ニアリテハ其證明セントスル事項ハ私文書ノ如ク狹隘ナラス種々ノ方面ニ種々ノ效果ヲ及ホスモノナルヲ以テ私文書ニアリテハ何等其證明事項ニ關係ナキ性質ノモノト雖モ公文書ニ在リテハ或ル種ノ證明事項ニ關係アル場合多キノ差アルノミ

(三) 他人ノ爲メニ一定ノ行爲ヲ爲スノ權限アルモノノ如クニ其資格ヲ詐リ自己ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スル場合ハ之ヲ僞造ト云フコトヲ得ルヤ否ヤ

吾輩ハ積極說ヲ採ス之ヲ判例ニ徵スルニ人ノ死亡ニ際シ何等ノ遺言アラサルニ恰モ遺言ニ立會ヒタル證人ナルカ如ク其資格ヲ詐リ虛妄ノ事實ヲ記載シタル遺言證言ヲ作成スルカ如キ(明治三十四年大審院判例)又官吏公吏カ其職務上作成スヘキ文書ト雖モ虛僞ノ事項ヲ記載シテ一箇ノ文書ヲ作リタルトキハ其所爲ハ一個人カ官公吏タル記錄者ノ資格ヲ詐リ僞造文書ヲ作成シタルモノニ外ナラス從テ其所爲ハ官文書僞造罪ヲ構成ス(明治三十六年三月六日宣告)又三十六年七月七日ノ判例ニ曰ク文書僞造罪ハ他人ノ名義ヲ詐リテ文書ヲ作成スルニ因リテ成立スルヲ換言スレハ文書ヲ作成スルノ權限ナキ者カ其權限ヲ有スル者ノ資格ヲ詐リ文書ヲ作成スルニ於テハ文書僞造罪ヲ構成スルモノナリ故ニ或人カ一ノ文書ヲ作成シタル場合ニ其所爲カ文書僞造罪ヲ構成スルヤ否ヤハ其人カ文書作成ノ權限ヲ有スル作成者ノ資格ヲ僭稱シタルヤ否ヤニ因リテ定マルヘキモノトス是ヲ以テ他人ノ姓名ヲ署シテ他人名義ノ文書ヲ作成スルノ所爲ハ文書僞造罪ヲ構成スルハ勿論自己ノ姓名ヲ署シテ文書ヲ作成シタル場合ト雖モ他人ノ代表ナリト僭稱シ其名義ヲ以テ文書ヲ作成スルニ於テハ文書僞造罪ノ成立ニ必要ナル作成者ノ資格ヲ僭稱シテ文書ヲ作成シタル所爲アルモノト謂ハサルヘカラス

第十八章　有價證券僞造ノ罪

本章ノ講義ヲ爲スニ當リ一應有價證券ノ意義ヲ略述セン

有價證券ハ法律ニテ其意義ヲ示サスト雖モ普通ニ有價證券ト稱スルモノハ主トシテ證券カ權利若クハ法律關係ノ負擔者ナリトノ思想ニ出ツルモノナリ只權利若クハ法律關係トノ關係ニ至リテハ種々ノ學說アリ或ハ權利ハ證券ニ化体スト云ヒ或ハ有價證券ヲ債權ニノミ制限シ或ハ尙ホ之ニ株券ヲ加ヘ或ハ有價證券トハ指圖證券、無記名證券ノミナリトシ或ハ指名證券モ亦有價證券ノ一タリトナスモノアリテ學者ノ列擧スル所必シモ相一致セサルナリ獨逸ノブルンナー氏初メテ「有價證券トハ私法上證券ノ占有カ其證券ニ示ス所ノ權利ニ必要ナルモノナリ」ト稱ヘシヨリ學者多ク之ニ從ヒタリ尙ホ有價證券ノ觀念ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ種々ノ方面ヨリ之ヲ類別スレハ

甲、證券ノ占有ト權利ノ利用トノ間ニ存スル關係ノ淺深ヨリ之ヲ二ニ分ツ卽チ

（イ）絕對的有價證券トハ權利利用ノ方法如何ヲ問ハス皆證券ノ占有ヲ條件トスルモノ

（ロ）相對的有價證券トハ證券ノ占有カ權利ノ移轉ニ必要ナルモノニシテ記名式ノ株券ノ如キハ此例ナリ

乙、證券ニ表スル權利ノ內容ヲ標準トシテ之ヲ分テハ

（イ）物權的有價證券トハ物權的效力ヲ有スルモノニシテ陸上運送ニオケル貨物引換書、倉庫營業ニオケル預リ證券、海上運送ニオケル船荷證券是ナリ裏書ニ因リテ證券ヲ讓渡タルトキハ其證券ニ記載セル商品自身ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有ス

（ロ）債權的有價證券トハ債權的效力ヲ有スルモノヲ云フ

（ハ）團体證券トハ社員權ヲ以テ內容トスルモノニシテ株券卽チ是ナリ

丙、原因カ法律關係成立ノ要素ナルヤ否ヤニヨリテ之ヲ分チテ

（イ）不要因的有價證券

（ロ）要因的有價證券

ノ二トス原因ノ欠缺ニ關スル抗辯ヲ認ムルト否トニヨリ實益アリ

丁、證券ニ記載スル文言カ債務者ノ債務及ヒ證券取得者ノ權利ヲ決定スル效力ヲ有スルト否トニヨリテ之ヲ分テハ

（イ）證券的有價證券ト

（ロ）然ラサルモノ

ノ二トナス、證券的有價證券ニアリテハ證券ノ記載スル所ニ信頼シテ善意ニ之ヲ取得シタルモノハ其文言ニ從ヒテ權利ヲ主張スルコトヲ得、債務者ハ其文言ニ從ヒ責任ヲ負擔スヘキモノナリ證券ニ記載スル所ハ法律上眞正ナルモノニシテ偶事實ト符合セサルモ法律ニテ之カ反證ヲ認メサルナリ但シ證券ノ取得者カ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ハ此限ニアラサルナリ

戊、權利者指定ノ方法ニ由リテ之ヲ分テハ

（イ）記名證券

（ロ）指圖證券

（ハ）無記名證券

ノ三トナル

記名證券トハ證券發行ノ當時ニ於テ特定セル人ニ對シテ直接ニ履行ヲ爲ス可キヲ表示シタル證券ヲ云フ指圖文句ヲ記載セス又持參人又ハ所持人ニ履行ス可キ旨ヲ記載セサルモノハ皆ナ記名證券ナリ但シ權利ノ移轉或ハ證券ノ移轉ヲ認メサルニハアラス記名證券ニ表スル權利ハ特定人ト不可離モノト云フニハアラスシテ只權利所屬ノ變更スルコトヲ發行者ノ意思ニ本クモノニアラスト云フニ過キサルナリ指圖證券トハ指圖式ヲ以テ發行シタル證券ヲ云ヒ裏書ニヨリテ移轉スルコトヲ得ルモノナリナホ裏書ノ性質ヲ略言スレハ

（一）裏書性ハ發行者ノ意思ニ本ツク

（二）裏書ハ證券又ハ補箋ニ之ヲ爲ス

（三）裏書ハ權利若クハ證券移轉ノ形式ナリ

（四）被裏書人其權利ヲ行フニハ裡書ノ連續ヲ必要トス

（五）債務者ハ被裏書人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ抗辯ノ制限ヲ受ク

（六）裡書ハ證券移轉ノ物權的效力ヲ有ス（反對說アリ）

（七）最後ノ被裏書人トシテ證券ニ表示セラレタルモノト證券ノ呈示者ト同一人ナルヤ否ヤハ債務者ニ於テ之ヲ調査ス可シ

無記名證券トハ證券ニ權利者ノ何人ナルカヲフコトヲ指定セサル證券ヲ云フ其性質

ヲ略言スレハ

(一) 發行者ハ所持人ニ對シテ證券ニ定メタル給付ヲ爲スノ義務ヲ負擔ス

(二) 發行者ハ證券ノ所持人ニ給付ヲ爲スヲ要スルカ故ニ前者ノ人ニ本ツキテ生スル抗辯ヲ認メス

已、其他種々ノ點ヨリ觀察シテ之ヲ類別スルコトヲ得レトモ一々之ヲ擧ケス　例ヘハ單數有價證券、複數有價證券、金錢證券、物品證券、約束證券、委托證券等ノ如シ

民法第四百七十一條ニ規定スル甲又ハ所持人、甲又ハ持參人云々ノ形式ヲ以テ發行セル證券ハ所謂選擇證券ニシテ其性質ニ付キ之ヲ指名債券ノ一種ナリト稱スルモノ之ヲ無記名證券ニ關スル規定ニ從ハシムヘキモノトスルモノ等種々ノ說アレトモ余等ハ後段ノ說ヲ以テ正當ナリト信ス

尙ホ學者ノ資格證券ト稱スルモノアリ(レヂチマチヨンス、バピーア)債務者ハ此證券ニ付テハ資格ノ有無ヲ調査スルノ義務ナシ然レトモ單純ナル所持人ハ所持人トシテ給付ヲ請求スルノ權利ヲ有スルニアラス債務者ハ調査ノ權利ヲ有シ呈示者ニ對シテ其權利ヲ證明セシムルコトヲ得而カモ一方ニ於テ債務者ハ單純ナル所持人ニ辨濟スルコトニ因リテ免責ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ヘシ此種ノ證券ニハ有價證券ナルモノト然ラサルモノトアリ其區別ニ關シテハ一定ノ標準トシテ擧クルニ足ルモノナケレトモ一般ノ事情ニ本ツキ發行者カ證券ノ所持人ニ履行ヲ爲スノ義務ヲ負フノ意思ヲ以テ發行セルモノト認ムヘキモノナルヤ否ヤヲ以テ決スヘキモノトシ斯ク認メラルヘキモノハ有價證券トナスニ足ルナリ

以上ヲ以テ有價證券ニ關スル極メテ大略ノ說明ヲ終レリ

元來本章ノ規定ハ現行法ノ官文書僞造罪中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ摘出シ之ヲ合シテ一章トナシ修正ヲ加ヘタルモノナリ蓋シ此罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且ツ主トシテ直接ニ財產上ノ利益ヲ目的トスルモノナルヲ以テナリ而シテ其舊法ノ規定ト異ナル要點左ノ如シ

(一) 目的物ノ範圍ヲ擴張シタルコト

(二) 有價證券ノ僞造變造行爲ノミヲ以テ其成立要件トナシタルコト

是ナリ

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券

其他ノ有價證券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛僞ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

（舊刑法第二百四條、第二百九條）

「公債證書」トハ國家又ハ地方團体ノ發行スルモノニシテ債務ヲ表明スル證券ヲ云フ、公債ハ種々ノ方面ヨリ種々類別スルコトヲ得、或ハ發行者ノ國家ナルカ地方團体ナルカニ從ヒテ國債、地方債ニ分チ或ハ法規ヲ以テ債額、募集額及償還金高ヲ確定スルコトヲ得ルト否トニヨリテ確定公債ト然ラサルモノトニ分ツ確定公債ニハ一時拂公債、有期定額支拂公債、有期隨時支拂公債及ヒ永遠公債等アリ（整理公債條例參照）其他地ヲ限リテ募集スル特別募集公債アリ花籤ヲ設ケテ射倖的利益ヲ約スル所謂籤札付公債アリ

「官府證券」トハ主トシテ大藏省ノ證券ヲ指セリ但シ法人トシテ國ノ證券地方團体ノ證券ハ之ニ含有セス大藏省證券トハ明治十七年布告第二十四號（三十五年法律第一號ヲ以テ第三條及第四條ヲ改正ス）ニ依リテ發行スルモノニシテ會計年度內ニ於ケル一時ノ歲入不足ヲ補塡シテ國庫一時ノ融通ヲ全ウスル爲メ利付若クハ割引ニテ發行スル短期ノ證書ニシテ其表面ニ元金額ハ勿論償還期日及利子又ハ割引步合等ヲ記載シタルモノヲ云フ

「會社ノ株券」トハ會社ニ於テ發行スルモノニシテ資本ニ對スル株主ノ權利義務ヲ證明スル證書ヲ云フ（商法第百四十三條以下）

「其他ノ有價證券」トハ已ニ說明セルカ如ク例ヘハ運送狀、預リ證券、質入證券、船荷證券、爲替手形、約束手形、小切手等皆是ナリ其他性質上有價證券中ニ入ルヘキモノ多シ

「虛僞ノ記入」トハ其有價證券ニ記載ナキ虛構ノ記入ヲナスコトヲ云ヒ例ヘハ虛僞ノ裏書ヲナシ或ハ株券ノ信用ヲ增ス爲メニ取締役ニアラサル名望家ヲ取締役ト記入シ或ハ滿期日又ハ支拂保證人ノ記載ナキ爲替手形ニ之ヲ記入スルカ如キノ類ヲ云フ

舊刑法トノ差

（一）舊刑法ハ其第二百四條ニ於テ公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ官文書トシ第二百九條ニ於テハ爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ私文書トシタルモ本法ニ於テハ斯ル無用ノ區別ヲ廢シ且ツ一般ニ有價證券ニ關スル規定トナシタリ

（二）舊法ハ其第二百九條第二項ニ於テ手形證書ノ詐僞ノ裏書ヲ爲シタル場合ノミヲ規定セルモ本法ハ廣ク虛僞ノ記入ト規定シ其適用ヲ廣メタリ

本條ノ罪ハ信用ニ關スル重要ナル犯罪ナルヲ以テ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ犯シタル者ニ適用スルコトヽナレリ次ノ第百六十三條ニ付テモ亦同シ（第二條）

第百六十三條　僞造、變造ノ有價證券又ハ虛僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス（舊刑法第二百四條、第二百九條、第二百十一條）

通貨及證券摸造取締法（明治二十八年法律第二十八號）

第一條　貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條　前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條　第一條ニ揭ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條　第一條ニ揭ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

紙幣類似證券取締法（明治三十九年法律第五十一號）

第一條　一樣ノ形式ヲ備ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ一樣ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス

第二條　前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣直ニ其旨ヲ公告ス

禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無效トス

第三條　禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其證券ヲ沒收ス

禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條　禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニヨリ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及摸造ニ關スル制限（明治三十八年

三月二十日法律第六十六號）

第一條　流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官發行ノ證券ヲ僞造シ又ハ變造シタルモノハ重懲役又ハ輕懲役ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ輕懲役又ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條　流通セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若クハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條　情ヲ知テ僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ輕懲役又ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

收得シタル後其ノ僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條　第一條ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

述ヲ爲ス可カラサル義務ヲ有ス宣誓シタル證人トハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ重禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條　前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第八條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條　僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關ススル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百七十七號ハ之ヲ廢止ス

第十九章　印章僞造ノ罪

本法ニ於テハ僞造ナル一行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲スコトトシ殊ニ其使用ヲ俟ツコトナシ又更ニ進ンテ其僞造印ヲ使用シ文書ヲ僞造シタル場合ハ之ヲ文書僞造罪トシテ處罰スルコトトナシ單ニ印章ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造印ヲ使用スルモ未タ文書ヲ作製スルニ至ラサル場合ノミヲ本罪トシテ罰スルコトト爲シタリ

「印章」トハ法律上事實證明ノ資ト爲スヘキ特定ノ文字又ハ符號ヲ或ル物体ニ刻記セルモノ及ヒ之ヲ他ノ物体ニ押捺表現セル影蹟卽チ印影ヲ並稱スルモノナリ（第百五十四條ノ說明參照）但シ之ニ付テハ單ニ印顆ヲ指ストスル說ト印影ノミヲ指シ從テ印顆ノ僞造ハ印影僞造ノ豫備ニ過キサルモノトナス說トアリ我新刑法ハ印章ノ僞造ト署名ノ僞造トヲ同一ニ處分スルノミナラス之ヲ法文使用ノ意義ニ照シ又信用ヲ害スル方面ヨリ考フルモ寧ロ印影ノ僞造ノミト解スル後說ヲ理論上穩當ナリト解スヘキモ吾輩ハ政策上ノ必要ヨリ二者ヲ共ニ含ムモノナリト解ス（明治三十七年大審院判決例十二月二十三日）

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ僞造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ（舊刑法第百九十四條、第百九十七條）

「署名」トハ法律上事實證明ノ資ト爲スタメニ記載セル證明者ノ名義ニシテ證明者自ラ之ヲ署シタルモノヲ云フ尙ホ明治三年十二月二十二日布告、明治八年布告第四十四號、明

治三十二年法律第五十號、明治三十三年法律第十七號ヲ參照スヘシ

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公所務又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ（舊刑法第百九十五條、第百九十七條）

官吏公吏ノ用フル印顆カ私印ナルヤ職印ナルヤハ其用フル所ノ印顆ノ性質如何ニ依テ定ムヘキモノニシテ之ヲ押捺セル文書ノ性質ニ依テ定ムヘキモノニアラス故ニ被告カ戸籍吏代理森谷榮次郎ノ私印ヲ盜用シタル文書ハ假令ヒ公文書ナリトスルモ之レカ爲メ榮次郎ノ私印カ公印トナルヘキ理由ナキヲ以テ云々（明治三十八年十一月二日判例）又四十年五月三十日ノ判例ハ曰ク或印章ノ官印ナルカ將タ公印ナルカハ官廳ノ事務取扱ニ於テ使用スル印章ナルカ又ハ公署ノ事務取扱ニ於テ使用スル印章ナルカニ依リテ之ヲ定ムヘク其印章ヲ使用スル職務權限ヲ有スル者ノ官吏ナルカ又ハ公吏ナルカニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニアラサルヲ以テ從テ道廳府縣ナル行政官廳ノ事務取扱上使用スル印章タル本件蠶種ニ押用スル檢査合格ノ證印ノ如キハ蠶病豫防吏員タル公吏ニ於テ之ヲ押用シタル場合ト雖モ產物ニ押用スル官ノ印章ナリト云ハサル可カラサルヤ論ナシ況ンヤ蠶病豫防施行規則ニ於テ定メタル檢査合格證印ノ樣式ニ依レハ該證印ニハ道廳府縣ナル行政官廳ノ名稱ヲ表彰スヘキモノナルコトヲ示シアリテ右印章ハ其性質ニ於テ官ノ印章ニ屬スルモノナルコト益〻明ナルニ於テオヤ云々

同氏名ナル甲乙兩者ノ存在スル場合ニ乙者ノ印顆トシテ甲者ノ印顆ヲ濫用スルモ乙者ノ印顆盜用罪ヲ構成セサルハ勿論甲者ハ自己ノ名義ニ於テ其印顆ヲ濫用セラレタル事實ナケレハ甲者ノ印顆盜用罪ヲモ構成スルコトナシテフ判例アリ（三十九年三月十二日）

又本罪ト數罪トノ關係ニ就テハ「八名ノ押印アル一通ノ債權證書ニ虛僞ノ事項ヲ記載シ之ヲ行使スルハ集合セル八箇ノ印顆ニ對スル一所爲ナリトス故ニ其印ニシテ同一制裁ニ屬スルモノナルトキハ一箇ノ印顆盜用罪トシテ之ヲ處斷セサルヘカラス（四十年六月十日）トノ判例アリ

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ僞造シタル者ハ三

年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ（舊刑法第百九十六條、第百九十七條）

以上三條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項ノ未遂罪ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ犯シタルモノニモ之ヲ適用スルコトトセラレタリ（第二條）

「記號」トハ其押捺サレタル物ノ上ニ於ケル態樣位置ニ依リ特定ノ證明ヲ認識セシムル一定ノ文字又ハ符號ヲ云ヒ產物、商品、書籍等ニ押用スルモノナリ故ニ公文書ニ押捺シテ作成資格者自体ヲ表彰スル印章ト異ル、明治三十七年大審院判決例ニ曰ク刑法第百九十六條ニ「產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ僞造シ又ハ其ノ僞印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス」トアルヲ以テ官ノ記號印章ヲ施スヘキ物体カ產物ニシテ其記號印章ハ之レニ押用スルタメニ作成セラルルモノナル以上ハ其產物ノ天產物タルト人工ノ產物タルトニ論ナク又其記號印章ヲ押用スル所以ノ本來ノ目的ノ那邊ニ存スルニ係ラス之ヲ僞造シ又ハ其僞造印ヲ使用スルノ所爲ハ總テ同條ニ定ムル刑罰ノ制裁ニ服從スヘキモノト解釋セサルヘカラス何トナレハ刑法第百九十六條ハ前示ノ如ク概括的ノ文詞ヲ以テ「產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章云々」ト規定シ其產物ノ種類印章記號ノ效用如何ニ依リテ何等ノ區別ヲ爲サヽルヲ以テナリ而シテ本件ニ在テ被告カ盜用シタリト認メラレタル東京大林區署ノ檢字並ニ山字ノ兩印ハ何レモ二十四年農省務省令第八號ニ依リ山林樹木及其伐根ニ押用スルタメニ作成セラルヽモノニシテ山林ノ樹木ハ卽チ其山林ヨリ生スル天產物ニ外ナラサルヲ以テ之ニ押用スヘキ檢字山字ノ兩印ハ刑法第百九十六條ニ所謂產物ニ押用スヘキ官ノ印章タルノ性質ヲ有スルモノナルヤ明カナリ云々

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ（舊刑法第二百八條）

本條第一項ノ罪及ヒ同第二項ノ未遂罪ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用スル